

關西建築協會雜誌

第一輯第九号

大正七年六月十五日

關西建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ健實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ關西建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ設ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ貫徹シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其資行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ慶遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ノ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ノ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求ノ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會務ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一　名

二　計　一　名

三　編　輯　三　名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十二　理想的建築ノ計畫

第二十條　會員ハ會費年額金貳拾圓ヲ本會ニ據出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金貳圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

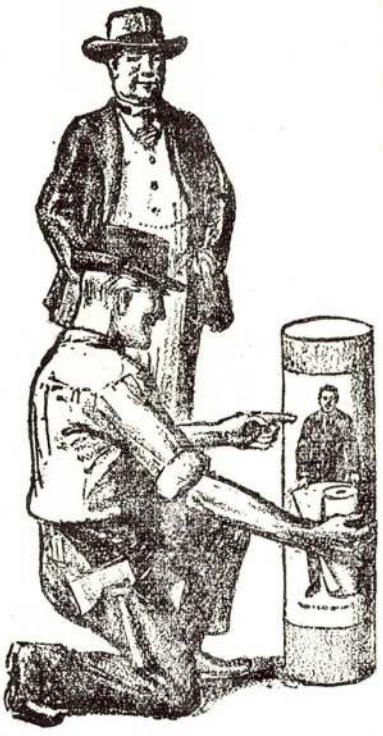
第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

Pronounced "RU" as in RUBY

RU-BER-OID

ROOFING

COSTS MORE - WEARS LONGER



Look for the man on the roll

There are two ways of telling the *real* RU-BER-OID from its 300 imitators:

1. Genuine RU-BER-OID has the "Ru-ber-oid Man" on the wrapper of every roll.

2. Genuine RU-BER-OIL gives long and satisfactory service.

Many RU-BER-OID roofs laid 20 years ago are still giving perfect service.

Genuine RU-BER-OID, made by the Standard Paint Co., contains no tar, sand, wood fibre, or other cheap substitutes that quickly wear out.

The safest way is to look for the RU-BER-OID Man on the roofing that *lasts*.

タービヤ

SPC式仕様陸屋根

良質材料 電話土佐堀一八四八 一四四一 三〇四四 速迅事工

株式會社明正社大阪支店建築材料部

大阪市西區靱南通三丁目 廉價低格 施工叮嚀

SPG式地下室谷樋

東京。大阪。神戸。門司。紐育。

ラバロイド

關西建築協會雜誌 第壹輯 第八號

目次

□繪
大阪市堺筋の高層建築(二色版)
紐育の市街觀(一)(二)(二頁大)
紐育の建築(一)(二)(三)(四)(五)(六)(七)(八)(九)(十)
都市建築の今昔(十三)

△大阪市街系統改正 …… 會員 片岡安 …… 一
△我國都市改良計畫の將來(下) …… 會員 片岡安 …… 二
△最近の大阪港 …… 大阪市役所 港灣部 …… 二〇
△都市計畫と市民的訓練 …… 會員 葛野壯一郎 …… 四一
△技術家とは何ぞや …… 大阪市役所港灣部長 直木倫太郎 …… 五〇
△本邦森林と建築用材に付いて(二) …… 會員 谷民藏 …… 五八
△都市と建築 …… 會員 都市研究生 …… 七三
□未來の紐育市街と第二築港計畫鳥瞰圖(挿繪) …… 巻頭
□世界的記錄を示す紐育の市勢 …… 巻頭
□都市計畫調査會成立の經過 …… 七九

□明暦三年江戸大火の記……八四
□明暦三年大火燒跡地圖（二頁大）……
△低廉なる職工住宅建築……會員　牛村喜勇　九〇
△日本の都市……會員　日高胖　九五
△亞米利加の田園住宅（一）……會員　谷本多喜治　九八
△亞米利加の花……會員　伊藤正文　一一〇
△赤阪大理石に就て……會員　T T生　一一六
□赤阪金生山と大理石工場（挿繪）……
△佛寺建築の將來（二）……會員　波江悌夫　一二六
△建築業協會の消息……一三三
△會報……一三七
△編輯たより……一四〇

附錄

△維納市建築條例（上）……一四頁
□維納市街地圖……

特許第七九三五號

大野式防火捲上ヶ戸

（特許大野式シヤッター）

開閉　戸を開くには極めて輕く捲上げ得べく、戸を閉すには把手を要せず只把手函表面の小蓋を半回轉する而已にて本品特殊の機構に依り自から靜穩に降下閉鎖す

自働　特に自働裝置を附したるものは火災に際し附近の氣溫稍々上昇する時は融金（ヒューズ）の融解に依り直ちに自働閉鎖す

構造　一分乃至六厘厚軟鋼板を用ひ鈑と鈑との繼目最も堅實にして且つ上方捲込口及び溝金と鎧戸の間隙殆ど無きを以て耐火力並に耐久力優秀なり

取付　如何樣の建物にても積込、後付、連窓、孤形窓、表裏兩把手等凡て取付簡易にして殊に把手函は隨意の場所に設くる事を得

信用　多年の經驗を有する事と漸次改良を加へたる事とに依り「內外國同種品中最も安心し得べきものなる事」は既に斯界の定論に有之候

最近御採用を蒙りたる建物の內重なる二三

東京帝國大學書庫　東京銀行集會所　東京建物株式會社　東京第一銀行增築　大阪三越吳服店
農商務省特許局　京都商業會議所　大阪東洋紡績會社　同　丁酉銀行本店　同　石原時計店
海軍省技術本部　橫濱取引所　同　藤田鑛業會社　大阪近江銀行本店　同稻畑染料商店
大阪控訴院　神戶日本郵船會社　同　古河合名會社　同三井銀行西支店　同日本棉花會社
警視廳防火設備　同　三井物產倉庫　神戶住友會庫　同　日本貯藏銀行　同窯業會社工場

火災の實例　數年前東京板紙會社工場燒失の際階上階下の間仕切に依り延燒を防ぎ又神田大火に東京瓦斯會社の木造石造倉庫は火焰に面せる十數箇の窓を悉く閉鎖して類燒を免かれ何れも其儘使用せられ居候

代價　材料の時價に依り變動有之候間乍御面倒御入用の都度壁內法寸法御申越被下見積方被仰付度尙ほ御建物の略圖御送附相願はれ候はゝ取付設計圖調製御覽に入れ可申候

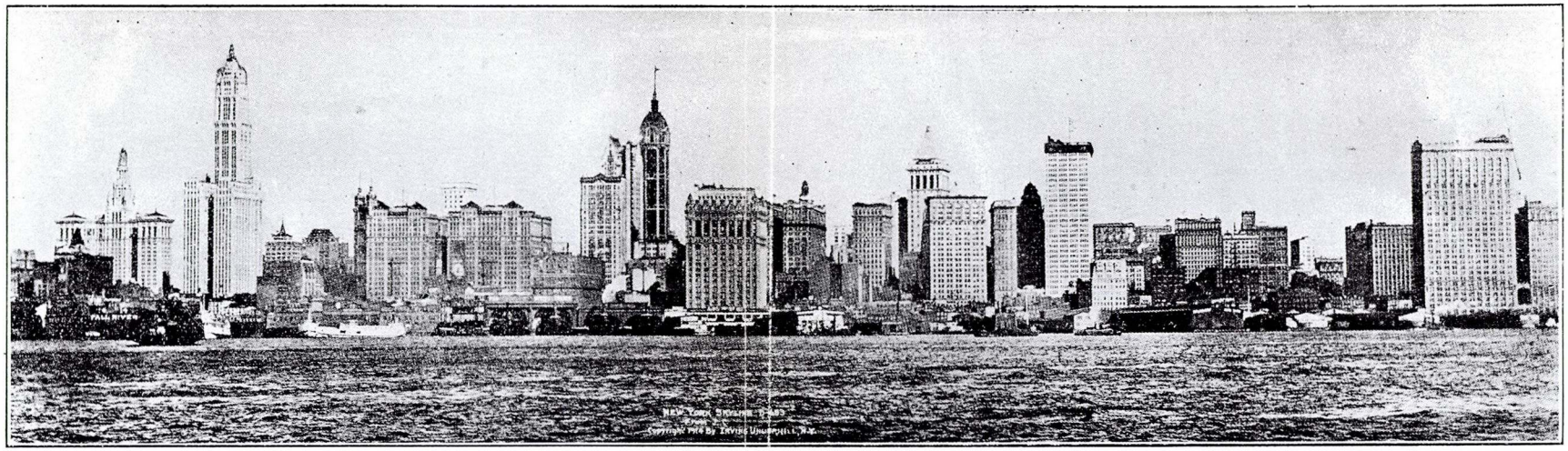
大野正營業所

東京市本鄕區弓町一丁目（電話小石川六二九番）

大阪市堺筋の高層建築



「中央の石造四層樓は三井銀行大阪支店にして右方に高き鐵骨七層の三越大阪支店なり」



紐育の市街觀（一）　ホドソン河の對岸より見たるマンハッタン區の偉觀

バンアーストカト建物
シンガー館
ホドソン終點驛建物
ウールウオート館
市廳舍



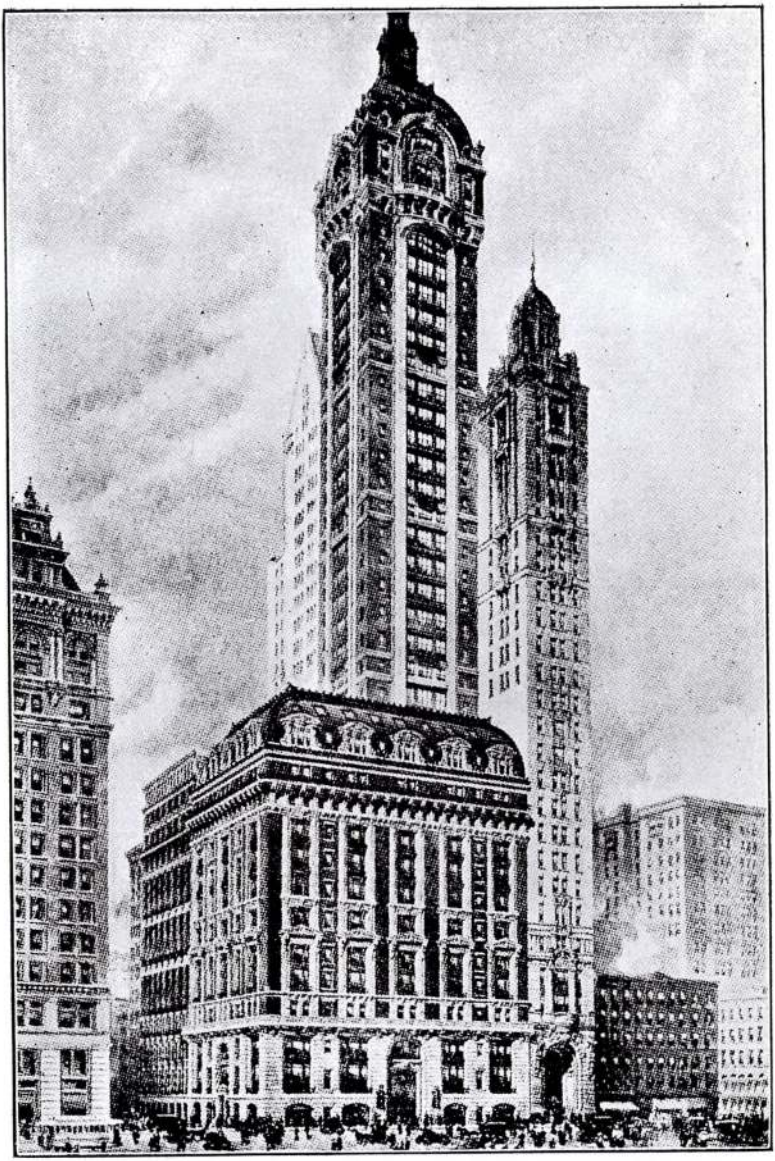
紐育市街觀（二）　マンハッタン區よりブルウクリンを見る鳥瞰圖（東河に架せる四大鐵橋を見よ）



紐育の建築（其の一）　紐育市廳舍

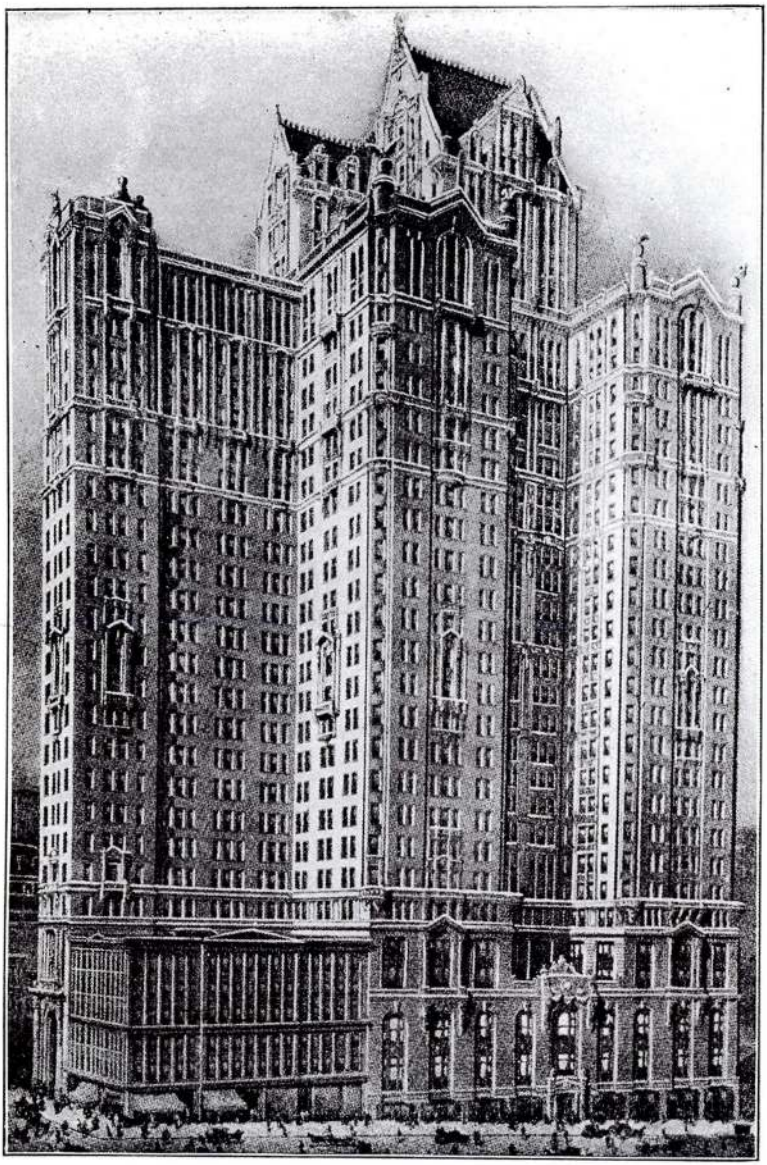
市公園に面し三十四階高五百八十尺にして地下二百六十尺に基礎を置く工費四千萬圓を要し一萬七千坪の床面積を有す．地下室は六線路の地下鐵道の停車場なり

紐育の建築（其の二）　シンガー館



ブロードー街にあり四十七階高六百十二尺な り．其床面坪約一萬二千坪五千の貸室を有す

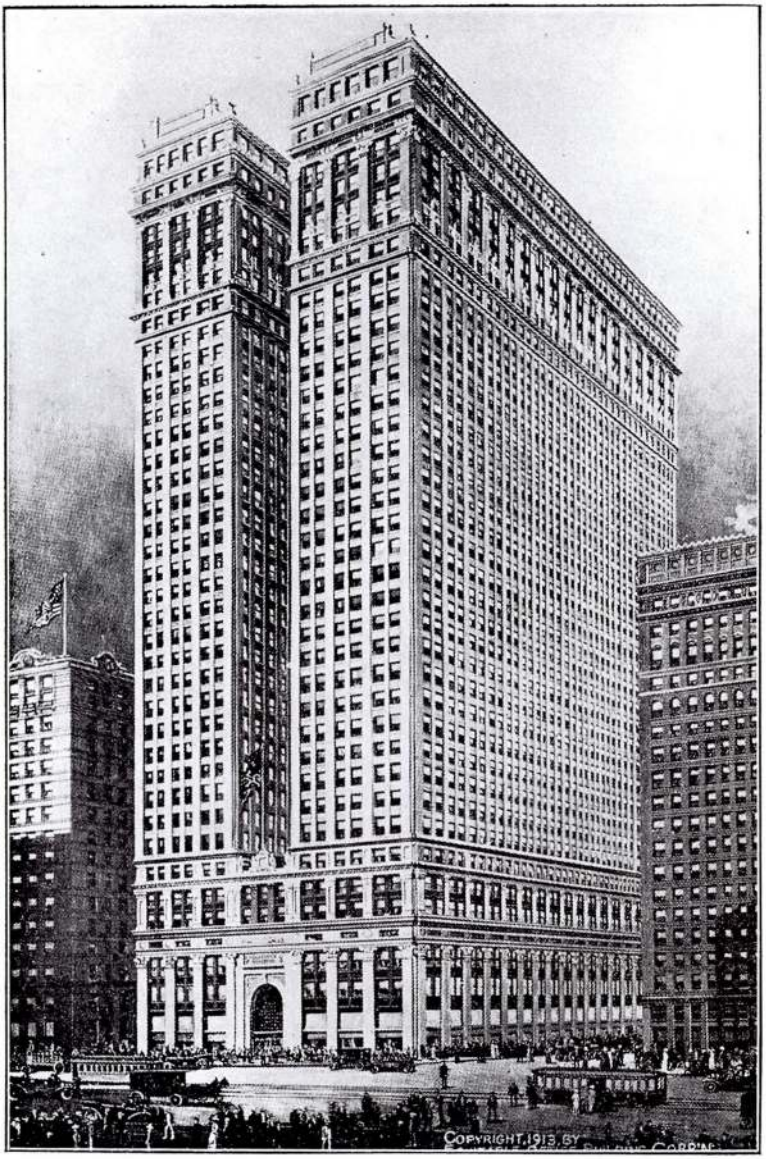
紐育の建築（其の三）　シチイ、インベスチング館



ブロードウ街にあり三十四階高四百八十六尺な
りて六千の貸室を有す

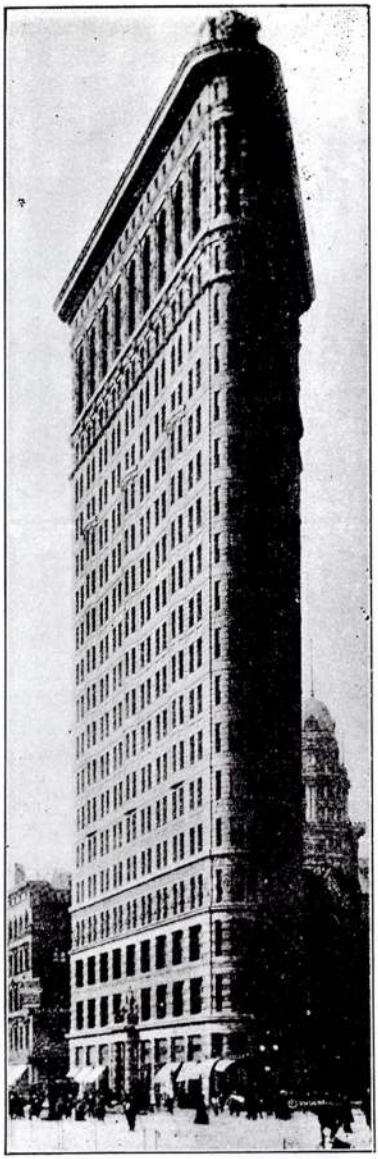
紐育の建築（其の四）

エクキテーブル生命保險會社建物



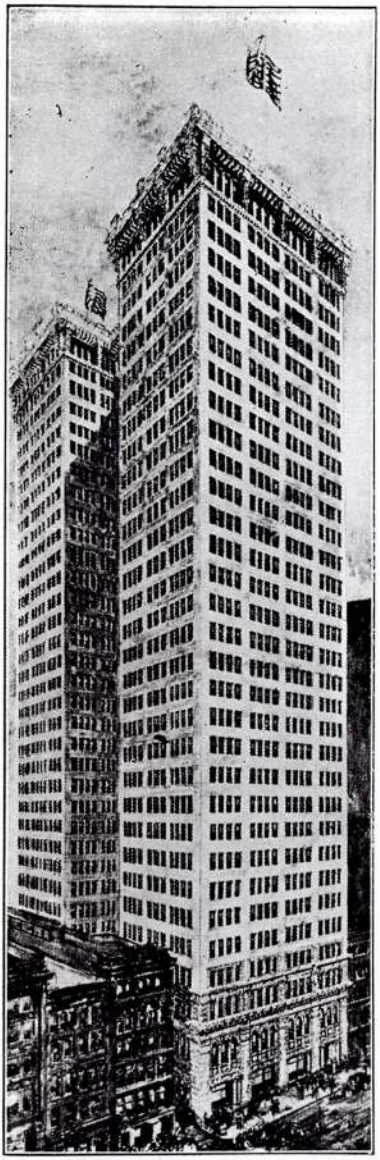
ブロードウェー街にあり工費五千八百萬圓を要したる大建築にして其床面積は五萬五千千坪を算し三十八階四十八箇の昇降機を備ふ

紐育の建築　（其の五）　フラット・アイヨン館



プロードウ街と第五街に面す高さ三百尺紐育の鐵骨高層建築の先驅としても著名なり

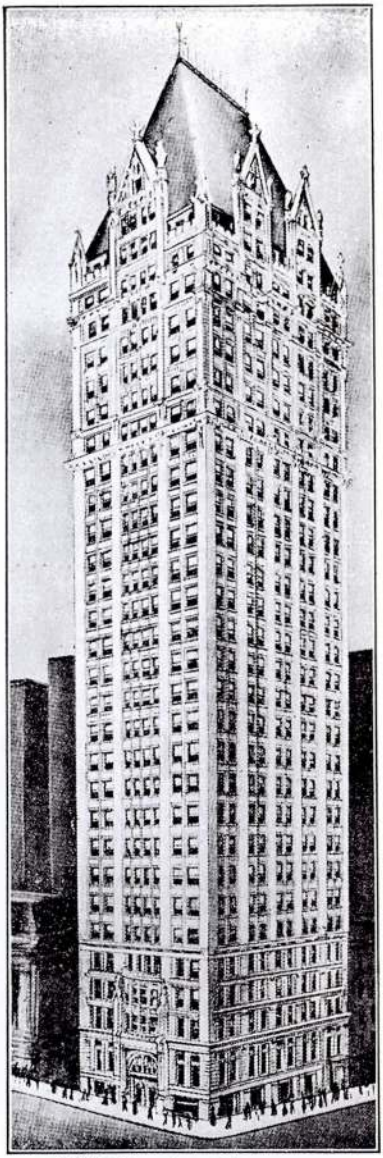
紐育の建築　（其の六）　アグルス館



プロードウ街にあり三十二階高さ四百尺紐育の鐵骨高層建築の先驅としても著名なり

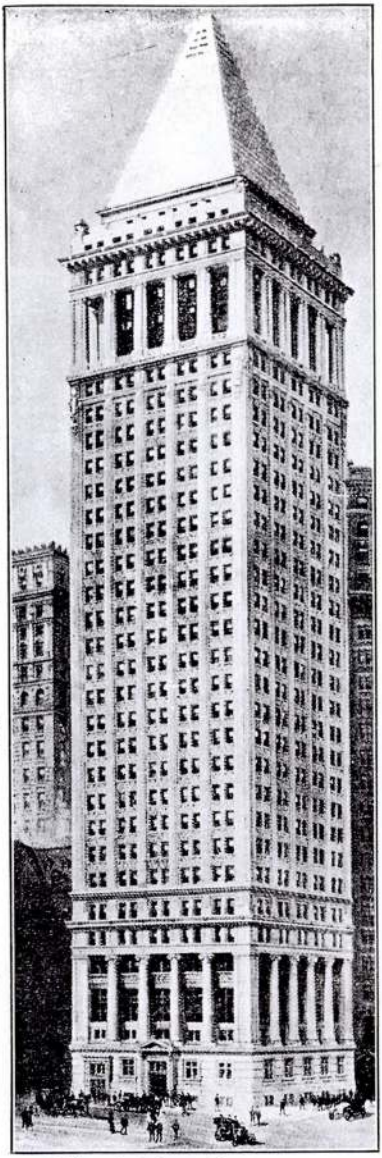
アグルス館は一階六階にあり工費四百萬圓を要せし銀行營業所なり

紐育の建築　（其の七）　バンカース、トラスト建物



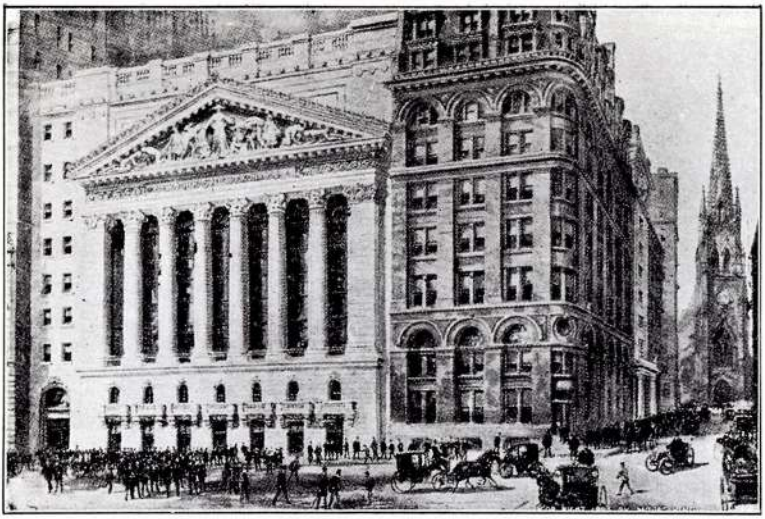
ウォールー街にあり三十九階高
五百四十尺其地處は世界最高
價にて買入れたるものなり
（一坪五萬九千圓當り）

紐育の建築　（其の八）　リバアチー塔



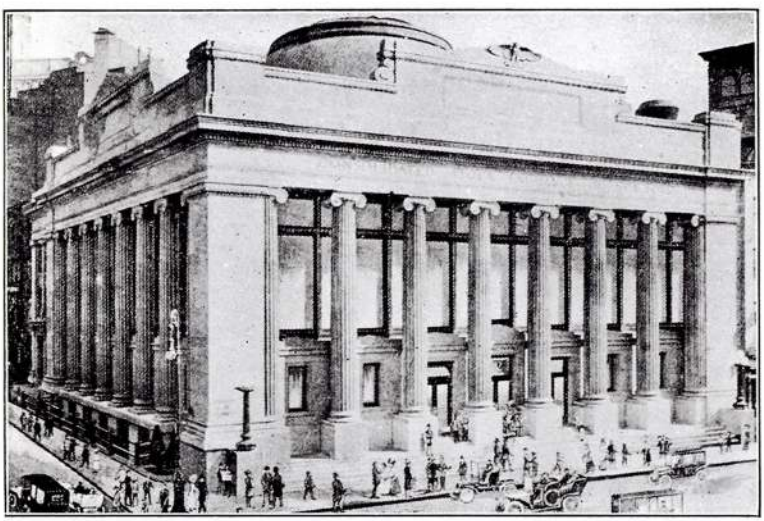
リバーチー街にあり三十一階高
四百尺なりマンハッタン區の一
般事務所の標準建築なり

紐育の建築（其の九）



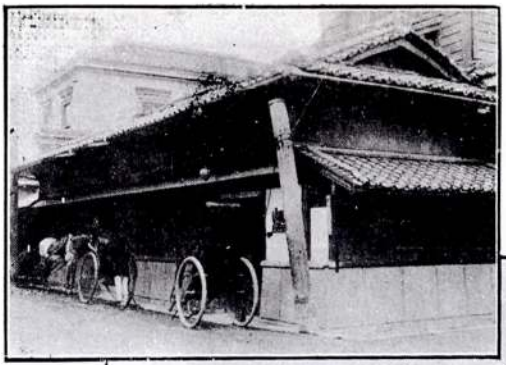
紐育株式取引所　工費六百萬圓を要したる白石大理石の大建築なり、ウヨルストリートに面し約四百坪の會場を有す、會員一千百人

紐育の建築（其の十）

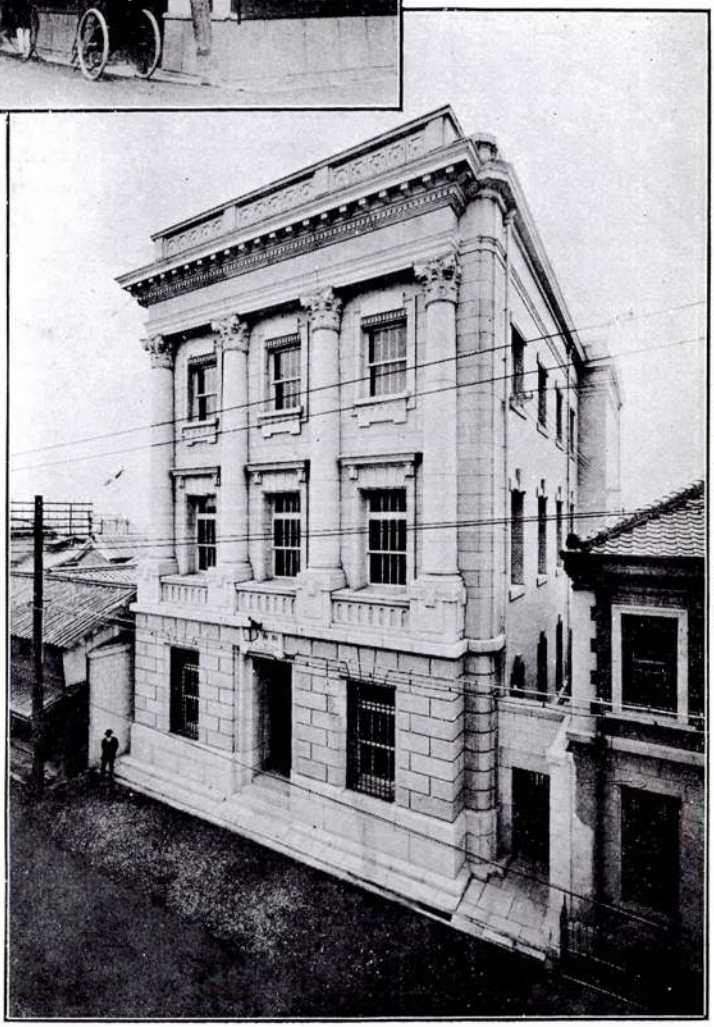


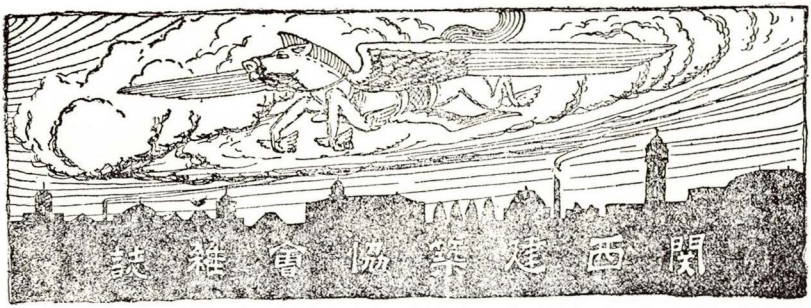
合同株式取引所　會員八百五十人を有す七種株式取引所の中心として業務を採る

都市建築の今昔（十三）　朝鮮銀行大阪支店新館



同上舊館





大阪市街系統改正

都市計畫の急要は近時漸く輿論の認むる處となり、吾人年來の希望は法律の發布と共に最近に實現されんとするに至る。我大阪市は主として其輿論の先驅となり、市理事者の間には其調査會を設け、外部には各種の言論機關ありて其急要を唱へたるは、全く大阪市の最近の經濟力增進に伴ふ自覺ならずとせんや。今や中央政府に大阪市區改正委員會の成立を告げ、市政機關の內に其常設委員會を組織せり、元祿年間より傳襲し來れる中古式の市街系統に大改修を加へ、以て之を現代文明に副ふべき科學的の組織に改正せんこと、是れ委員會の負ふべき責務にして、其計畫の良否、緩急或は規模の大小等一に懸つて我大阪市將來の發展に影響するや甚大なるべし。吾人は兩委員會の責任重大なるを以ての故に其計畫の萎縮姑息に陷り易きを寬假するものにあらず。宜しく積極的に永遠の畫策を樹て、最善最美の大計畫を編成し、以て吾人將來の發展を幸福ならしむべし。



我國都市改良計畫の將來（下）

會員　片岡安

五　建築制限と經濟問題

都市の改良計畫の核子は其交通問題であるけれども、其都市の實質を形成するものは其街路に面する建築であるから、如何に都市全体の街路系統が改良されても其建築が現代の文明を容るゝようなものに改良されぬ以上其都市の實質は事實に於て改良されぬのである。故に歐米各國にては都市の建築を改良せん爲めには色々の手段を取つて居るのである。建築法規は即ち其大綱を示すものであつて、市民の自覺と相待ち其都市建築の改善進歩を實現しつゝあることは吾人の大に注意すべき点である。

之を我國の現狀に見よ、都市建築として其義務を盡しつゝあるもの果して幾何ありや、概ね中古式其儘の木造脆弱の非科學的構造物にして、一朝の火災に烏有に歸するもの滔々皆然らざるはないのである、少しく強き颶風の襲來せんか、被害頻々として修理を加へざれば業務にも差支を生ずる場合少しとせず、生活と營業の不安より曳いて一般經濟の不安定ともなり、國家に對する不利益は

容易ならぬものがあるにも拘らず、一般社會からは左程のことゝも思はれて居ないようである。我國民の自覺すべきこと多々あるならんが、都市建築大改造の急要を覺ることは、最も緊急なることの一とつでなくてはならぬ。

歐米各國の都市が現時實施しつゝある建築法令は我國の都市には直ちに參考とすることは不可能である、何となれば彼にありては十八世紀の始めより一般民間の建物と雖も大体煉瓦石構造の永久的のものとなつたのであるから、建築法令によりて其部分部分を漸次に改良せしめることに依つて都市改善の目的を達せらるゝのであるが、我にありては建築構造の根底より改善するの要があるから、彼の取締法の如き手緩き手段にては若しそれを實施するとしても百年二百年の年間を要して尙ほ徹底的の統一は覺束ないものと思はねばならぬ。即ち我國都市の建築を如何にして改善するやは約まり我國獨特の方法を攻究せねばならぬ譯なのである。

我國の都市中殊に帝都や其他の重要都市は今や一刻も早く其建築制限の國法發布を欲するのである、若し吾人はあらゆる犧牲を拂つて街路系統の改正を斷行するも其改正されたる幹線街路に沿ふてさへ矢張り非文明非科學的の建物を並べられては、骨組のみの改良に過ぎずして其實質は少しも改善されぬことになるのである。我國現時の社會が一般に科學應用の緊要なるに氣付かざる趨勢に考ふる時は、よし都市街路の永遠的計畫が實行されても、其建築を科學的及經濟的合理の構造物に改善することは頗る覺束ないと見ねばならぬ、故に此際吾人は一刻も早く少くとも重要都市だけに實施せしむへき建築改造の法律を制定し、一般市民をして其據る處を知らしむるの急要なるを感ず

るものである。

建築の構造に一定の制限を設くることは、都市改良計畫の主要なる部分である以上、從來東京市に實施せられたる市區改正條例が約三十年前から合理的のものと認められながら、其建築制限が國法上緊要のことであると認められなかつたのは、甚だ不可思議のことと言はねばならぬ。之れ一に建築技術家が社會指導の任を自覺し得なかつた爲めであつて、又他の反面には我國の過渡時代の文明が凡てに上辷りをなしつゝ來たから、永久經濟の根底たる本式の建築などは全く考へ及ばなかつたからである。吾人は我國の都市建築制限の方法即ち其大綱と細目とに亘る問題に就て相當の意見を有し、之を社會一般に敷衍するの義務を感ずるのであるが、此篇に於ては其餘白を見出さぬから、他日別に之を發表することゝし、茲には主として其制限と箇人及社會の經濟に關する實際的痛切なる問題にのみ少しく觸れて見たい。

大都市の幹線街路に面する建築を防火構造の永久建築たらしめることは其制限の基礎であるから若し其實施の際經濟上箇人に苦痛を與へざるものとすれば其制限は輿論の迎ふるところとなり直ちに實行出來る筈である。然るに我國の一般社會は朝野の別なく此点に關し何等の理解を有せず唯何となしに半永久の不安定の家屋が採算上有益なるものと妄斷して居るようである。故に若し法律によりて永久的防火構造の家屋に改造を命ぜんとするも、市民は一齊に其無法なるを叫ぶことであろふと思はれる。之れ吾人の深く遺憾とするところである。

大都市の幹線街路に面する建築は主として事務用（營業店舗又は職業事務）に供せらるゝを原則

とするか故に、建物の築造費其物が營業上收支相償ふものでなくてはならぬ、唯都市美觀の爲めとか業務誇張の虛勢の爲めとか或は空漠なる意味の体裁とかの爲めに收支相償はぬような工費を投ずることは二三の物數寄者の外に望まれないことである。若しそれが半永久的の低き木造家屋であつたにしても、或は工費の總金高が少額にして資本家として大した苦痛なきにしても、其業務執行上支拂ふべき適當の賃貸料が其投資の利廻りとならぬような建築ならば、之を一般に强制すべき性質のものと見る譯にゆかない、之に反し其建物が永久的防火構造のものにして最初の投資可なり大なるものも、其實用上の賃貸料金が其投資に十分酬ひ得らるゝものとすれば、それこそ十分に强制することの出來るものと言ひ得る。吾人は丁度現代の船舶が主として鐵船にして木船が次第に姿を沒しつゝあると同しく、或はそれ以上の速度に木造家屋が鐵筋コンクリート又は鐵骨煉瓦造の建築に改造さるゝ運命にあるものと信ずべき幾多の理由を有するのである。

大都市の幹線街路は其幅員百呎前後のものとすれば其れに面する建物も大体五十呎以上百呎に近きものと假定し、其階數は四階以上七階を適當とする、而して其工費を計上して見るに（戰前の工費）

鐵骨煉瓦造（エレベーター付、暖房其他一切の設備付）

床坪平面一坪に付き　工　費　三百圓內外

鐵筋コンクリート造（設備同上）

床坪平面一坪に付き　工　費　貳百五拾圓內外

であるから、今假りに地所（一坪七百圓）五百坪を購入し建坪四百坪七階の鐵筋コンクリート建物を築造したりとすれば其採算は次の通りとなる、

地所購入費　參拾五萬圓

建　築　費　七拾萬圓（延床坪二千八百坪一坪貳百五拾圓として）

合　計　百〇五萬圓

而して其有効床面積は總床面坪の七掛けとし約二千坪を得るのである、之を一坪一ケ月最低五圓最高七圓平均六圓とすれば、一ケ月賃貸料金收入壹萬貳千圓之を一ケ年に積算し拾四萬四千圓となる。其内投資に對し六朱の利子と建築費の三十五ケ年償却、電燈、暖房の經費、諸稅等を合算すれば

六萬參千圓　投資百〇五萬圓に對する利子（年六朱）

貳　萬　圓　建築費七拾萬圓の三十五ケ年償却年度割

參　萬　圓　電燈、暖房、經常費及償却積立

貳　萬　圓　諸稅及雜費

合　計　拾參萬參千圓

差　引　壹萬壹千圓　積立金

以上は唯其一例に過ぎず、其面積の大小、階數の多少及地所の商業的價値の如何等により、種々の變化あるべきは當然なれども、以上の數字は過不及なき平均の採算にして、何ちらかと言へば實際よりは餘程内輪に見た計算である。乍然現時の戰時相場に於ては以上の如き採算は凡て其基礎を

失ふのであるから若し之を實施せんとすれば更に他の研究を要するものと思はねばならぬ。

一般社會に於ては木造の二階程度の半永久燃燒質建物でさへ新築することは可なり大きい苦痛を感ずるのに、永久的防火構造の堂々たる建築を造ることは、所詮手薄の資產にては不可能であるとして殆んど一顧をだも與へざる風潮に慣らされて居るのである、然るに其採算上の問題を實際的に調査する時は上述の如く永久的構造物は明かに經濟上合理的にして、木造の低き建築こそ却て不經濟の極であることが和解るのである。殊に木造建築は戰亂濟みたる後も漸次に騰貴すべき運命を有するに拘らず、コンクリート構造は應用科學の進歩と共に次第に低廉なる成績を擧け得る傾向が眼前に横たわるに於ては、吾人は我國民一般をして此永久建築が經濟の原則に稱ふものであることを十分に徹底するまでに叫ばねばならぬ。之れ即がて輿論となりて法律制定を促すであろふ。

一体建築法規は法律としては寔に雜駁のものなるも、我國現時の亂脈なる都市狀態を救濟するには先づ幹線街路に面する建築を全部改築せしめて、永久的科學的の建築たらしめる爲めに、緊要此上もない偉大なる法典なのである。吾人は其制定が一刻も早く成効せんことを望んで已まない。

六 衞生工事

歐米の都市は今や一として組織系統ある衞生設備を有せざるはないと言ふも過言ではない、都市の凡ての施設の中で衞生設備の根底たる下水工事ほどに重大なものはないのであつて、文明國の市民は下水の不完全なるを以て一の恥辱と考ふること、猶ほ目に文字なきものが自から卑下するに等しきものがある。都市としては下水工事を完成せしむるを其經營の基礎と考へて居るのである。も

とより歐米の都市も下水工事の緊要なるを見出せしは最近三四十年來のことに屬し、それ以前にありては唯部分部分隨意に低地に向つて溝水を流したのであつて、我國都市の現時の狀態と變つて居なかつたのである。然るに衛生生理學の進歩は現時の如き組織的衛生設備の急要なるを認め、衞生工學の進歩は遂に其の設備を實現せしめたのである。而して下水工事の完備したる後の都市の健康狀態は其向上實に顯著なるものありて、上水の普及と相待ちて一般の急性傳染病の襲來を一掃するに至つたことは現代文明の最も誇とするところである。

然るに我國の都市は帝都を始め大阪、京都の如き何れも未だ下水組織を完成するに至らず、獨り大阪は其商業中心地たる船場に暗渠式下水系統を有すれども、甚だ不完全にして之を現代の衛生工學の立場より見れば貧弱なる間に合せのものとしか見る譯に行ない。近來場末方面に下水系統の普及を實施しつゝあれども未だ以て我大阪市の永遠的計畫と一致したものと言ふことは六ケ敷いのである。東京市は十數年來大問題として討議されて居つたのであるが、大正元年に約四千萬圓の工費を以て全市に亙る現代式の下水計畫を實行するに決した、而して若しその通り實行が進めた大正十六年には完成する筈であつたけれども、途中色々の模樣替が起り、今は姑息なる計畫に逆戻りをなして居るようである。

京都市に至つては未だ下水工事の設計さへも出來て居ない、毎年赤痢、窒扶斯等の傳染病に甚しく苦められて居ると言ふような狀態である、名古屋市は最近に市の中央部の下水道を完成したと言ふことであるが全市に亘りての計畫は未だ出來ないのである。其他の都市に至りては殖民地の二三

都市を除きては、殆んど下水工事を施工したところはないのであつて、唯古來の因襲上其甚しき欠陥に氣付かざるまでゞある。

世界各國の都市が漸次其市民の健康向上を確實に保證せんとする時代に、獨り我國の都市は衛生の危害防禦の根本計畫の樹立を怠りつゝあるは文明國民として甚だしき悲哀を感ぜざるを得なのである。街路系統確立と共に大下水や枝管下水の系統を定め都市全体の汚水惡水を完全に排除する計畫を樹つることは、我都市目下の急務にあらずや。然し其計畫に伴ふ財源に窮して各都市ともに之を手控へて居る事實は我國現時の富の程度にては致方なしとする論者もあれど、吾人は斯かる意見には同意する譯には行かないのである。水道は收益伴ふが故に之を布設し、下水は金錢上の利益を生せざるが故に何時までも放擲して顧みざるが如き不合理や其短見は到底都市改良計畫を考ふるものゝ容るべき意見ではない。一貫せる方針なき部分的の施設は決して眞正の改良計畫ではないのである。

衛生上の施設は下水工事を其根本とすれども、其他には上水の普及を徹底せしめ食料品檢査、結核療養所、衛生博物館の建設等其項目甚だ多岐に亙り、到底其梗概をも茲に述ぶることを得ざるを遺憾とする。

七　改良計畫實施の法規と財源

都市改良の計畫を實施するにはそれ〴〵法律の力に依りて、其統一せる永遠的の施工を保護するを要するは勿論にして、箇人の利害よりも更に大なる都市全体の永遠の禍福を基礎として計畫を立

つる爲めには可なり大なる權力が伴はねばならぬ譯である。然るに歐米各國の都市改良計畫に見るに、必ずしも法律の力を用ひず、單に行政命令により比較的平易に大膽なる改良計畫が實施されて居るのは、箇人の權利思想の發達したる歐米に於ては稍不可解のやうにも思はれる。尙更に驚くべきは建築法規の細則にして、單に行政上の取扱に過ぎざる樣の問題が、凡て法律の成文となつて居ることである。又都市の市長は或る場合には都市永遠の利益の爲めには絕大の權力を以て箇人の施設に干涉し得るが如き、或は亞米利加の一二の州に於けるが如く、都市が改良工事の爲めに地價差益稅を賦課し得る等其組織は少しも一定せずして、しかも實績を擧くることに於ては甚だ顯著なるものがある。吾人の聞く處によれば一般に獨逸の都市は其改良計畫實施に際し官民一致して其成効に努力すると言ふことである、亞米利加の或る有名なる都市計畫論者は其官民一致せる都市改良熱を以て一種の獨逸氣風と稱へて居るのである。

英吉利にては都市計畫法は一九〇九年に法律となつて發布されて居るけれども、勞働者住宅法と共に一つの法律に編纂されたのであつて、實は市外の新開地の整理を強制するに過ぎない。我國に於ける東京市區改正條例の方がむしろ法律としてはより以上實用的のものであるかも知れぬ、而して其發布は英吉利の都市計畫法よりも二十年も早く發布されて居るのであるから、若し都市改良事業が法律の力によりてのみ其成績が擧がるものならば、我國の帝都は今や非常に立派に其成績を擧けて居る譯であるが、事實は之を否認するを奈何ともすることが出來ぬ。

要するに都市計畫の實施に際しては歐洲の二三國にて專ら認めらるゝ地帶收用法又は獨乙に於て

主として行はるゝ市街地區劃整理法を最も有効なるものとする、東京市區改正條例に附屬せる市區改正土地建物處分規則（明治二十二年一月勅令）は稍それに似よりたるものにして、一般土地收用法の如き窮屈なものではないが、其第三條に規定しある「本則第一條ニ依リ買上タルモノハ原價ヲ以テ特ニ舊所有者ニ拂下グベシ……」と言ふが如き部分は全く現代の都市計畫の精神と一致せざるものである。此回東京市區改正條例及土地建物處分規則は大阪京都及び内務大臣に於て特に必要と認めたる都市に其全部及一部を實施することを得と言ふ法律案が議會を通過したのは吾人の最も愉快に感ずるところであると同時に、吾人は今後其法律の精神に依り積極的の永遠計畫を立て其實施の一日も早く運ばれんことを祈るものである。けれども更に一歩を進めて地帶收用及市街地區劃整理制度の必要を唱ふるものである。

都市計畫の實施に伴ふ財源の問題は其凡ての計畫を生かすか殺すかと言ふ最後の許否權の存するところで、其計畫立案の困難は常に永遠的の都市計畫を萎縮せしめるのである、甚しきは初めより都市改良の計畫を立案せしめざる毒藥となることが多いのである。歐米都市の如く其市民が現在の經常費を負擔する以外に、其永遠計畫に對する費用を十分に負擔し得る處にては、必ずしも難問題ではないかも知れぬが、我國の都市の如く永遠計畫の爲めに負擔を受くるを苦しむ處にては、其財政計畫を立つるに困難するのは當然である。乍併困難なりとて之を顧みざるに於ては都市の將來は全く暗黑であるから、東京市區改正條例は率先して其前途の光明を見出さん所存であつたのである。東京市區改正に對しては法律は左の特別稅を徴集することを認めたのである。

一地　租　割　地租百分ノ十二半以内但シ耕地ヲ除ク
一營業稅並ニ雜種稅　地方稅十分ノ四以內
一家　屋　稅　同上
一其他勅令ヲ以テ指定シタルモノ

東京市は以上の賦課の外官有河岸地の下附を受け其河岸地より收入する金額をも使用することを許されて今日まで其市區改正を續行して來たのである。東京市は其事業の爲めに費したる工費は約參千萬圓なりと雖も、東京の如き大都市の市區改正事業に參千萬圓や五千萬圓にては到底本當の永遠計畫を實行出來ないのは明かな話である、巴里がオースマン計畫を實行する爲めに約五億萬圓を投し、伯林が壹億六千萬圓を投して新街路の經營をなしたことや、倫敦市が其幹線街路の修正に貳億萬圓を投下しつゝあることを考ふると上述の如き小額の賦課にては、徹底的の計畫實行は不可能と言はねばならぬ。

吾人は街路改正に要する工費及下水道築造に要するものは其改良されて生ずる土地の價格騰貴の幾分かを徵集して之を支辨すべきものと思ふのである。亞米利加の二三の州は已に之を實行して居ると言ふ事である、もとより其賦課の比率は愼重に研究して其改良街路に面する土地が幾何、都市全体として又幾割と言ふ風に十分其分擔を公平ならしめる事は緊要である。下水道に至つては其中樞機關及本線は市全体に屬すれども支線の築造費は其支線が支配する宅地に於て之を負擔するは當然であると思はれる。唯從來の如く我國の一般地主が都市が如何に改良されても其改良により生ず

る利益を自己の幸運の如く解釋する地主魂性を棄てゝ虚心平氣に其時代機運を看破し、市民の眞正の幸福は都市全体の改良事業の圓滿なる進行にあることに考へ、斯かる負擔に甘んぜんことを慫慂せざるを得ない。

八　結論

我國の都市は其改良計畫の緊急なるを自覺すること他の文明國に比して甚だ遲れたのである、明治の初年故井上(馨)侯爵が銀座通りの建築を改造せし當時に在ては稍其氣分も見へしが、全く皮相的の西洋模倣に過ぎざりしが故に、社會を動かすに足らずして其の氣分は立消へとなり、明治二十一年勅令によりて東京市區改正條例が發布されし時より、東京市のみは茲に都市改良の發端を開き本式の計畫實行に取係つたのであつた、然れども政府の二三人士に多少の理解があつただけで、朝野共に現代都市の發展の趨勢を看破する底の識見に缺けて居た爲めに、折角の立派な法律も餘り其實績を擧ぐるに至らなかつたのは返す〳〵も惜むべきである。

幸にして近時吾人の高唱せる都市計畫の眞意は世の進運と共に社會一般に認識さるゝに至つたのは、我國將來の爲めに祝福に勝へぬところである、吾人は此機會に乘じて我國の重要都市の改造計畫を立てゝ其實行を期し、以て正さに來らんとする我國の積極的膨脹政策と一致することを理想とせねばならぬ、若し我國は將來三流四流の貧弱國と漸次に落ち行くものとすれば、必ずしも都市の大改造を計畫するの要なく、萬事自然の趨勢に任して差支がないのであるが、吾人は斯かる消極的退嬰主義に傾くことは出來ない。

して見ると吾人は今後如何なる方針により我國の重要都市改良の案を立てるかと言ふことは、實に我國の今後進むべき文明街道の分岐點に於て其積極か消極か何れの路を取るべきかを定めるようなものである。上述の諸論は凡て吾人をして其積極路に入らねばならぬことを教ふるものである。積極的方針之れ即ち吾人の一刻も離すことの出來ないモットーでなくてはならぬのである。獨逸都市が最近三十年間に著しく其發達を確實にし尚將來多々益便するの勢を有てるのは全く其積極的計畫に依るのである。

我國都市の今後の採るべき改良計畫は

一、築港を完備せしめて水運の利便を計り、鐵道驛を擴築して陸運の缺點を除き、且つ倉庫地帶と運輸機關の連絡を圓滑にすること

一、市内交通機關の積極的企畫をなすこと

一、街路系統の永遠計畫を立てゝ可及的迅速に其實行をなすこと

一、都市建築の統一と其經濟的價値を發揮すること

一、衛生設備を徹底せしめて都市住民の健康向上を保證すること

等の諸項目にして其何れの一を缺くも完備せる組織的の文明都市として發展することは出來ないのである。而して此等の計畫は財政上可能なるを要するは勿論なれども、財政なるものはもともと彈力性のものにして姑息なる現狀休養的のものとするも、積極的永遠のものとするも、一に其市民の緊張力如何によるのであることを考へ、市民として經濟上の活動を增す毎に益々其負擔力を倍加

し得るものなるを見越して、其都市百年の曉を推定し、其假定の上に立案をなすべきである。都市が其發展計畫の初めに當り市外地を買收し置く如きは、明かに積極計畫の一である、又大運河を開鑿して市外帶地を一齊に適好なる工場敷地となすが如き、或は高燥なる郊外地帶を開拓して遊園地や住宅地を建設する等、現狀を一步超越して少しく永遠の計畫を立つるならば、其計畫は初め多少の資本を固定するも、十數年を出ずして財政上にも有益なる結果を齎らすこと易々たるものがある。

現東京市長田尻博士は東京灣の大築港と、それより房總半島を開鑿して鹿島灘へ直通する大運河を造るを東京市永遠の計畫とせねばならぬと唱へらるゝのは、吾人と大体に於て其所見を一にするものであるが、房總半島開鑿の運河は果して經濟上効を奏するものなるや否や甚だ疑はしいのである。むしろ東京市東部一帶の地に大運河を開鑿して、之を利根川と結び、其沿岸一帶を工場地區となすことは最も緊急にして且つ永遠の計畫であるやに思はれる。それにしても東京市は何故に築港計畫と言ふ都市發展の根本問題を忘却して居るやは不可解のことである。東京市民たるものはもとより國務に忠ならんものは、我帝都の將來の爲めに此根本計畫の畫策を一刻も早く研究して其實行を期すべきである。又鐵道終點驛の計畫の如きも、之を現時の儘に見遁がすことは帝都の發展上甚だしき障碍であることを知る時は、何故に此重大問題が未だに朝野一般有識者の間に閑却されて居るかは嘆はしい次第である。

我國各大都市の市內交通機關の不完全なる現時の狀態は如何にして之を整理するや、又更に一步を進めて將來の計畫は如何にして之を處理するやの問題に就ては朝野共に未だ十分なる定見を有せ

ぬのである。此等はさし當り大なる苦痛を感せぬ事柄である爲めに、たとへ多少其重大なるに氣が付いたとて、容易に市民の奮起を促がすに足らないから、吾人は非常の勇氣を以て其緊急なるを一般市民に愬へ十分に自覺するまで奮鬪せねばならぬのである。田尻博士は『東京市街系統の改正と共に東西と南北に地下鐵道建設の急要はあれども、自分の腹案によれば其地下線だけに五億萬圓に近き工費を要するから、我國の經濟にては先づまづ六ケ敷きことゝ思ふ』と言はれて居るのは或る程度までは吾人の意見に近寄りつゝあるものである。田尻博士は技術上の問題を容易く攻究さるゝ利便なかりし事情の下に、如上の意見を有せらるゝのは敢て之を批難すべきではない。むしろ其達觀の明識には敬服するのであるが、更に一歩を進めて各方面の技能達識者の意見を徵し、此問題を研究せられんことを望まざるを得ない。

大阪市の街路系統大改造と共に地下鐵道建設は又有力なる意見たるを失はぬのである、殊に安治川、尻無川、木津川の三川を横斷する西部外輪の街路は、什うしても渡船では之を連絡する譯にゆかない。紐育市はブルークリンとの間に四大鐵橋と十箇の河底隧道を以て其連絡を計つて居るのに比較するのではないけれども、少くとも一線路だけは隧道を以て完全なる連絡系統の建設を企つるの要がある。又南北及東西の一等道路の中央の地下に一大副道交通機關を建設することも其街路築造の時に之を實施すること或は策の得たるものであるかも知れぬ。紐育のクヰンス、ブールバアールに於ける地下鐵道は、世界に於ける最高價のものなりしと言はれて居るが、其工費は一呎千七百圓に過ぎないから、我大阪市に於て新設街路築造の際に之を實施するとすれば、南北幹線三哩、東

北幹線五哩として、其工事多少困難なればとて五千萬圓内以にて之を竣工せしめ得るのである、此等は突飛なる積極案の如く解する人もあるならんが、現時の趨勢より將來の發展を打算すれば最早斯かる計畫は研究を急がねばならぬ時期に達して居ると思はねばならぬ。

街路系統の大改造は今や各都市とも其急務なるを感じつゝあるから、早晩其計畫は出來上りて實施も運はるゝであろふと思はれるが、吾人の最も懸念に勝へざるは、我國の各都市とも大体に於て現代の都市を深く理解せざる人の多きことである。田尻博士の如き都市行政の權威たる人が『東京市は餘りに散漫に流れて唯無意味に擴がりつゝあるから、高層建築を建てゝ之を中樞に緊縮せしめ街路の延長を短縮すると同時に其系統の整理をなさねばならぬ』と言ふことを發表されて居る如きは如何にも驚くべき謬見である。街路系統の整理の緊急なるは別に問題にならぬとして、東京市の面積が人口の割合に廣く過ぎると言ふ如きは一の忘斷であることは今茲に贅言を要せぬのである。田尻博士は最近の事實と世界的趨勢を數量的に知られぬ爲めに斯かる謬見に陷られたのであるから、吾人は之を深く追窮するを好まぬけれども、一般人士を誤ること大なるを思ふ時は或程度までは其妄を匡して置かねばならぬ。

現代の都市は發展と膨脹を以て其特徵とするのである。故に其地積の擴がり行くことは又自然の趨勢でなくてはならぬ。此に於て吾人は其街路系統を整理し其幅員を擴め其擴大延長を何處までも助成して亂雜不秩序に陷らぬように導くの要がある。若し其亂雜不秩序を以て單に面積の利用不充分なる爲めと見做すならば、之れ全く統計的數字を無視したる局部論であつて一顧の値さへもない

のである。商業中樞區域が彌が上にも其地積を利用するのは經濟上自然の趨勢であつて、我國の帝都や大商工都市にても現に其傾向を示して居るのである。然しながら東京の如く已に世界有數の密集都市を更に此上に密集せしめんとすることは殆んど常識の許さゞるところであるから、如何に高層建築が市の中樞區域に出來たとて、それで東京市の廣袤を縮めるが如きは事實上も不可能であり又行政上からも行ふべきことではない。街路系統の大改造は其連接町村より更に其郊外地にまでも及ばざれば眞實の都市計畫ではないのである。

我國の各都市が今日まで其建築行政を顧みざりしは、都市經營上の一大缺陷であるけれども、更に之を徹底的に考ふる時はむしろ僥倖であつたようにも思はれる。其交通政策との關係其市內交通機關や街路系統の整理等の計畫なき以上建築行政などはそもそも末葉に屬するから、生中のものゝ實施されて居ない方が結局便利であつたかと思はれる、乍併眞實百年の長計たる都市計畫の立案と共に、其都市建築は最も善く統一されて實質上の優良を制限されねばならぬのである。都市建築法規の重大なるは近來朝野を通じて十分に認められて來たから、吾人は今後其制定と其實施の爲めに獻身的の努力を惜んではならぬ。

建築行政と共に都市の內容充實の一大問題は其衛生設備にして、我國の各都市が今後最も深き理解を以て其實行を急がねばならぬものゝ一に屬する。我國の都市は上水工事に於て稍見るべきものあれども、下水設備に於ては全く文明都市と言ふの資格がないと言ふも過言ではない。其結果として恐るべき傳染病は常に市內に隱伏して、市民を不斷惱ましつゝあること、猶ほ警察なき都會に强

盜の出沒するが如きものがある。此等は現代文明國の都市には見るべからざる恥辱にも値する事實であるから、吾人は最善の努力を此方面の建設に盡さゞれば我國都市の改良も當形骸のみに止まり其內容充實の成績を擧ぐることは出來ないのである。世界各國の都市は近時著しく其死亡率を減少しつゝあるに反し、我國の都市は帝都に於てさへ少しも其向上の成績を示し得ないことに想到すれば、此問題は今や吾人を追蹟しつゝあるの窮狀に瀕するを知らねばならぬ。

而して以上の諸問題は相寄りて一連の鎖狀をなしつゝ都市計畫の一大目標より出發する大綱である、其大綱は一に懸つて財源と言ふ巨人の手腕に委ねられて居るのであつて、其緊張せる牽引力を發揮すると、弛緩荒廢の狀態に棄てらるゝとは其巨人の力量如何に依ることを知らねばならぬ。從來我國民は朝野共に其力量の乏しきに慣れて、都市計畫の目標に辿り行くことの不可能を感じ、何時までも其實行を企てざりしは、事實上已むを得ざる事情もあつたと見られる、けれども我國は何時までも斯かる退嬰主義消極手段にのみ齷齪すべきではない。世界の經濟は日進月步の傾向を益々強大に進捗せしめつゝあり、我國民のそれは今は昔日の如き遲々たるものではない、況して今後の發展期して待つべきものあるに於ては、曾昔日の習慣に拘泥して何時までも現狀を瀰縫するに止まる譯にゆかないのである。財源の如き彈力性の大なるものに向つて、唯々休養を之れ事とするは決して策の得たるものではない。吾人は我國の大都市は今日其發展計畫を確立しても、何時までも其實施の出來ない程貧弱なものではないことを信ずるものである、世の先覺者は朝野を論せず此緊急なる大問題の解決を攻究すべき時期にあらずや。（畢）



最近の大阪港

大阪市役所港灣部

序

一昨年十月『歐洲戰亂の大阪港に及ぼせる影響』と題し、主として船舶貨物の關係より我が大阪築港當時の狀況を記載したるより僅かに一年有半を經さる今日築港を中心とせる附近一帶の地は更に驚くべき發展を遂げたる事實を爰に略記し『最近の大阪港』と名づけたり曩の小論文と併せ歐亂と我商工都市との關係を觀且今後大阪築港を利用せんとする江湖の一資料とならば幸也。

大正七年三月

△第一　緒　論
△第二　築港附近の發達
△第三　市有埋立地の利用
△第四　築港出入船舶の趨勢
△第五　築港集散貨物の消長
△第六　港灣將來の進運

第一　緒　論

既往に於ける大阪築港の眞價につきては、兎角に批評を免れざりしが、晩近我が産業の變化に伴ふ自然の要求は、嘗て過大なりとし又は無用なりと迄極言せられし築港を顧み、之を喋々するに至らんとす。惟ふに港灣修築の如きは、單に之を一片の營利事業と見るべきにあらず、國家が巨額の補助金を下附したる所以も亦大商工業地たる大阪市として完全なる港灣を有せざるは、都市の命脈に關するが爲にして、其企圖の大にして効果の及ぶ所商工一般に渉り其活動

に資し、普遍的なるにあるを觀れば、收益の打算的計數にのみより事業の成否を論ずべきにあらざるなり。抑も築港は我が商工業活力の中心となるべきものたり、都市の道路と水路とは人体の血管に比すべく、凡百の活動は皆之に因らざるはなし、殊に我が大阪市に是を觀れば、安治川尻無川木津川の三水路は大動脈にして、築港は實に其心臟に當れり、血液たる物資は先づ此心臟に到り復四方に發散し、集散の動力は絶へず此處に行はるべし。活力旺盛の極にある現下の大阪市が築港に期待する所多き亦眞に理ありと謂ふべし。請ふ姑く築港近時の情勢を觀んか。

現下築港の工程未だ完からず、設備尚具らざるに、船舶貨物の出入比年增加し、內外貿易の增加率全國諸港に冠たるの好趨勢を示せるのみならず、今次の大戰亂に因る本邦商工業の勃興は俄然大阪築港利用の度を高めたり。試みに最近の統計を見るも、大阪入港船舶七百餘萬噸同出入貨物八百餘萬噸孰れか築港の恩惠に浴せざるべき、素より其半は河川に遡航するものなりと雖河川の利用をして今日あるに至らしめたるは一に築港に由る所以なり。加之直接築港に於て荷役せるもののみにても尚出入船舶二百四十一萬噸同貨物二百萬噸の多きに達せり。而して埠頭地域には、倉庫上屋の建設頻々として起り、百二十餘萬坪の沿海埋立地は、毎年ならずして倉庫工場の櫛比を見るに至らんとす、更に近々施工せらるべき繫船壁臨港鐵道及岩崎運河完成の曉には、東洋唯一の貨物大集港として、空前の盛觀を呈するは、疑ひを容れざる所なりとす。

第二　築港附近の發達

歐洲戰亂勃發後に於ける大阪市商工業の偉大なる發展は實に驚心駭目に値するものあり。而して之に伴ひて築港に臨める百二十餘萬坪の市有理立地及之が背後に接續する四百餘萬坪の民有地が、倉庫敷地及工場用地として、急速なる發達を遂げつゝある狀態は、當に近時の一偉觀なりと稱するも敢て不可ならざるべし。

市有理立地に關しては、後項記載する所の如

くなるも、此處には、專ら工業地域として發達しつゝある民有地に就て概說するに止めん。

熟々大阪市の現況を按ずるに、安治川正蓮寺兩岸一帶に於ては六軒屋川の以西、安治川尻無川間に於ては境川以西、尻無川木津川間に於ては泉尾町以西の地域は大部は未開發地として約四百萬坪の民有地と百有餘萬坪の市有理立地を有す。是等未開發地の大部分は工場地として、將來帝國の對東洋及南洋貿易の根據地たるべき運命を荷へる樞要地域なりとす。

蓋近世の工業地としては(一)地勢の平坦廣大なること(二)大規模企圖の下に各種工業を集中し得らるゝこと(三)巨大又は重要材料及製品の運搬上水陸兩面の利便を有すること(四)大商業市場に接近し材料及製品の需給を快速に處理し得らるゝこと(五)資本の豐富にして金融機關整備し且勞働者の饒多なること(六)豐富なる工業用水と低廉なる動力の供給し得らるゝこと等の諸要件を具備するを必要とす。換言すれば平坦なる大地域にして、港灣河川及鐵道の便を具備し且大商業都市を控へ、尙其背後には人口の最も密集せる地方の存在する事を必要とするなり

今是等諸要件を具備せる工業地域を我國に求むるに、人口最も稠密なる畿內平原の要樞に位し、現に本邦商工業の中心地たる大阪の市場を控へ、交通は海に一萬噸級の船舶を自由に出入せしめ得べき築港を有し、東海道及關西鐵道之に臨み且つ之を彩るに、縱橫の巨川運河を以てする大阪築港埋立地及其附近の土地の如きは、理想的の工業地として其比儔を絕するものと謂ふべし。果然本市が明年度より着手せんとする船渠の築造及最近決定したる臨港鐵道の敷設並岩崎運河の開鑿等の計劃は、從來土地經營に齷齪たらざりし關係大地主を刺戟し、彼等の長夜の夢を破りて、輓近頻に積極的土地經營に腐心するに至りしも亦理ありと謂ふべし。

加之既に事實上是等地域は刻々に其利用を促進せられ、之が戰前と開戰後とを對比すれば、實に思半に過ぐるものあり。試に前記地域內に於ける工場を調査し、其設立を戰前戰時により

て之を分ち參考に資すべし。即ち築港を中心として附近一帶の活動躍如たるものあるを看取するに足らん。戰前既設のものと雖も其事業を擴張せざるもの殆んど之なき有樣なり。

開戰後新設工場對戰前比較表

	戰前既設ノモノ	戰後新設ノモノ
正蓮寺川（右岸地域	四七	三六
正蓮寺川（左岸地域		
安治川（右岸地域	一四二三	一六一九
安治川（左岸地域		
尻無川（右岸地域	一〇九	一四三八
尻無川（左岸地域		
木津川（右岸地域	二一八四	一六四五
木津川（左岸地域		
計	一七二	一五七

（甲）ノ一　正蓮寺川右岸地域

	場所	工場名	坪數	資本金
戰前既設ノモノ	西成郡傳法町南三	内外綿株式會社　第一紡織工場	三、三五三	五、〇〇〇、〇〇〇
同	北三	鑛業合資會社（沃度及同化合物）	一、六九八	一五〇、〇〇〇
同	北一	阿部染工場	七〇〇	九、五〇〇
同	北一	帝國製麻株式會社	六、八五〇	八、〇〇〇、〇〇〇
戰後新設ノモノ	西區酉島町	大阪阿鉛鑛業株式會社	六、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇
同	西成郡傳法町西三	東洋紡績株式會社西成工場	九、四九〇	二五、〇〇〇、〇〇〇
同	北一	丸菱製藥合資會社	六〇〇	三〇、〇〇〇

(甲)ノ二　正蓮寺川左岸地域

	場所	工場名	坪數	資本金
戰前既設ノモノ	西區恩貴島南町	住友電線製作所	一七、二九〇	六、五〇〇、〇〇〇
同	同四貫島町二八八	中野製煉所(アンチモニー)	八五〇	—
同	同四貫島町	四貫島製銅所(銅亞鉛精煉)	一八〇	—
同	同一八六、一八七、一八八合併	泉鉛管製造所	七二五	—
同	同　二四五	中島鐵工所	一四七	四、〇〇〇
同	同　二八八ノ二	四貫島製繩所	一五〇	四、〇〇〇
同	西區四貫島	東洋紡績株式會社四貫島工場	三、四二五、三八八	二五、〇〇〇、〇〇〇
戰後新設ノモノ	同	齋藤合名會社(綿繰)	一、〇一九	七〇、〇〇〇
同	同	東洋耐火煉瓦株式會社	四〇〇	六〇〇
同	同	細井化學工場	一〇〇	—
同	同	岡田鑄工場	六〇	—
同	同　二〇八	東野硝子壜製造工場	五〇	三、〇〇〇
同	同　二〇七	根岸アンチモニー工場	三五〇	—

(乙)ノ一　安治川右岸地域

	場所	工場名	坪數	資本金
戰前既設ノモノ	西區櫻島埋立地	大阪鐵工所	七八、三七	三、〇〇〇、〇〇〇
同	同島屋町二四九	株式會社住友鑄工所	三二、七七七	六、〇〇〇、〇〇〇
同	同　四〇六	汽車製造株式會社	二、五〇〇	二、七〇〇、〇〇〇
同	同西野下ノ町番外一	富士製紙第七工場	七、七二一	三一、〇〇〇、〇〇〇
同	同　五〇ノ三	阿部ペイント會社	二、二九七	五〇〇、〇〇〇
同	同西區九條下ノ町二八	古林鐵工所	四五〇	—
同	同　一一七	岡鐵工所	四五〇	七〇、〇〇〇

戰前既設ノモノ	同安治川上通一ノ二五	藤田鑄造所	一五〇	一	一
同	同西九條上ノ町一〇	合資會社榮屋石綿紡績九條工場	三七七	—	—
同	北區安井町番外一六	攝津製油株式會社	三、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同	西區西野上ノ町一〇〇	大阪帶革製造所	一、五〇〇	一	一
同	同	九二製壜所	四六〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
同	北區西野田新家東ノ町	合資會社大阪製壜所	二、二〇〇	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
同	同	松居製壜株式會社	—	二一〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇
戰後新設ノモノ	西區川岸町六	日本染料製造株式會社	三二、〇一八	八、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇
同	同春日出町二一	新高製糖株式會社	一〇、一〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
同	同 一六	山中金屬製錬工場	一、八〇〇	—	—
同	同 二三	橋本鐵工所	八三〇	—	—
同	同 二三	株式會社大阪製鎖所	三、〇七七	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同	同四貫島町一五	生瀬鑄物工場	三〇	—	—
同	同安治川北通一ノ二八	合資會社安治川鐵工所	二、四五三	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇
同	同安治川上通一ノ二〇	森田鐵工所	—	—	—
同	同西九條下ノ町一二三	涙花造船鐵工所	五〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
同	同 一〇五	西山鐵工所	一八四	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇
同	同西九條下ノ町一〇五	脇屋鑛工所	六六	三、〇〇〇	三、〇〇〇
同	同安治川北通一二	木村商事合名會社（機械材料）	五〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
同	同四九條上ノ町二一〇	合資會社東亞鐵工所	五〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
同	同 二一〇	安治川製壜所	四〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
同	同 二一〇	大阪製鐵廠（アンモニー）	二〇〇	—	—
同	北區西野田新家東町	金澤義布斯工場	三六五	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇

（乙）ノ二　安治川左岸地域

場所	工場名	坪數	資本金
戰前既設ノモノ	大阪鐵工所天保町分工場	八、一〇一	—
西區天保町	相澤造船所	四、九八二	—
同石田町	小澤安治川工場	四七五	—
同	大阪アルカリ株式會社	二〇、〇〇〇	三、七五〇、〇〇〇
同湊屋町	平濕鐵板金合名會社	三〇〇	五〇、〇〇〇
同南境川町	横川橋梁製作所	六、二八七	—
同	山根鐵工所	二〇〇	—
同	高橋鐵工所	二四五	—
同北境川町	中島鐵工所	五〇〇	—
同	柴田鐵工所	一〇五	—
同	太田銅工所	二〇〇	—
同	藤井製材工場	四三〇	—
同	合資會社吉川製油所	一、三〇〇	五〇、〇〇〇
同	橋本鐵工所	一、二〇〇	七五、七五一
同	三河商會（ハリベットボールト）	二一〇	—
同市岡町	株式會社浪速グロース工場	—	五、〇〇〇
同九條南二	京本硝子製造工場	二一九	—
同九條通二	中島三工所	一、五〇〇	三五〇、〇〇〇
同古川町	川崎鐵工所	三九五	二五〇、〇〇〇
同本田二丁目	川井鐵工所	一七〇	—
同	合資會社市田鐵工所	一三〇	三、〇〇〇
同	合資會社大光鐵工所	四〇〇	一〇〇、〇〇〇
同	辻岡鐵工所	一七〇	—

戰後新設ノモノ	西區石田町	廣瀨耐火煉瓦會社	五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
同	同	森鹵粉製造工場	七七	二〇、〇〇〇	
同	同	耐火煉瓦株式會社	四、八九一	一、〇〇〇、〇〇〇	
同	同	大阪製鎖所	一、〇五〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
同	同南境川町	株式會社南洋產業分工場	三七	一、一〇〇	
同	同	橋本貝釦製造工場	—	—	
同	同市岡町	小谷銅工場	三四	三〇〇、〇〇〇	
同	同	合資會社攝津鐵工所	七〇〇	五、〇〇〇	
同	同	三枝鐵工所	三三	五〇、〇〇〇	
同	同	大正鐵工所	一四〇	—	
同	同	小林鐵工所	五九	一、〇〇〇	
同	同	佐藤鐵工所	六〇	一〇、〇〇〇	
同	同北境川町	ユニオン電氣製作所	二五	一〇、〇〇〇	
同	同	AK釦製造工場	一三〇	一〇、〇〇〇	
同	同	合資會社藤本製油所	四〇〇	一〇、〇〇〇	
同	同	淡野鐵工所	一一〇	七〇、〇〇〇	
同	同	合資會社阪口鐵工所	一五〇	一〇、〇〇〇	
同	同	森薄板製作所	三五九	一九、一九〇	
同	同	合資會社大阪鑄工所	八〇	五、〇〇〇	
同	同本田二丁目				

(丙)ノ一　尻無川右岸地域

戰前既設ノモノ	場所	工場名	坪數	資本金
同	西區八幡屋町	藤田組製材所	一、一三〇	—
同	同市岡町	田中機械製作所	二、三〇〇	二五〇、〇〇〇
同	同北境川町	日本電線株式會社	一	一、〇〇〇、〇〇〇

戰前既設ノモノ	同北境川町	大林組製材工場	一三四	五〇〇、〇〇〇	
同	同九條中通一	小倉金釦工場	七	七〇〇	
同	同九條南通一	河野鑄物工場	五六	三、七〇〇	
同		中島鐵工所	六	六〇〇	
同	同	藤井綿合名會社	九三	一〇〇、〇〇〇	
同	同	青木鍛冶工場	二一〇	—	
同	同	筒井鐵工所	三〇	一、五〇〇	
戰後新設ノモノ	西區南福崎町	大國造船所	五、五〇〇	二〇〇、〇〇〇	
同	同	堀田製船所	四、八〇〇	—	
同	同	吉備造船所	—	—	
同	同	株式會社高尾造船所大阪分工場	五、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	
同	同	吉本造船所	五一〇	二〇、〇〇〇	
同	同	關西造船所	四、二〇〇	—	
同	同北福崎町	木村鐵工所	—	—	
同	同市岡町	中條製藥所	二一〇	一〇、〇〇〇	
同	同	長澤製綿工場	五六七	一〇〇、〇〇〇	
同	同	根來撚糸工場	三七	三、〇〇〇	
同	同	合名會社大阪製綿工場	三〇〇	三〇、〇〇〇	
同	同	平松莫大小工場	四二	一、〇〇〇	
同	同北境川町	大阪製械所	一〇〇	—	
同	同九條南一丁目	山本鐵工所	一〇	—	

(丙)ノ二　尻無川左岸地域

	場所	工場名	坪數	資本金
戰前既設ノモノ	西區泉尾町	松島鐵工所	—	—

戰前既設ノモノ	同	高木鑄造所	六四	一	一	一
同	同	萩森鐵工所	四五〇	一	一	一
同	同	吉川鐵工所	一一〇	一	一	一
同	同	津田貝釘工場	三〇	一	一	一
同	同	野村鑄工所	一六〇	一五、〇〇〇	一	一
同	同	大阪ベース商行（船具）	一	一	一	一
同	同	石本鐵工所	一〇〇	四〇、〇〇〇	一	一
同	同	中川硝子工場	三六	一	一	一
戰後新設ノモノ	西區千歲町	信貴造船所	四、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一	一
同	同	佐野造船所	一	一	一	一
同	同	千歲造船所	五、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一	一
同	同	谷川造船所	四〇〇	一一〇、〇〇〇	一	一
同	同泉尾町	東洋綿紡株式會社泉尾分工場	一、五〇〇	三、〇〇一、五〇〇	一	一
同	同	澤田製作所合名部	一〇〇	一	一	一
同	同	安田鐵工所	四〇〇	一	一	一
同	同	平岡伸鐵工場	一四〇	一	一	一
同	同	東洋捕鯨會社造船部	二、〇〇〇	一	一	一
同	同	新田造船所	四、〇〇〇	一	一	一
同	同	合資會社浪花造船株式會社	三、五〇〇	三〇、〇〇〇、〇〇〇	一	一
同	同	平田造船所	一、六〇〇	一	一	一
同	同	新堂造船所	四〇〇	一	一	一
同	同	浪花造船所	一、一〇〇	一	一	一
同	同	明石造船所	四七五	一	一	一
同	同	株式會社大阪造船鐵工所	八、〇六〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一	一

戰後新設ノモノ

場所	工場名	坪數	資本金
同泉尾町	小倉造船工場	三〇〇	―
同	山下造船所	四〇〇	―
同	白美アンチモニー製造工場	七二	―
同	大谷亞鉛工場	二〇	―
同	岡田鐵工所	七〇	―
同	花井眞鍮鑄物工場	三九	―
同	河上シヤーリンケ工場	一五〇	―
同	山内鐵工所	一一〇	―
同	西島造船所	七〇	―
同	大和田ボート造船所	七五	―
同	佐野川鐵工所分工場	三三	―
同	佐野川鐵工所	四三	―
同	堀上鑄物工場	二〇	一
同	愛姫鐵工所	二七〇	―
同	成尾切板工場	九六	―
同	三原鑄工所	四〇〇	―
同	宮所金庫仕上工場	三六	―
同	西平鐵工所	六〇	―
同	牧野鑄物工場	六二	―
同	山瀬鑄物工場	三六	―
同	合資會社一丸商店製材部	六〇	―
同	淺野亞鉛銅吹分工場	三七	―

(丁)ノ一　木津川右岸地域

戰前既設ノモノ	西區千島町	株式會社大阪鑄鋼所	二、五〇〇	五〇〇、〇〇〇		
同	同新炭屋町一三七	足田鐵工所	一、八〇〇	四〇〇、〇〇〇		
同	同　一五七	藤永田造船所	六、七一三	二、〇〇〇、〇〇〇		
同	同　一五六	東洋製氷株式會社	八九一	三、六六三、〇〇〇		
同	同三軒家下ノ町	竹内メリヤス製造工場	二九	四〇		
同	同上ノ町五五一	東洋紡績株式會社工場	三五、一三八	—		
同	同中口町一	小野鐵工造船所	一〇、〇〇〇	—		
同	同難波島町	名村造船所分工場	七〇〇	三〇〇、〇〇〇		
同	同　七三	神戸棧橋株式會社難波島造船所	二、五〇〇	五〇〇 〇〇〇		
同	同　八八二	名村造船鐵工所	七〇〇	二〇〇、〇〇〇		
同	同今木町一〇一	岡本造船部	六〇〇	三、五〇〇		
同	同三軒家上ノ町四五	應谷鐵工所	二六九	五、〇〇〇		
同	同　三一八	瀨田鐵工所	二一七	一〇、〇〇〇		
同	同　一九六ノ一	鳶福工場	一〇	三、〇〇〇		
同	同岩崎町五二六	東洋紡績株式會社工場	四、〇五六	—		
同	同松島町二	久米鑄物工場	三五	一五、〇〇〇		
同	同　松島町一	中森電氣工業場	一五	一〇、〇〇〇		
同	同泉尾町	泉鐵工所	四〇	二、五〇〇		
同	同	武林硝子工場	一三六	—		
同	同	加藤硝子工場	九四	—		
同	西區南恩加島町	八代メリヤス工場	—	—		
戰後新設ノモノ	同	大阪製鐵株式會社	二九、八七二	五、〇〇〇、〇〇〇		
同	同	大阪窯業株式會社恩加島工場	三、六〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇		
同	同	藤間造船所	五、〇〇〇	—		

戰後新設ノモノ	同南恩加島町	宗像コークス製造所	二三、〇五〇	一		
同	同平尾町二三	檜丸造船所	二、〇〇〇	一〇、〇〇〇		
同	同千島町三八七	金子鑄造所	五〇〇	一〇〇、〇〇〇		
同	同恩加島新千歳町	原造船所	四、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇		
同	同千島町二五〇	山下コークス株式會社	一、三五〇	三〇〇、〇〇〇		
同	同新炭屋町一七七	尼崎分工場（造船）	二、五〇〇	一		
同	同三軒家下ノ町二六五	新堂造船工場	一、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇		
同	同　二五九	品川銅亞鉛精煉工場	一五〇	七〇、〇〇〇		
同	同　二五九	蝶野製鋼所	三八〇	二〇〇、〇〇〇		
同	同今木町三二	名村造船第二工場	九六八	一五〇、〇〇〇		
同	同　一八	空造船所	二七〇	一		
同	同泉尾町	永田製綱工場	三三〇	一		
同	同	林硝子製造工場	七〇	一		

（丁）ノ二　木津川左岸地域

	場所	工場名	坪數	資本金
戰前既設ノモノ	西成郡敷津村	藤永田造船所	—	—
同	同	大阪鐵業株式會社造船部	—	—
同	同	横田商店造船部	—	—
同	同津守村	木津川セメント株式會社	一〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇
同	同玉出町	藤岡二郎（石綿製造）	三〇〇	—
同	同津守村	尼崎紡績津守工場	四三、七五九	三、五〇〇、〇〇〇
同	同	大原造船所	一、〇〇〇	一一、〇〇〇
同	同	津守鐵工造船所	九〇〇	九〇、〇〇〇
同	同	木津川造船所	一、一〇〇	一〇、〇〇〇

同	木津川製粉所	六〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	
同	津守煉瓦精煉所	五、四〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	
同西濱北四ノ四四二	秋田木材株式會社大阪支店	三八〇	—	一三、五〇〇	
南區木津川町三	原田商行造船部	—	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
同	小倉鐵工所	二三〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	
同木津川町	眞野己之助（造船）	一八〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	
同	福家精吉（造船）	五、〇三五	一〇六、〇〇〇	一〇六、〇〇〇	
同	濱常二郎（製材）	三八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	
同難波櫻川町三	堀内鐵工所	一〇〇	—	—	
同一	小澤鐵工所	六〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	
同	近藤製銅所	四五〇	二八〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇	
同木津川町一	松岡定二郎（製材）	五〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	
同	藤村龜二郎（製油）	二三	五、〇〇〇	五、〇〇〇	
西區幸町通四	正田與三郎（鐵工）	一八	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
同四	原田泰助（製綿）	一四七	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	
同　三	山積萬助（同）	—	—	—	
同	伊澤博二郎（同）	二一三	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	
南區難波反物町三五二	帝鋼合名會社第二工場	二一〇	—	—	
同	川上藤之助（鐵工）	二〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	
同	河野琺瑯製造所	四一〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
同難波櫻川町一	大島工場	二八〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	
同難波反物町	鎌田二郎（莫大小）	二〇〇	七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	
同木津北島町一	中井クローム製造所	一、一〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	
同	製々舍耐火煉瓦第二工場	二、〇〇〇	八〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	

同	木津北島町	橋耐火煉瓦株式會社	一、〇三三	一三〇、〇〇〇
同	難波芦原町	書籍株式會社	三八	二五〇、〇〇〇
同	難波塩草町	小松鑄造所	二〇〇	—
同	難波芦原町	熊井辰二郎(莫大小)	二〇	三、〇〇〇
同		井上工場(鑄物)	三〇	四、〇〇〇
同	難波稻荷町一	竹中鑄造所	七八〇	一五、〇〇〇
同	東神田町八六四	船津合名會社(琺瑯鐵器)	二五〇	—
同	難波櫻川町三	曾田精米所	一五五	五、〇〇〇
同	難波立葉町	松野兵吉(硝子)	四六	四、〇〇〇
同	難波櫻川町二	大阪鉛製造所	五五〇	五二、五〇〇
同	三	岩橋鐵工所	一	四、〇〇〇
同	二	赤阪工場(バケツ)	二〇	三、〇〇〇
同	難波稻荷町二	池上硝子製造所	三三〇	一〇、〇〇〇
同	番外七三三	鉛木硝子製造所	一九七	三、〇〇〇
同		小寺精銅所	五六三	一〇〇、〇〇〇
同	一	和田琺瑯部	七〇〇	—
同		池田アルミユーム製造所	六〇〇	—
同	西圓手町一〇二一	江名鐵工所	三五	三、五〇〇
同	難波櫻川町三	三好工場(硝子)	二、二四	三〇、〇〇〇
同		淺野工場(鑄物)	四〇	一、〇〇〇
同	二	杉田精米所	五六	三、〇〇〇
同		森本精米所	二五〇	一〇、〇〇〇
同	難波立葉町	大阪ニッケル鍍金所	三三〇	三〇、〇〇〇
同	難波櫻川町一	服部工場(ヒン)	四〇	三、〇〇〇

同	同	林工場（刷子）	一七	三〇、〇〇〇	
同	同	中西製綿所	五三〇	一〇〇、〇〇〇	
同	西區幸町通三	西井猪之助（コークス）	三〇〇	五〇、〇〇〇	
同	南區西圓手町五六〇	小田亞鉛製造所	一〇〇	二〇、〇〇〇	
同	同東圓手町	合名會社林刷子製造所	二〇〇	一〇、〇〇〇	
同	同	橋本製粉所	一〇〇	—	
同	同	佐渡島製銅所	八〇〇	一〇〇、〇〇〇	
同	西成郡今宮町	日本防水布合資會社	一〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	
同	同	林製鋲場	一三	三、〇〇〇	
同	南區馬淵町	久保田鐵工所第一工場	二七五	—	
同	同	田附木管場	二三七	三〇、〇〇〇	
同	同宮津町	村井石鹼製工場	三〇〇	—	
同	同北高岸町	合同紡織株式會社今宮工場	一七、八〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	
同	同木津敷津町	木下生箔所	八	—	
同	同	宮川石筆製造所	三五	—	
同	同	杉本白墨製造所	二、〇〇〇	—	
同	同南高岸町	粟津工場（石鹼）	五〇〇	七〇、〇〇〇	
同	同	岩津久治郎（敏子）	三三六	一五、〇〇〇	
同	同北高岸町	久保田鐵工所	—	一、〇〇〇、〇〇〇	
同	同難波新川二	大林コークス製造所	三一〇	一五、〇〇〇	
同	同北高岸町	ライオン護謨製造所	二一〇	四〇、〇〇〇	
同	同西關谷町	久保田鐵工所第一工場	二〇八	—	
同	同船出町	久保田製罐工場	五八	—	
同	同	鈴木工場（ホヤ）	二〇〇	四、〇〇〇	

戰前既設ノモノ	同　船出町	西脇工場（油壺）	一五〇	四、〇〇〇	
同	同難波新川二	谷コークス製造所	四五一	一五、〇〇〇	
同	同難波久保吉町	林孫平（鐵工）	三〇	三〇、〇〇〇	
戰後新設ノモノ	西成郡玉出町	上田新二郎（針）	—	—	
同	同	川島合資會社（顏料）	五八八	二〇、〇〇〇	
同	同津守村	カナヤ商店精煉部	一八三	—	
同	同字北島	村上精煉所	一八六	三〇、〇〇〇	
同	同	合名會社井澤本店津守工場（アンチモニー）	一、八二五	二〇〇、〇〇〇	
同	南區木津川町三	橋本造船所	二一五	—	
同	同	今田鐵工所	二〇〇	七五、〇〇〇	
同	同	天野造船所	一、〇〇〇	五〇、〇〇〇	
同	同	大阪坩堝合資會社	二九〇	四〇、〇〇〇	
同	同難波櫻川町一	村部鑄造所	二三〇	—	
同	西區幸町通四	笹尾正一（鑄造）	一〇〇	八〇〇	
同	南區難波反物町	穴明工場（錠鍵）	四〇	—	
同	西成郡今宮町字木津	旭電氣精鋼所	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	
同	同	日本舍密株式會社	七〇〇	—	
同	同	由木皮革工場	三〇〇	五、〇〇〇	
同	西成郡津守村字北島	田中坩堝煉瓦製造所	五九四	—	
同	南區難波稻荷町二	矢口フサ（製鋲）	一五〇	一〇、〇〇〇	
同	同難波新川三	日本ノート會社（製本）	四〇〇	—	
同	同難波稻荷町二	花咲茂平（精米）	六〇	四、〇〇〇	
同	同西圓手町一〇二一	合資會社千代洋行	一〇〇	二、五〇〇	
同	同難波稻荷町一	石井鐵工所	七五	—	

同	燃杭鋲製造所	九〇	一、〇〇〇	一	
同 同	竹島製鋼所	一一〇	二〇、〇〇〇	一	
同 同	淺野ニッケル鍍金所	一一			
同 同	櫻川ニッケル工場	三三五	三、〇〇〇	一	
同 同	井度幸七（コークス）	七〇	二、〇〇〇	一	
同 同	山中增三（金具）	八〇			
同 同	瀨川石鹼製造所	七〇〇	一八、〇〇〇	一	
同 同	三陽耐火煉瓦製造所	三〇〇			
同 同	加藤鍍金舖	八〇〇	五〇〇、〇〇〇	一	
同 同	カナエバツキング製造所	七〇〇			
同 同	鎌田工場（タイヤー）	二〇〇	三、〇〇〇	一	
同 同	吹元琺瑯部	一六〇			
同 同	伊藤琺瑯製造所	三四			
同 同	朝日プレス釦製造所	三一七			
同 同	平田サドル工場	二六五	二〇、〇〇〇	一	
南區木津大黒町 同	涙化製靴場	一、二〇〇			
同木津北島町四 同	中西製革工場	一〇九	二〇、〇〇〇	一	
同木津敷津町 同	長澤滋瑯工場	五七			
同南高岸町 同	戶川具釦工場	四二九	一〇〇、〇〇〇	一	
同木津敷津町 同	冷藏豆腐株式會社	一八〇			
同木津鷗町 同	岡本ゴム工場	一	一	一	
同難波櫻川町三 同	中野鐵工所	一〇	三、〇〇〇	一	
同難波新川二 同	岸本磯太郎（電球）	一			
同木津川町一 同	戶田工場				

第三　市有埋立地の利用

前節民有地に於ける工業の勃興と相呼應し、茲に等しく異數の開發を見たるは、市有埋立地の近況にして、築港利用の趨勢に伴ひ駿々として底止する所を知らざる狀態にあり。

市有埋立地は築港工事の一部を成し、明治三十年以降港灣の浚渫に從ひ漸次地域を擴張し、三十六年に至り現在の棧橋附近一帶の地は竣功せられ、三十八年其大部分の下附を受け、爾來之が貸渡に腐心し極めて低廉なる地代を以て、賃貸契約することゝなり、去る大正四年に至り漸く十二萬坪の地積を賃貸するを得たる狀態なり。而も土地利用の狀況は所謂借家經營にして港灣と密接なる建設物の起工をも見るに由なき有樣なりしが、最近三ケ年一般の市場の變動に從ひ、且埋立地整理の進捗に伴ひ、兩々時機の呼應するに際會し、茲に往時の遊覽的築港は俄然面目を一新し、港灣利用に直接關係ある事業の發展を目擊するに至れり。

左に大正三年に於ける埋立地利用の狀態と最近のそれとを比較し一覽表に示せば

埋立地利用種類別一覽表

	大正三年末	同六年末
官公署用	四七、〇一三坪	三六、二一〇坪
倉庫及屋上運送店	一五、二五五	四七、八七四
工場	一、四八四	一、八九六
民家其他	二七、五九三	二七九、二五三
運河	六八、六六八	七四、五八三
道路	四六、七五二	七七、八〇〇
	—	九六、九四八

埋立地内戸數及人口

	大正元年末	同二年末	同三年末	同四年末	同五年十月末	同六年七月末
戸數	一、三三一	一、六六五	一、八八八	二、〇六七	二、一四三	二、一九〇
人口	四、〇九二	五、八〇九	六、八三六	七、五二二	八、一一五	八、九〇三

	場所	工場名	坪數	資本金
戰前既設ノモノ	櫻島町	東洋木材防腐株式會社	八、六五七	一、五〇〇、〇〇〇
同	同	日本舖塗料株式會社	二五〇	一〇〇、〇〇〇
同	同	大阪鐵板株式會社	一、五九三	三、〇〇〇、〇〇〇
戰後新設ノモノ	同	三五合資會社(肥料製造)	四〇八	二〇、〇〇〇
同	同	旭精鑛合資會社	五六三	二〇、〇〇〇
同	同	市川株式會社(車輛製造)	七九八	五〇〇、〇〇〇
同	同	岡本榮三郎(製茶業)	六二〇	—
同	同	島田株式會社(木工場)	一、七〇〇	二五〇、〇〇
同	同	亞鉛鍍株式會社	一、五九三	二〇〇、〇〇〇

築港

	場所	工場名	坪數	資本金
戰後新設ノモノ	築港	萩原辰藏(石鹼製造)	—	—
同	同	日本豆粉株式會社	九八九	七五、〇〇〇
同	同	日本ベルト株式會社(調帶)	九八九	二五〇、〇〇〇
同	同	關家護謨工場	七三八	—
同	同	日本製鋲株式會社	一、七三七	二〇〇、〇〇〇
同	同	政岡貝釦工場	六七三	—
同	同	木村絹硝子製造所	八六五	—
同	同	木村猶三郎(製油)	九二〇	—
同	同	吉原定次郎(製油)	二、一五五	—
同	同	松野砂糖精製工場	二八七	—

右は既設棧橋附近及櫻島埋立地に於ける比較　なるも、最近時に於て新に使用許可を得たる南

方埋立地の發展に至りては、蓋一驚を喫する偶然ならざるなり、是等埋立地は大正四年度即大正五年三月末日埋立工事を竣工し、僅に二年有半にして其大半を利用し終りたるものにして、彼の名古屋、長崎、東京等の築港埋立地の利用方法に困し果てたる諸市の經驗と雲壤の差あるを見る、即前記地域の最南端部は、木津川の右岸に位して、一面は内港より木津川に通ずる水路に沿ひ、一面は木津川口を扼する三十五萬坪の埋立地にして、之が開發は實に今次の戰亂の餘澤と云ふべく、目下其利用に着手中なり。

事業經營者	坪數	
大阪窒業株式會社	五、三六二	(總坪數三、六〇〇)
久保田鐵工所	二、七六二	
大阪製鐵株式會社	五、六七三	(總坪數二九、八七二)
三原造船所	六、八二〇	
宗像ヨークス製造所	一二、〇五一	
原田造船所	三一、九九三	
旭造船所	四二、七五二	
大阪造船所	三八、八五一	
日本鋼管株式會社	二九、一七六	
新田造船所	一九、五八六	
日下部造船所	二六、九九六	
朝鮮無煙炭鑛株式會社	一〇、七六九	
櫻セメント株式會社 (戰前ヨリ經營)	二、六九一	
計	二三五、四八二	

前記築港埠頭地、櫻島町地先並に恩加島町地先埋立地の利用に從ひ、是より開發せられんとするは即其等埋立地の中間に位する新千歲町地先三十五萬坪並に福崎町地先埋立地六萬餘坪にして、共に築港の中心に位し、彼の内港の中樞動脈たる尻無川を挾むて、最も優勝の位置にあり。而して新千歲町地先埋立地は既に利用計劃を定め工場地域、住宅店舖地域及貿易地帶に之を區分し、目下貸渡開始中にして、其荒涼たる原野の面目一新せられんとし市が築港計劃により埋築したる百二十餘萬坪の土地の利用は、此區域を以て最後とし、是により内港に面する沿水地域の開發を了るべき情態にあり。

(以下次號)



都市計畫と市民的訓練

會員　葛野壯一郎

（一）

都市計畫の問題が民間技術界に於ても當路の官界に於ても、近頃著しく其注意を喚起し盛んに論議せられつゝ有るのは國家としても誠に悦ぶ可き現象で有ります。殊に內務當局に於ては近く其調査會を開催して具体的に是が責任ある研究調査を開始せらるゝまでに運んだといふ事は國運の發展上止を得ざる自然の結果とは申しながら此問題を最も眞面目に國家的に討議研究の緒を開く次第で、是亦一層慶賀す可き事實で有ります。

將來に於ける吾が都市を如何に計畫す可きやといふ問題は單に政治家學者技術家に止まらず一般市民としても利害の相關するところ最も密接で有るだけに、當面緊急の問題として眞面目な考慮を要する事は勿論で有ります。殊に此問題たるや計畫論議の甚だ容易で有るだけそれだけに、實施の頗る困難なるものゝ存する事は何人も容易に認知し得る事實で、眞に徹底せる大改良計畫を實施するが爲めには、市民として異常の努力奮起を要してはじめて其實現を見得る次第で有ります。私は都市計畫の論議が頗る高調し世の識者が一齊に此問題に共鳴しつゝ有る現況を甚だ喜悦を以て迎へると共に、吾が大小各都市の事實に徵して是れが實施に關しては滿

腔の憂慮を禁じ得ないもので有ります。

(二)

都市計畫といふ語は甚だ新らしいと云はんよりは寧ろ一個の疑問で有ります。少くとも吾が一般市民の耳に響くところは從來一二實施せられた市區改正事業を多少現代式に云ひ換へた位の理解を呼び起す位のものゝ樣で有ります。獨り一般市民と限らず政治家學者技術家にして此問題に幾分接觸しつゝ有る多數の人々にしても其見解は漸く此版圖に一歩を進めた位のいはゞ一個の疑問として以上には未だまとまつた立派な意見は無いかの樣に見受けらるゝので有ります。すくなくとも私一個の技術家としての見解を正直に露骨に告白すればその通で有ります。

これは都市計畫といふ言葉が甚だ概括的で有つて此内に包含するところ近代都市に關する施設經營の甚だ多岐にわたるものが有るのと、且つは多く引合に出される歐米の大都市の實況が是を吾が大小都市に比較して、其富に於ても因襲についても全然面目を異にする點が甚だ多い事に歸すると考へらるゝので有ります。單純に頗る皮相的に歐米大都市の美を觀精を察して是をそのまゝ吾都市將來に言及するが如きは、恰うど貧乏人が隣の富豪の寶を計算すると同じ樣なもので、何等實際上價値のない空論に終らざるを得ない事は私が改めて申す迄もない事で有ります。

私は必ずしも都市計畫といふ術語に此際異論をさしはさまんと試みる者では無論ないので有りますが、此一語の表現が甚だ多岐多方面で是に關する一般の理解が甚だ徹底しにくい點のあることを遺憾に感ずるといふ事を申上ると共に私は是をわかり易く『將來に於ける吾が都市を如何に計畫す可きや』とかやうに引延して考へて觀たいといふ迄の事で有ります。

(三)

廣き意義に於て人間社會は一の共同生活で有ることは勿論で有りますが其内でも都市に在つて此共同生活の意義を最も明白に表現しまた事實各市民なるものが深く其心持を持つて行かな

ければ到底一日も安住出來る譯のもので無い事は明らかで有ります。互に軒をならべ擔を接して營業し居住する以上、その都市に關する市區道路河川橋梁上水下水をはじめとして運輸交通建築等百般の施設の其何れもみな此共同生活の利害如何と切實に關連しまた事實それから打算考慮せられなければならぬ事は勿論、市民としては倦くまでも是等文明的施設の攝取によつて其共同生活により利便を不斷に向上する事につとめなければならぬ事は申すまでもないことで有ります。

併しながら此至極明白なる市民共同の利便といふ事は其理屈が何等の異議をもはさみ得ない程明瞭で有るとは反對に、是を實際に當つて遺憾なく計畫し施設するには各般の困難を生じ、完全なる効果を得るにはまたそれだけ莫大の犧牲を要する、語るに甚だ容易にして行ふに頗る難い問題で有るので有ります。是れは都市計畫の論議に先立つて何人も先づ充分に考へて置かなければならぬ緊要な點で有ります。

昔の支那の賢人の言葉に一國を治めるには其村と町を治め、村と町を治めるには其村なり町なりを形成する一家を治め、一家を治めるには先づ一身を治めよと云つた風の金言が有りますが、今吾が都市を將來如何に計畫す可きやの問題に當つて、私は切に此金言を繰返す必要を感せざるを得ないので有ります。徒らに聲を大にし其利を說いても、まこと共同利便の向上に關する眞面目な市民的自覺の基礎の上に築かれない經營施設の價値が甚だ疑はしく、寧ろ何等の稗益をも國家に及ぼさず、反つて其都市自然の發達を阻害するやうな結果を及ぼさないとは限らないので有ります。

(四)

都市の發達は『地の利と人の和』にあると私は平素觀察致して居ります。一二の除外例は有るとしても大体何れの都市にしても地の利即ち大きな河に跨るとか、海に面するとか、平野で八方に交通の便が有るとか、山で取圍まれて自然の要害をなすとか、非常に景色のよいところ

とか、周圍に農産林産鑛産等の富かなところで有るとか、地理的自然の利便に依らないものは無いと同時に、また一面には市民互に相和してそれ〴〵の施設を施し共同生活の事實を實現して今日觀る各都市の大を成しつゝ有る事は明らかな事で有ります。尤も多くの都市には中世以後是を支配す可きある武力或は金力によつて其市民の平和を指導し持續して來て居るので有りますが、とにかく都市が地の利によりて發達し人の和によりて存續して來たといふ事はまちがいのない事で有ります。

私は吾が現在各都市を見渡して其何れもが右の如く、地の利により人の和を得て今日の狀況に達した事を甚だ愉快に感ずると共に、そのなるがまゝに餘りに自然に餘りに自由に、且急速に更らに膨脹しつゝ有る事實を切實に觀察するので有りますが是れは私一人だけではない、すでに多數の人が是を認めて爰に百般の都市問題が吾邦にも起らざるを得なくなつた事は、吾もまた世界の進運中にあつて遲れながらも其共同の問題に次第に接觸せざるを得なくなつた事を證明するので、一層愉快に感ずる次第で有ります。

（五）

都市に於ける人口の激增は近世の產業發達が生んだ自然の結果で然も益々其步調を速かにして居るといふ事實を學者は各種の統計を以て委しく說明して居ります。而已ならず此步調で進むならば兎に角今後何十年かの後は大部分は交通の不能の慘狀を呈して爰に自滅の止なきに立至るので有ると迄極論もされると同時に、一面農村の荒廢益々其度を高めて是はまた反對の側から自滅の域に達するといふ事で有ります。兎に角是を何とか今の內にしなければならぬではないかといふ事が都市計畫の第一聲で有る事は何人もよく知るところで有ります。

すべて學者といふ者は取越苦勞をする者だとも觀らるゝので、今から何千萬年かさきになれば地球が亡びるとか、何十萬年になれば全世界は人間で以て埋つて仕舞ふとか、イヤ何星と何

年何月には地球が衝突して焼けて仕舞はしなからうかとか、眞面目に随分とコンナ計算をやつて苦勞して居る人も多數にある事は事實で有ります。

併しながら都市と農村の問題に關する學者の取越苦勞は是とは大分性質も異なり、また何萬年と先の知れないといふ問題ではなくて今や既に其途上に在つて誰れにでも認知せらるゝ現在の問題で有るだけに是れは單に取越苦勞とのみは聞流す譯には行かないので有ります。兎に角如何か仕なければならない狀態に迫つて來て居るので有ります。換言すれば地の利を失ひ人の和を保ち得ない樣な狀態に次第に近づいて來たので有ります。一個の風船玉に空氣を吹き込んでそれが次第々々に膨脹し、遂には破烈の危態に陷らんとして來たといつた形勢で有ります。

物が平和を得なければ鳴ると昔の支那人は申して居りますが現下の都市問題は即ちそれで、地の利が破れ人の和が欠けんとして爰に都市の將來を如何に計畫す可きやの聲が鳴りはじめ、吾が大小都市もまた其風潮に洩れず遲れながらも其聲を擧げんとしつゝ有るのが現今の都市計畫の問題と理解す可きで有ります。

(六)

都市の膨脹人口の密集に對して一面是れが散開の策として田園都市或は花園都市等の方策が考案せられ歐米都市の一部では既に色々の試みが實行せられて居る事も人のよく知つて居る事實で有ります。不健全な病的な都市から離れて自然の純なる美くしい清い空氣の中に新市街を設立し其生活をして勉めて自然に近づかしむると共に一面に於ては都市的生活が受け得るところの凡ての科學的便利をも兼備すると云つた風なのが此方策の根本で有ります。是れは近代的交通機關の發達が自然と斯の如き考案を産むに至らしめたもので、多くの勞働者を聚集する大工場の如きはつとめて是を適當な郊外に移轉して其周圍に全然理想的の新市街を經營し、特種の運輸機關を設けて輸送の便を計るといふ事は都市人口密集の弊を除去する上に於て甚だ有効

で有る事は申すまでもなく明らかな事實で有ります。

或はまた中流以上の住宅地區の如きは特に是を數哩の郊外に設けて自然の風光の內に住居に必要なるあらゆる文明的施設を設くると共に、その都市との交通方法さへ完美するならば是れまたたしかに都市に於ける人口集中の弊を調節してかなりの効果が有ることは當然で有ります。田園都市或は花園都市等と稱す可き程の組織的のものではないが大阪を中心として發達しつゝある効外居住地の如き近時著しく膨脹し且つ最不健康的傾向をして益々助長せしめつゝある大阪市人口の一部を散開せしめて相當効果のある事は明了で有ります。只其施設の大部分が營利的で有る事に於て現今のところ色々の不便が伴ひ充分推賞に値するや否やは疑問で有ります。

(七)

問題が大分横道へそれた感じが有ります。私は此章に於て都市計畫問題に關して市民的訓練の甚だ急要で有る事を是非申述たいと考へて居つたので有ります。

人が此世の中に生れて生活し社會を組織して行くには是非人の道即ち人間的訓練が必要で有ります。更らに一層是を狹く考へて觀ても一個の村とか一個の町に生活して行くにはその村人として町民としての考へ方行爲が必要となり或種の訓練を要することに窮極するので有ります。最初に申した如く都市生活なるものは一大共同生活で、その都市全般に見たる消長が著しく市民個人の上に影響するが如く市民個々の思想行動がその都市一般の施設發達に是亦甚だ相關聯するいはゞ開明の都市は市民先づ開明するを要するといふ事になるのであります。個人的訓練については古來それぞれの道があつて今更事新らしく是を唱導する迄も無い事は勿論でありますが、對社會的訓練に至つては甚だ缺けたるものゝある事を感せざるを得ないのであります。殊に完全なる市民的訓練の如きは、都市改造或は都市計畫の圓滿なる實施に際し意見を高調し官憲と市民と協力するに非ずんば到底充分な効

果を豫期する事は出來ないのであります。

（八）

その一としては先づ第一に市民の愛都心を高める事に努力したいと思ふのであります。由來吾邦人は忠君愛國を以て世界に鳴るもので、國を愛するといふ事に就ては世界その比を觀ないのでありますが、自己の營業し居住する都市そのものを愛するといふ觀念に至つては愛國心とは比較にならない程稀薄なるものが有る樣に考へられるので有ります。

晩近都市の產業的發達は多數村落民を吸收するに至つた結果自然寄留者が多くなつて來る譯で有ります、是等多數の寄留者は一時的或は永久的その何れにせよ、その都市と親しむ事が甚だ薄いのみならず其多くは下級勞働者の類で只々目前の衣食に是日も足らず追隨する類の連中で有ります。從つて是等の部類に屬する市民に向つて其愛都心の甚だ稀れなる事を論議するのは或は甚だ誤で有るかも知れないので有りますが、然し是以外永く其都市に居住し最も親近の關係の有るもの或は又外來者としても其都市に營業して相等の地位に在る者の如きはすべて其都市を愛するといふ事が最必要で有ります。

都市に於ける有識階級の愛都心は凡ての都市問題解決の根本であらうと私は信ずるのであります。何程財力があつても智識を聚めても此根本の市民の愛都心にして欠けるところがあるならば其施設の實際價値の如きは押して知る可きで私は現下の大問題たる都市計畫の實行の如きも先づ其第一步として市民の愛都心に愬ふるところが無ければならぬと考ふるのであります。

（九）

市民的訓練の第二としては犧牲の觀念であります。凡そ人事百般何事にせよ犧牲なしには到底何等かの結果をも得るもので無い事は明白でありますが、都市生活に在つては殊にその必要が認められるゝのであります。都市が共同の生活であるといふ事からして自然明らかなるが如く市民は常に此共同の利益幸福の爲めに何物か是れが犧牲を仕拂はなければならないのでありま

す。道路を立派にし交通に便するためには高價な土木費の支出にも甘じなければならず、教育を普及するには多額の教育費をも負擔しなければならぬ事は當然であります。

只獨り道路を歩む場合としても多數交通の便宜のためには左側通行の制度も守らなければならず、電車に乘るとしても共同の乘物であるためには非常な混雜にも互に讓り合ふだけの雅量を要すると云つた具合に、立つにも行くにも必ず相當の犧牲的觀念なしには都市的生活は出來ないといふ事になるのであります。如何に道路計畫が完備し交通系統が整美するとも一般市民に此都市生活上最必要な共同的犧牲の觀念が欠けるならば其結果は甚だ遺憾の多いものであらうと信ぜらるゝのであります。

(十)

市民的訓練の第三としては公共的施設の愛護心であります。個人私有のものならば工作物にしても其他のものにしても是を大切に保存する事は何人もつとめる處でありますが公共的施設となると是を愛護し保存する點に關して一向に注意せられないのみならず、寧ろつとめて破壞する事を得意とするが如く觀ねるのであります立派に道路が出來橋梁がかゝつても一般が何等是れに對する愛護の精神が無い結果道路は壘芥に埋まれ凹凸殆んど歩むにも不便を感ずる樣になるまで捨てゝ顧みず、橋梁の如きもアスハルトは剝落龜裂し手摺のペンキは落ち親柱の電燈球は凡て破壞しつくされて且亦顧みるものゝ無いと云つた狀況は毎度觀らるゝところであります。

其官衞學校の如き公共的建築物が最も不潔に放置せられて顧みるものゝ無い事だの公園の如き常に特別の注意を拂はない限りは樹木の汚損休憩所共同腰掛等の破壞等到底常識を以て考へられない程度のイタヅラが日夜行はれて居るといふ始末であります。個人の物よりは共同の物は共同の利益のために一層大切に愛護するといふ事は市民としては是非訓練せられなければならぬ觀念で是れなしには到底滿足な都市的生活

は一日も終始する事が出來ない事は明らかで有ります。

要するに近時益々其聲を高められつゝある都市計畫の聲は誠に悦ぶ可き現象で今や吾大小各都市は一齊に此問題を如何に解決す可きやに向つて其調査の歩を進めんとするに當つて私は其れが獨り市理事者學者の間にのみ理解を持つただけでは何にもならない。是れに關しては一般市民が眞に現代都市の欠陥を自覺し且つ將來の市民として都市生活を最圓滿平和なるものとするには更らに市民的に一層の訓練を要する事を識らしむるのが都市計畫と相併んで最緊要の問題で有る事を切に感ずるもので有ります。

（完）

帝京篇　　略賓王

山河千里國。城闕九重門。不レ覩二皇居壯一。安知レ天子尊一。
皇居帝里崤函谷。鶉野龍山侯甸服。五緯連レ影集二星纏一。
八水分レ流橫二地軸一。秦塞重關一百二。漢家離宮三十六。
桂殿陰岑對二玉樓一。椒房窈窕連二金屋一。三條九陌麗二城隈一。
萬戸千門平且闊。複道斜通鴛鵲觀。交衢直指鳳凰臺。……

（唐詩選）



技術家とは何ぞや

大阪市役所
港灣部長　直木倫太郎

（一）其本領を如何

苟も技術家として我等が世に立つ以上『我は技術家なり』との一語には必や千鈞の重みある意義を保たしめねばならぬ、萬尋の深みある含蓄を備へしめねばならぬ、百の不平も千の屈托も『我は技術家ならずや』の一語に顧みては忽ち釋然として自得し莞爾として微笑し得る底の物頼母しさを帶びしむるは無論のこと進んで社會の表面に其立場を固め其權威を揮ふに方りては即ち其進撃と健闘とを彩る名譽の旗印として『我は技術家なり』との高調に乍ち猛然として起ち毅然として奮ふ底の強味を響かしめねばならぬ。

縦しむばそれがだゝ我等技術家の仲間うちばかりに通ずる一種の合言葉たるに止まつてもよいではないか、世間の思はくばかりに氣兼ねして何時も遠慮勝ちな狹苦しい小天地にのみ蟄伏するの苦痛には最早誰も飽き切つて居る筈である、その引込思案の過去の囚はれから目覺めて眞個積極的に意義あり力ある技術家の本領を尋ね求むることが、今の技術家の誰にも痛切なる大きな問題として考へられねばならぬ

が此際果して誰かよく我等の耳目を聳動し我等の志氣を喚發せしむるに足るべき熾烈なる雄たけびを與へて呉れるのである、何處に我等は我『技術家』の定義にだもせめて一味の靈感に打たるる許りの雄大なる含蓄と高遠なる理想の吹込まれたるを見出し得るのである。

（二）生温い量見

一体『技術』若しくば『技術家』の定義として何んなことが言はれてある。

それを知らんと欲して我等は先づ手近く彼のエンサイクロペヂア、ブリタニカを始め獨のマイヤー。佛のラルーズ等の大辭書を繰つて見た處が其何れもが同じやうに『技術』を解して『設計と構造の術』なりと註し且つは細かく其内容を類別したるに過ぎぬ。如何にも『技術』が設計と構造の術であり『技術家』がこれに從事する專門家であること位の間違ひの無いことはない、即ち其意義の妥當と正確さに於ては、恐らく之れ程無難なるはあるまいが、併しそれが何程我等を刺戟し感奮せしむるかを思へば、其あつけないことも亦此上はあるまい。正しく設計し正しく築造し懇に監督し懇ろに處理す。如何にも職業として見たる技術の要領は大方それ位のものであらう。社會一般の我等に認むる處のものは、尙更以て其邊であらう。そして或は今日の技術家自身も亦恐らくはたゞ左樣に理解し左樣に分別して首肯き合へるかも知れない。結構ではあらうが唯それだけで以て我等技術家の本分が說き盡されたものかと思へば餘りに本意ない。否吾々自身が唯左樣に迚々しい願み勝ちな、生温るい量見に浸つて居るがためにこそ却て『技術』が死んでしまうのではないか『技術家』自身で自己を氓ぼしつゝあるのではないか。

或は斯樣な字書類からして含蓄ある意義を捜さうとしたのか間違かも知れぬ、併し之等の字書は多くは其國其時代の一流の專門家に托して一字一語を練らしたものであるから、或は其處に此意義に寄せて技術家の快氣焰を揚げたるふしもあらうかとの興味がないではなかつた。がそれは無駄であつた。

（三）この意氣込

處が彼のアメリカン、エンサイクロペヂックヂクショナリーを見ると。其處には『技術家とは獨創の才ある人を云ふ』Engineer is a person of geiuns or ingenuity— と至極ずばぬけた文句

が掲げてある。即ち其意氣込の何たる雄々しさである、其見識の何たる雄々しさである。これでこそ初めて我等に對つて一道の生氣を附與し得るものではないか、世間の目の前に古今の業物を大上段に構へて、當るを幸ひ斬崩さんずる氣勢が溢るゝではないか、或は遠慮深き技術家自身が傍から其袂をそつと引き〳〵、其意味の餘りに廣きに失して定義の体を爲さぬを案ずるかも知らぬ。如何にもそれに相違は無いが、併しそれは技術家ならざる餘人の云ふべきことである。苟も技術家自身に筆を執つて、我は何ぞやと說くべき場合、斯許りの快氣焰を揚ぐるに於て何の憚かる所である。

我等の本領にして此の如し又は斯くあらざる可からずと信ずる以上寧ろ堂々とそれを主張し標榜することによつて、其處に我から氣高く頼母しき自尊自重の信念を喚起し來るは固より、併せて世人をして其意氣に推服せしむべきではないか。定義としての是非は兎も角斯く書き下して敢て恥ぢざる底の筆者の氣組を思へば、我等は漫ろにこれを欽仰せざるを得ぬ。

(四) 獨創の才

況や誰が技術家を以て獨創の才なき人と思ふのである。我等が常に他に卒先して新しき問題を捕捉し、咀嚼し、設計し、構造するは、これ直に其獨創の才に富めるを證するものではないか、我等の凡てが智識ある階級として立つのみならず殊に常人の見て以て至難とする算數的打算に長じ、綿密なる科學的批判を得手とし、百般の施設悉くこれを基礎として、最も着實に、穩健に考案し實行し來る處、其何處に豊かなる創意の伴はざるがあらう。即ち我等の大なるものは夙に天下國家の重きに任じて其進歩開發のために創意の見を擅まにし、我等の小なる者と雖も亦斷わず其受持つ現場々々に觀察の眼を見張つて能く事業の改善に創意の功を發するではないか。必ずしも顯著なる發明發見のみが所謂創意の顯はれではない。我等が製圖板上に描く一線一畫の末にだも常に潑溂たる獨創の天地はあるのである。

亞米利加では通俗に『他人が二弗で爲すべきことを一弗で仕遂ぐるものが技術家である』と斯く呼はれて居るのも、亦畢竟我等が最も健實な獨創の才に溢るゝ所以を經濟的に說明し得たるものではないか。

措辭は卑近ながらも亦以て技術家の Man of Ingenius たる所以の面目を表現したるを取るべきであらう。

(五) 呑氣千萬

此處に近頃我國知名の多數の技術家の手によつて編成せられた『工業大辭書』がある、それには又何のやうな快心の文字が手强く彩られてあらうかと、少なからぬ興味を以て開いて見た。處が何うだ『技術』の題下には『技術は藝術と同意義に解せらる、然れども當今は一般に藝術の語多く用ゐられ技術の語を用ふること少し』と何が何やら皆目我等が想像にだも及ばぬ不思議な文字が陳ねてある。呆然として開いた口が塞らぬとは全くこれである。流石に結構なる我極東の技術家諸君よ。

恐らく此書は多數の專門家の分擔に成つたが爲めに、却て『技術』とか『技術家』とか云ふあたりには誰も氣付かなかつたのだとの辨解があらう。が、寧ろ其處に即ち技術上の萬事は心得切つては居るが技術家の何たるかは格別思ひ起したこともないと云はんばかりの今の技術を眼に見るやうな迂濶さ加減呑氣さ加減が、皮肉に味はへるではないか。或は左樣な文句は我等相互に取つて寧ろ說明をだも俟たざる自明の理であるとの斟酌からだとすれば、然らば何故また斯かる場合に於て、せめて我後進なり又他の社會を相手にだも、高く强く、堂々たる自家の權威を見せ付けては置かなかつたであらう。

無論彼のアメリカン、エンサイクロペヂック デクショナリーの如く技術家を以て直ちに獨創の才ある人と解するの、それも正しい定義ではあるまい、或はそれは餘りに Engineer の語源たる Ingenius の字義に拘はり過ぎても居やう。然かも今日兎もすれば其語源を以て Engineer (機械の扱ひ手) ではなかつたかとさへ疑はしむ

る許りの卑屈な感想から我等を救ふて一指直ちに高く Man of ingenius を擧示した處に、此定義の妙味が滴たる許りではないか。英のブラッキーが其自修論に Man of thinking と Thinker を區別して論じた趣旨を追へば、我等は Engineer と呼ばるゝ其語調にさへ既に〳〵不滿である必ずや我等は Man of engineering を以て自ら居らねばならぬ。『技師』たり『技手』たる不景氣な稱呼を避けて、誰もが『技術家』たらねばならぬ。敢て文句の末に拘泥するのではないが、少くとも我等各個の意氣込みは正に斯くあらねばならぬと信ずるからである。內に自ら任ずること高からずして外に他の侮りを防がんは難しと思ふが故である。

(六) 科學と術

技術家が折々さも氣持よげな、伸び返つたやうな調子で以て、「技術は科學にして同時に術である』—Engineering is the science and the art—と歌ふのを聞く。無論これもよい。今の技術家の修養と鍛錬とから推して、斯く云ひ放つた處で當然何の不思議でもない、何の誇張でもない。而已ならず若し斯く高唱することによつて其處にいくらかでも我等技術家の意氣を緊張せしむるものありとすれば、それも頗る結構である、仕合である。

が技術家の任務が、科學の研鑽と實地の應用とを兼ね備ふる處にある位のことは誰しも疾くから承知の筈である。それに斯やうな平凡な當然過ぎたる文字を陳ねてそも〳〵それが何等かの暗示を與ふる警句でゞもあるかのやうに有難たがつたり、得意がらしむるに至つては抑も何うした加減か。

一体に世間は學者を高く見て居る、即ち科學者を重ずる割には技術家を安く踏む。同じ技術家の內でも學者らしいのが尊ばれて實地家が輕せしめらるゝ。渠は純理の研究者にして是れは單に其結果を承け繼ぐ利用者である、渠は頭腦の人にして是れは手足の人であると、ザット斯様に見比べて自然と兩者に高下の差別を附したがる。其處で其待遇に屈托した技術家自身が、

なにくそとの意氣込みで以て『技術は術でも同時に科學じや』技術家は技術家でも同時に學者に相違は御座らぬと、頗る科學の二字に重みをかけて、口惜しまぎれの悲鳴を揚げたのが抑も此名文句の我等に價値ある所以ではあるまいか若し然らずとならば、此句から『科學』の二字を取除いて、而して其剩す所の價値更に幾何と考へて見るがよい。

然かも技術家がさほどに科學者たるべくプレテンドしたがるは、之れ却て自家本來の立場を忘れたものではないか『我等は技術者なれども而かも同時に科學者である』と叫ぶは、寧ろ餘りに技術家の本位を蔑みするものではないか。左樣な卑怯の人々の爲めに、我等は茲に曾て米國土木學會々頭であつたサー、アレキサンダーケチジー氏の會頭辭の一節を引用するを禁せぬ

氏の曰く凡て技術上の問題は一般に學者によつて取扱はるゝ科學上の問題とは頗る其解決の難易を異にするものである。之れ一は其問題の一層複雜にして、從つて其精密なる解決の一層困難なるにあり、又一は其解決の精と不精と不可能とに拘らずして是非とも何等かの解決を見出さねばならず、又同時にそれに對する全責任を負擔せねばならざる点にある。『否啻に何等かの解決が見出されねばならぬ許りではない、啻にそれに對する全責任を負擔せざる可らざるのみではない。件の解決は再びこれを鐵と木と石と及び勞力とに飜譯されねばならぬ。又三度びこれを何圓何錢の價格に飜譯されねばならぬ。又四度びこれを實地の工作と其指揮運用とに飜譯されねばならぬ。而已ならず其飜譯の何の過程に於てだも若し何等かの誤謬あらば、其一切の責任を擧げて渠に歸するは固より、其結果の影響する所の大なる到底彼の科學者の所謂新研究新發見の類ひではない。

況や技術上の問題には多くは必ず幾通りかの解決方法あるを得べく、且つは其凡てが何れも同樣に妥當なるのである、即ち其數ある解決方法の內よりして特に最良のものを攫むの道は之は決して單なる公式上の問題にあらず、又は計

算の粗密に關する事柄にもあらず。實は却て技術家自身の活眼と活識との修養如何に待たねばならぬ点である。

『卽ち之れ渠に取りては、彼の一般科學者よりも遙に高邁明達なる科學的精神を發揮せざる可らざる所以であつて而して一般科學者よりも我等技術家の爲す處に、一段の高みと深みとを明かに自覺し確信せざる可からざる所以である』と。

善いかな言や。苟も技術家を以て任ぜん程の者が誰とて是程の意氣は持藥として常住携帶せずしてなからうか。而して今顧みて『技術は科學にして同時に術である』と云ふの畢竟何れ程權威ある名文句であるかを再思し來らば如何に『科學と術』である位のとで以て到底滿足され得るものでない。技術にはもつと強い固有の意味がなくてはならぬ、もつと新しい高い匂いがなくてはならぬ、もつと〳〵活々した鋭い刺激がなくてはならぬ。その何れにだも觸れざる斯様な文句で以て。容易く我等が感激し能ふ道理がない。

（七）自然力の利導

茲に我等は英國土木學協會が其會憲の劈頭に掲ぐる彼のトレッドゴールド氏の名文句を漫ろに回想するを禁ぜぬ、何ぞや。技術とは汎ねく人類の利便の爲めに、自然界の偉大なる力を利導する所以の術である』— The art of directing the great Source of power in Nature for the use and Convenience of mankind— と一語簡潔を極めて然かも何たる豪快である、雄渾である。日頃鬱陶しく燻りかへつた我等が頭も、こを三誦した許りで以て乍ち澗如として萬斛の不平を一度に放下し去るの感なきを得やうか。

我『技術』の目ざす處のものは、其一方には盡くるを知らざる自然界の總ゆる力であり、他の一方には足るを知らざる吾人人類の總ゆる欲望である。卽ち此總ゆる欲望のために彼の總ゆる力を利導して、以て倍々一般社會の福祉を增大展充せしむる所以の實行其ものが『技術』で

ある。面白いではないか。殊に注意して利導（direct）の二字が如何に權威あるかを見よ、それは單なる發見若しくは研究を意味する言葉では無い、必ずや飽く迄もこれを捕捉し、これを操縱し、これを處理し、變化し、活用して、現實に人類萬般の利便を增進する處に、始めて利導の意義を爲すのである。而して此利導の任に當るものにして始めて「技術家」たるのである。

恐らく今日まで技術に向つて斯程に簡明に、適切に、鋭利に而かも周到に、その本領を道破し得たる言葉があらうか。即ち顧みて彼の『技術は設計と構造との術である』とか『技術は科學にして同時に術である』と云ふが如きと對比し來れ、其內容の大小は云ふにも及ばず、第一その吾等に與ふる感激の强度に於て、さても何たる相違である。

即ち技術の定義としては最早格別此以上を要求するにも及ばぬ位に滿足である。我等は何處迄も此豪宕なる辭義に徹し、此偉大なる任務に顧み、更に到る所に此積極的な愉快なる主張を宣傳して以て我涯分の努力を擧ぐべきである。

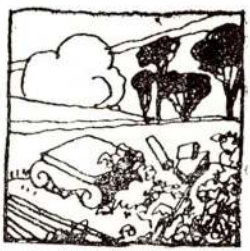
（續）

□斯界の面目□

折角學んだ技術教育を根抵として、其習熟した技術を踏石として何時でも廣い社會に跳れ出すやうな、覇氣あり自信あり猛志ある我武者連が、續々として今の技術界に蹶起し縱橫し來らんことこそ、如何に斯界の爲めに仕合せであらう。

手器用な小利巧な、因循と溫和と綿密とで固めた許りの者が、斯界の要求する凡てゞあると思つては間違ひである。科學的素養ある野心家、冒險家、事業家、思想家、政治家などの色々が星火のやうに飛散つてこそ、活動を本意とする斯界の面目が其處に初めて熾なる譯ではないか。

（直木氏著—技術生活より）



本邦森林と建築用材に就いて（二）

會員　谷民藏

◆本邦主要木材産出地の林況一般

□青森縣下の主要木林に就いて

△櫟林の分布　△林況
△津輕半島　△下北半島
△大鰐弘前方面　△東嶽方面
△早池峯園地　△五葉山
△縱林　△杉林
△青森縱松林　△濶葉樹林
△樹木整理期　△輪伐期（樹種輪伐期表）
△造材の種類　△面積蓄積及年伐量
△貯木場　△操業の狀況

本邦陸地の大半は森林の占有する處であつて、之が林況を詳かにしやうとすれば、限りある紙面と、調査機關の不備とから見て到底解決すべきものでない。又建築用材の調査といふ側から見ても徒らに繁雜に流れ勞して功なき結果となる、そこで玆には建築主要樹種ともいふべき左の五六種の所管に就いて、之れが林況の一般を順次採錄することにした。

■青森の羅漢柏
■秋田の杉林
■木曾飛騨の五大木
■北海道の椴松、蝦夷松
■鴨綠江の紅松、縱松
■臺灣の扁柏、亞杉

予が拙き筆の跡　牛のよだれの夫の如くに長く細くのびく〳〵て讀者の叱正を買ふことは固より覺悟の前である。願くは遠慮なき斧正を願ひたいものである。

□青森縣下の主要木材に就いて

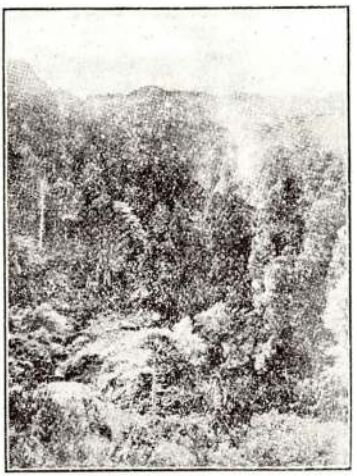
青森縣下には多種多樣の樹木があるが就中羅漢柏が其大部分を爲す、主として青森大林區の管轄に屬し青森、岩手、宮城の三縣及秋田の一部に跨り主として彼の雄大壯偉なる陸羽中央山

脈及之と竝峻する北上山系を占め其面積約壹百萬町歩蓄積材三億壹千餘萬石に上るといはれてゐる。林相は概ね優良であつて其の樹種は管内を郷土とする「ヒバ」及「ブナ」を以て針濶兩種の大宗となし其他針葉樹に於ては「スギ」「アカマツ」「クロマツ」「モミ」「ツガ」「ヒメコマツ」「アオモリトクマツ」等濶葉樹に於ては「ナラ」「カヘデ」類約壹百餘種を交へてゐる。就中据材の蓄積五千有餘萬石針葉樹蓄積の八割弱を占め其の郷土である津輕下北の兩半島に於て據林の面積廣漠たるに加へて林相の完備樹容の雄麗なる眞に天下の偉觀と謂べきである。

往時は「津輕」「南部」「仙臺」の三大藩の所領に屬し經濟上又は保安上の目的のみに止まらず更に軍事的關係に重用せられてゐた。封建制度獨特の威力を以て之が保護管理を斷行してゐたが明治の初めに至り不逞の徒數々出で、濫伐暴採を敢てし前後僅かに二十年を出ずして舊藩數百年の努力に成りし奥北の美林も其林相頓に頽廢し不整備に傾くに至つてゐる。そこで其後政府は鋭意之が改善に努め明治十九年林區署制度創定せられ林政の機關漸く完備し次で明治三十二年森林法の發布となつてから以來保護經營は年と共に理想の域に到來するに至つたのである殊に現今は最早官行斫伐の開始せられ或は運搬機關貯材設備の改良又は森林鐵道の敷設となり或は更に進んで官行製材の創試を爲し以て久しく天下の視聽が洩るゝところありし據材は世上に紹介せられ兼て其の販路を開拓し來り今や海内の各地は勿論遠く朝鮮滿洲方面に輸出する樣になつた。

本山岳の山形は甚だ複雜なるを以て氣象亦同じからざることは止を得ない陸前地方は西北一帶に山を負ひ地勢東南に面し暖流の影響を受る事多く氣候は概ね平穩温和であるけれども陸奥地方に至りては三面海を環らし西北に向つて傾斜するを以て氣候一般に荒涼して且つ變動の甚しきを見るといふ風である陸中は兩者の中間にありて氣象亦大要平均せらるゝものあるも土地高く山稜多く寒瘦で且つ雪が多い部分が廣い。

氣温平均九度六乃至十二度六降水量一〇〇〇、粍乃至二〇〇〇、粍、風は一般に西風多いけれども地形其の他の關係により南又は北に傾くを常としてゐる、雪は十月下旬から翌年四月中旬まで約半年間に渉りて降り山地は十尺以上に及ぶこと稀らしくない、結霜は十月中旬から五月中旬迄で七ケ月に渉るといふことである。



相林林柏漢羅部眞內

△椙林の分布

羅漢拍即ち椙「アスナロ」若くば「アスヒ」奥羽地方にては「ヒノキ」北越地方にては「クサマキ」と唱ふ本樹木は植物帶上には溫帶に屬し特に其の北部或は上部を以て鄉土とし彼の「ヒノキ」「ヲヅコ」「サワラ」等に比べて較寒地を好むものゝ樣である即ち本州中央山脈に於ては是等と其位置を同うしてゐる木曾にては是等とは混淆して存在すれけれども其の本然の鄉土と認められ純林を作して廣大なる地積を占むるものは陸奥國であつて山岳地にては海拔三百尺以上の地を占め「ブナ」一齋林の下位に位するを常としてゐる、管內「ヒバ」林面積約二十萬町歩之が蓄積五千餘萬石に達す今主なる「ヒバ」林の所在面積及蓄積を示せば左の如くなる。

地方	事業區面積	蓄積
津輕半島	七四、一一七、町歩	二七、九七二、千石
日本海岸	三三、九二八、同	二四八、同
弘前大鰐方面	三八、七五〇、同	四、二〇五、同
東嶽方面	二五、七五四、同	一、六七四、同
下北半島	一〇四、四四三、同	一七、九五〇、同
陸中方面	一一一、〇八八、同	一、七〇二、同
計	三八八、〇八〇、同	五三、七五一、同

備考 一、本表は十萬石以上のものゝみを掲ぐ

二、本數字中或は多少他の針葉樹を含む
三、面積は事業區の全面積を掲げたるを以て必ずしも「ヒバ」の占領面積と稱し難きものと謂せられたし
（管理）尚參考に迄青森大林區の所管面積を登載す

管內國有林面積は一百萬餘町歩（要存置面積九十六萬三千三百二十六町歩にして不要存置は四萬一千九百九十五町歩にして之が林種別左の如し（大正三年度調査）

縣 / 面積 / 林種	青森 面積	岩手 面積	宮城 面積	合計 面積
供用林	四二、一三八	四二、一三九	二八、五三	九五二、〇五〇
保安林	一九、〇九九	六、八一六	九、六九二	三五、六〇七
部分林	四、五三三	二一	三、二七	七、七六二
計	四三五、七六〇	四八、二六七	一四一、三九二	九九五、四一九
原野	七、九一五	一、七二〇	二五七	九、九〇三
合計	四四三、六七五	四九、九九七	一四二、六四九	一、〇〇五、三二二
臺帳面積	三五二、〇六〇	四二、〇六〇	一四二、六四九	一、四九九、八二六

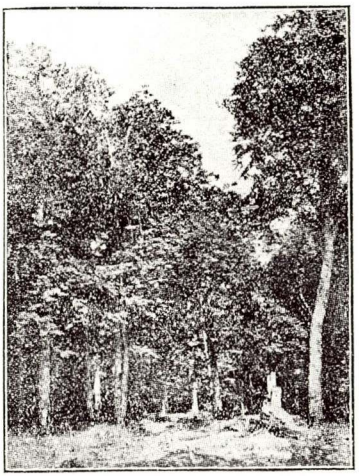
△林況

古來本洲を形容して屢々蚊龍昇天の狀と倣す樣であるが陸奥國は之が頭部に位し其の兩鰓に該當するものを下北及津輕の兩半島となす此所が即ち「ヒバ」樹本來の鄉土であつて或は之が頭髮となり或は之が鬚髯ともなり以て其の偉容を倍蓰せんとするの概がある此の他陸奥、陸中兩國に於て斯樹の美林の存するありて所在に散點してゐる。今其の有名なるものに付き細說することゝしたい。

△津輕半島の椹天然林

津輕半島脊梁山岳を構成せる地籍は殆んど國有林に屬し東西四里南北十有五里に亘り面積七萬四千餘町歩を有し其大部分は「ヒバ」單純林又は「ヒバ」雜の混淆林の占むる所である其蓄積は前表に示す樣に「ヒバ」純林にて二千八百萬石其他濶葉樹は主として「ブナ、ナラ」壹千五百餘萬石に達してゐる其「ヒバ」樹齡多くは百年以上二百年の間にあり伸長優秀直幹簇々として數里に連亘してゐるから一度步を林內に運ぶものは白晝尙ほ暗冥を感じ壯嚴の氣自ら身邊に迫り吾人をして轉た造化の玄妙を驚歎せしむるものがある。世人夙に木曾の檜林秋田の杉林

と共に「ヒバ」林を併せ本邦の三大美林とし推稱して措かないのは誠にいはれあることである



内眞部椹樹林

△下北半島「ヒバ」天然林

陸奥灣の東壁をなし遙かに津輕半島と相對するものを下北半島といふ。此方面又其の山岳地の大部分は國有林に屬す面積十萬町歩を有し二個の大團地より成る即ち本半島の北部恐山を中心とする恐山團地及半島頸部に位する吹越團地といふのが是である其蓄積「ヒバ」壹千八百萬石濶葉樹二千七十餘萬石を算し津輕半島に比べて見ると濶葉樹の混淆稍多いので幾分外觀の美を減してゐるけれども美木良材隨所に繁茂するといふ風で亦偉大なる森林たるを失はない林齡は概して津輕方面と伯仲してゐるけれども比較的少壯林多きを占む樣である混生混淆の濶葉樹は「ブナ」類最も多く「ナラ」類「カヘデ」類「トチカツラ」等之に次ぎ樹幹長大であつて良材樹めて多いといふことである。

△大鰐弘前方面の「ヒバ」天然林

本團地は中南兩津輕郡に跨り秋田縣に接し一團を成してゐる。其面積は二萬五千餘町歩であつて針葉樹は六百六十餘萬石濶葉樹二百二十餘萬石を有し一帶に濶葉樹極めて少なく其林況津輕半島に相讓らざる美林を成してゐる。殊に其の東部大鰐第二事業區に於ては碇ケ關事業區に杉の單純林に接續し椹杉の混淆林を現出し兩樹林種の天然限界を示し學術上好個の參考資料となつてゐる。

△東嶽方面の「ヒバ」天然林

青森市の東方東嶽方面にも亦「ヒバ」林尠な

くない。其面積は約五千五百餘町歩蓄積百六十七萬石を有し特に根井川、清水目澤流域の如きは一切なる單純林であつて濶葉樹は殆ど其の痕跡を止むるに過ぎない程の美葉である。林齡其の他の關係は津輕半島と大差なき樣である。

△早池峯圖地の「ヒバ」天然林

盛岡市を距る東方十里靈峰早池峰山の北麓を飾る其の神威を崇ふするものは即ち本林である「ヒバ」の純林二千六百餘町歩針葉樹蓄積百十六萬石を備へ多少の「コメツガ」を混生してゐる本林地は垂直的植物に於て温帶上部に屬し比較的高寒の地なるを以て生育狀況に於ては津輕方面のものに一歩を讓るけれども材質緻密の良材を產出してゐる。

△五葉山「ヒバ」天然林

陸前國氣仙郡の最北に掌り五葉山と稱する高峰がある面積二千五百町歩「ヒバ、ヒメコマツコメツガ」と混生して其の上半部を蔽ひ林木又老齡長大にして一齊の狀態をなし林況頗る美しい其の針葉樹蓄積六十五萬餘石を有し「ヒバ」の材質も又緻密にして色澤香氣共に扁伯に似たる良材である。

以上の特種林以外の樹木にして蓄積夥多なるもの二三種を更に記載して參考に擧げておく。

△樅　林

宮城縣下石卷、仙臺、白石方面には樅天然林の成木を見る其成育良好なるものがある。殊に金華山國有林は其の蓄積豐富にして三十二萬四千餘石を算してゐる。

△杉　林

碇ゲ關方面の杉天然林は大鰐小林區署管內據林に連續し秋田縣に接して面積二千七百二十町歩に涉り黝黑の森林となつてゐる即ち碇ゲ關事業區に屬してゐる杉林であつて蓄積百三十四萬二千石を有し僅に樅、姫小松、雜木を混し林木老齡長大であつて秋田の杉林の一分派に屬し材質極めて優秀其の名夙に東北に嘖々としてゐる

△青森檜松林

八甲田山、岩手山、安比岳、早池峰山、刈田岳の諸高峰は何れも垂直的植物帶の關係上青森

椴松の生育を見此の蓄積七萬六千餘石を算出してゐるけれども一般には技條多く用材に適するもの少いのは遺憾である。

△濶葉樹林

濶葉樹天然林であつて嘗て斧鉞の入らない原生林尠くない頗る良樹美幹に富む樣であるが其分布を略述して見ると岩木山以西の圖地なる深浦、鰺ケ澤、弘前方面の國有林から連續して南方遠く宮城縣白石に至る所謂中央山脈は何れも濶葉樹の美林を以て掩はれ尙ほ久慈、宮古方面より起つて石卷小林區に亘れる北上山系を爲す脊梁山も又之に亞ぐの美林である之等の面積は七十三萬二千町歩材積一億九千八百九十三萬六千餘石を算してゐる殊に前記各圖地中十和田國有林及宮古、鍛冶、谷澤兩小林區內國有林の如きは其良材の多きに驚嘆する程である前記各地の內にはブナ、ナラ、トチ、カツラ、ケヤキホウ、クリ、シホジ等の混生せるもの多く且つ敦れも其材質良好なるを以て將來之が利用開發の曉には青森大林區署管內には無二の寶庫なりと云ふことである。

△樹木整理期

森林經營上其の生產の保續を確實ならしめん爲には先づ森林をして之に適應する型態を具備せしめなければならない即ち輪伐齡に應じて齡級の配置を整ふる必要がある。然るに國有林の實況を見れば已に輪伐期に近き又は之を經過せる老齡林の大面積を占むるもの多く齡級の配置頗る不完全なるを免れないから茲に施業上整理期を設け一定期間內に是等老齡分の更新を圖り以て林相を整理し漸次理想的型態に改造せんとしてゐるそして整理期は森林の更新及林業經濟上最有利に且つ其の整理後に於て收穫中斷の虞なからんことを期し、四十年乃至八十年に定められてゐる。

△輪伐期

輪伐期は是れ實に森林經營の骨子たるものであつて其如何は延て林業經營上には勿論國土の保安社會の事業に及ぼす影響は決して少くない依て國有林の輪伐期は如上の諸要素及位地の關

係氣象の狀況、作業の如何、樹種の特性に稽へ兼ねて最多の純益を獲る目的を以て大要左の如く定められてゐる。

樹種輪伐期表

樹種	輪伐期	樹種	輪伐期	樹種	輪伐期
スギ	八〇—一二〇年	クロマツ	八〇—一二〇年	ヒメコマツ	一三〇—一五〇年
ヒノキ	八〇—一四〇	カラマツ	八〇—一〇〇	ツガ	一六〇—二〇〇
ヒバ	一〇〇—二〇〇	コメツガ	一五〇	ケヤキ	一八〇—二四〇
アカマツ	八〇—一二〇	アオモリトドマツ	一二〇—一五〇	クリ	八〇—一〇〇
オニグルミ	五〇—一〇〇	ナラ類	三〇—一五〇	クヌギ	三〇—四〇
ホー	五〇—九〇	シホウ	一〇〇—一〇三	ザツ木	三〇—一五〇
アナ	八〇—一五〇	カシハ	三〇—四〇		

△**造材の種類**

造材の種類は樽材にありては普通七尺、十尺十四尺ものとし其他十五尺以上三十尺迄の長材丸太は其需要に應じ造成するものである就中十四尺ものを標準丸太とし大多數を生産す七尺ものは根株に近く十尺物は稍頭部に近く何れも十四尺材を造材し得ざる場合に限るものである而して延寸は地勢の如何及運搬線路の種類に依り異なるけれども普通十四尺以内に在りては二寸十五尺以上は五寸としてゐる又杉に在りては一間材を六尺五寸二間材を十三尺五寸とし共に二寸の延寸を附するものである而して松材に在りては多く角を作り一間以上有寸に應じ尺單位の長さに造材し適當の延寸を附するものである尚以上の外鐵道用材、原料として樽材は八尺、八尺五寸、九尺、十尺、十一尺、十二尺、十三尺、十四尺、十五尺、丸太、末口何れも七寸以上尺位のものを造材するが尚ほ特殊甲材に在りては其の用途に應じ特別の木取をなす事勘からざるのである。

△**面積蓄積及年伐量**

更に參考迄で青森大林區所管の針濶兩葉の材料、年伐、地積等を左に摘錄して見る（大正二年度以降の施業編成濟のもの）

小林區名	事業區名	面積	蓄積		年伐量		
			針葉樹	濶葉樹	面積	材積（主伐）	
						針葉樹	濶葉樹

	青森	東八甲田	内岳	町	一、〇三四、二六八	石	二、一六一、六〇四	町	三九九	石	三二、六五五	石	三四、八九五、六
		新城	城部		四、三一八、三八二		一九、九四		八九		四七、九〇二		二、八五六
		眞部	眞第二		七、二三〇		三一九、九四		八九		四七、九〇二		二、八五六
	内眞部	同	同		七、二三〇		三一九、九四		八九		四七、九〇二		二、八五六
	平	蟹田	蟹平		四、八〇二、四九一		五、三六二、六七六		一七二		五三、七七七		三四、六七二
	蟹田	蟹田	蟹田		四、八〇二、四九一		五、三六二、六七六		一七二		五三、七七七		三四、六七二
	増川	三厩	三厩		七、六四九、五六四		四、九七八、六五〇		一五二		八二、〇二六		七、五四〇
	三厩	追加	別厩		七、六四九、五六四		四、九七八、六五〇		一五二		八二、〇二六		七、五四〇
	相内	磯松	滝里		三、六〇〇、三二八		一、七三三、八八六		一〇六		四八、六六六		五、四六四、〇
	中里	中内	中里		三、三七八、九五八		一、八二一、七二三		一三六		四五、九五五		二〇、五六一
	喜良市	飯詰	喜良市		五、四三二、三五六		一、三六六、五〇五		一九三		五六、七七二		一八、一三四
	鰺ケ澤	鰺ケ澤	鰺ケ澤		二四、七五七、〇三二、九二八、〇		七、六〇六、九二〇		二八八		六四、四一		三二、四六八
	深浦	深浦	深浦		四二、一三三		二三、三七八、一九八		三七八		六九、二三五		四〇、七八三
	弘前	弘前	屋敷		一、八五五、五九〇		七、六五五、七二〇		五〇三		六九、七九八		二一、〇六五
	大鰐	鰐ケ	鰐ケ		四、九四、七二		一、三四、五〇一		一七一		六一、三八七		二四、四七〇
	碇	関	関		一九四、八四二		三、五四、五六二		三一八		—		四四、九七五
	黒田	黒田	黒田		三、五一三		七七六、〇九八		五三		一九、三三		二、四〇八
	横内	大畑	名部		一、二七、九〇四		八、〇六二、五一〇		一、四八六		五〇三、五三五		九一、〇九二
	大川	大畑	名部		六、三八								
	川内	川内	川内		三一、二六四								

| | | |

石巻石巻	駒造	九、三三五	一、二四一、九一四	八〇〇、三〇六	一四八	一四、八八三	二〇、六三一
石巻石巻	栗駒玉澤	三六、〇九二	三〇六、五七七	一六、八八六、二九三	五六四	九八、五七五	五三、一三九
仙臺	仙宮名取岳山岳田岳柴	三〇、〇二〇	八三、五三三	八、七九九、三三一	四八〇	七、四九〇	一八、四七一
仙臺	加美	一八、五八九	一五、六九〇	二、三四、八六六	一八五	一三	一、五三
仙臺	丸森	二七、〇八〇	一、〇〇八、三一九	八〇〇、三〇六	三六八	一四〇、八四四	七七、六一三
合計		九五三、一五七	六八、九七四、五九一	二四三、八〇六、九五五	二、一一三	二、三七七、九〇〇	一、三八〇、六〇五

但し年伐量は官行伐木並に立木賣、製材販賣等を總て加算したる一ケ年の產出量であつて建築用材は勿論薪炭其他苟くも森林より產出する木材一齊を加算したるものである今茲に明治四十二年乃至大正二年の五ケ年間山元に於て處分せられたる資材の材積價格を示し更に其內容を詳にして見たい。

今之れを樹種別に表示して見ると

年度	用材 材積	用材 價格	薪材 材積	薪材 價格
明治四十二年	四五一、七二七石	二六六、二三二円	八、三三石	四五六円
同四十三年	六五八、九二一	三六二、九一六	—	—
同四十四年	六〇三、七一八	四八七、七二三	四、七九五	五三九
大正元年	七〇〇、九九八	六三一、三七六	一七三	二四
大正二年	七五二、九七五	六五六、三〇六	三、二一	二三三
合計	三、一六八、三二九	二、四三二、六三三	一六、四〇一	一、二四二
平均	六三三、六六八	四八四、九二四	三、二八〇	二四八

ヒバ	七五、四五〇	石	五三、八八一	円	—	石	—	円
スギ	七三、六九七		八八、一一六		—		—	
アカマツ	二九九、三三六		二六五、七二一		—		—	
ケヤキ	六、七六〇		一〇、六六八		—		—	
クリ	二〇、五七〇		一〇、三八一		—		—	
ブナ	七七、三五八		二一、二七四		—		—	
ザツ	—		—		七、六三四、九八八		七九六、四〇二	
スギ	二六七、〇三〇		二五七、七七〇		—		—	
アカマツ	一九、四七七		二一、一一七		—		—	
其ノ他	六九、九二七		三八、〇七三		一六、四〇一		一、二四二	
計	三、一六八、三三九		二、四二四、六三三		一六、四〇一		一、二四二	

更に同年間の立木處分を表示すれば

明治四十二年	一八五、八九六	石	二〇、二五五	円	一、一三二、五二四	石	二六、二九八	円
同四十三年	一五〇、五八五		一〇三、四二六		一、二四三、九七三		三七、八五七	
同四十四年	二二七、六四一		八七、〇九〇		一、四三五、〇七五		二五三、〇五五	
大正元年	二五二、二七五		一七八、五二三		一、八七八、七六八		二〇三、〇〇五	
同二年	三一三、一七四		一六五、四二九		二、三二〇、三二三		三八、三〇一	
其他	四七六、三九九		二二三、六七二		三七五、六七五		四二、一一三	
計	一、〇二九、五七〇		六五三、七一三		八、〇一〇、六六三		八三八、五一五	

更に五ケ年に枘挽製材品の材積價格を示せば

明治四十二年	二五、四三三	石	七八、四四八	円	—	石	—	円
同四十三年	二〇、五一〇		七六、八五二		—		—	
同四十四年	二八、一六二		二二六、三七二		—		—	
大正元年	二五、三六四		二二六、〇九四		—		—	
同二年	二六、六八七		二三三、一四三		—		—	
計	二六、一七六		五三〇、九〇八		—		—	

△貯木場

木材置場にして連年使用すべきものは特に貯木場として必要なる地域を劃し留め場水揚げ及貨車積卸し等の作業に便なる固定的設備があつて貯藏の安全を期し需用供給の關係を考察して隨時に賣拂を行ふものである今其貯木場の重なる所を擧ぐれば次の様になる。

青森 一、ケ處 四四、二四八 坪　蟹田 四、ケ處 一四、六九六 坪
増川 一、 九、三九四　大鰐 四、 三、三四
相内 三、 二、五六四　大畑 二、 一六、三二八
喜良市 六、 一六、八七七　銀冶谷澤 三、 三五、〇三六
他の一小貯木場共合計面坪數 三七、ケ處 二〇〇、八四七

△操業の狀況

伐木造材の季節は多く冬期を利用してゐる、是れ伐木事業は運材事業と相關聯するものであ

り冬期積雪の上に於ては轉材及運材作業最も容易でめるのみならず恰も農閑の時期に當り冬期生業を得るに困苦せる地方農民を救濟し且つ稚樹の傷害を受くること最少であるからである。然も資料々積の關係上其の全部を冬期に於て實行の出來ない箇所並に陸中陸前地方の如き降雪の少量なる部分に在ては四季間斷なく杣夫を使役して夏季事業を施行する尙冬季伐採に在りては先づ八月末から九月頃に於て地表面に接して根廻し即ち根際に近き幹の邊材に伐り込みを行り立木の儘乾燥せしめて十一月頃に至り伐採に着手するものが多い。

今伐木造材に於て其工數の割合を見るに杣夫一人一日の出來高を林地の險夷、林相の粗密、樹態の良否等に依つて一定して居らぬけれども普通七、八石から十三、四石の間であつて一日の勞銀平均六七十錢位である。

平落（木寄）は冬季積雪の上では普通一日に八、九石以上の功程を見るも夏季に在ては皮を剝かないでは滑轉しないのみならず之を雪上の作業に比べると其功程少なく約六、七石內外である而して平落し箇所より河川若は既定の搬路迄の搬出即ち小澤出しには夏季にありては木馬修羅を併用し冬期に在りては專ら橇を用ゐてゐる之が設備並に功程は大略次の樣である。

(A)橇出しには「ヨッ」出し「シノ」出しの兩樣かある共に降雪前に於て先づ其の線路を選定する。橇道は二十分の一乃至三十分の一を適當の勾配とするも地勢上止むを得ざる場合は十分の一內外の急勾配を許し或は稀に平坦の線路を採る事があるけども逆勾配は全然之を避けなければならぬ「ヨッ」橇は緩傾斜の地に使用し「バッ」は急勾配の地應用するものである線路中棧道となべき箇所は豫め支柱を立て之に桁を架し其上にに粗朶又は伐倒木の技條等を橫架し以て積雪を待ち之を路し固め普通二月頃より搬出に着手するものである即ち之が築造費は難易を通じ修繕共通常八間乃至十間に付き人夫一人掛りとし橇一臺の積載量は路面の適否に依り一定しないけれども「ヨッ」橇五石內外「バッ」橇

三石内外である。

(B)木馬は其の線路の築設困難なるも適度の勾配を保たしむるときは運搬力に於て雪橇と大差なし其の路線は路面を平坦とし其の上に徑一寸五分乃至三寸の小丸太を二尺内外の間隔に横に竝べて枕木となし橇の親骨には通常魚油を塗りて之を曳くものなり而して路線築設の功程は材料蒐集共一日一人七間内外を普通としてゐる。

(C)修羅は谷底に沿ひ丸太を溝形に竝列し其の溝内を滑下せしむるものであるが其の勾配は十度以上をよいとしてゐる路幅は通常五尺内外、一人一日の功程は十四丈に竝べ即ち延長四間となる。

以上の運搬法は山地の狀況に依り適宜採擇し單獨に若くば彼是れ併用してゐるが斯て大川筋に搬び出されたる木材は初春の融雪或は夏秋の候多雨の時期に於て河川の增水を利用し茲に管流しを行ふものである若し此場合に於て水量不足なるときは放流堰、所謂鐵鉋堰を設け谷川の流水を堰止め之が貯水を一時に迸出せしめ其水力に依りて木材を流下する者である斯くして木材置場に達するときは此所に留材裝置(方言矢來止場)を爲し漸次水上げの上材種品質等に應し區分卷立を爲し置き現場に於て直接賣拂を爲すか或は拂受人の希望に依り或る地點迄輸送販賣をも爲さしむるものである管流しの方法は當地方に於て從來專ら行はる所である、けれども動もすれば河岸を崩壞し農耕地に危害を及ぼし木材の損傷も又甚しひので之を行ふの季節は短時期に限られ出水の量と相關係して事業の豫定甚しく不安固なるを免れない仍て當該署内は之等缺點を補ふと同時に搬出經費の節減を計り漸次林道及軌道に依る運搬法に變改するの方針であるさうだが既に之か設備を完全せるもの左の如しと聞いてゐる。

(D)森林鐵道、津輕森林鐵道は明治三十九年十一月を以て起工せられ青森縣東津輕沖館にて大林區所在地にして青森貯木場構内に連絡せるものである之か地點から起つて津輕半島の中央部を横斷周廻し北津輕喜良市に至る四十一哩六分

を既に布設軌條二十封度グージ二呎六吋平均勾配七百五十九分の一最急勾配四十分の一小半徑二十五間にして途中二ケ所には隧道を縱貫し夫々林内に支線を敷設せるもの、其支線のみにても既に二十四哩を有すといふ而して之等の輕鐵を受る事業區は其總森林面積四萬二千三百五十町歩「ヒバ」の蓄積千八百七萬四千餘石濶葉樹にて八百七十萬八千餘石を有し之が年伐材積「ヒバ」十七萬五千七百六十石雜木七萬八千二百餘石なりいはれてゐる而して本線に利用する汽關車は十噸輕汽關車三臺を使用し平均一時間六哩を駛走し材料の搬出するものである。

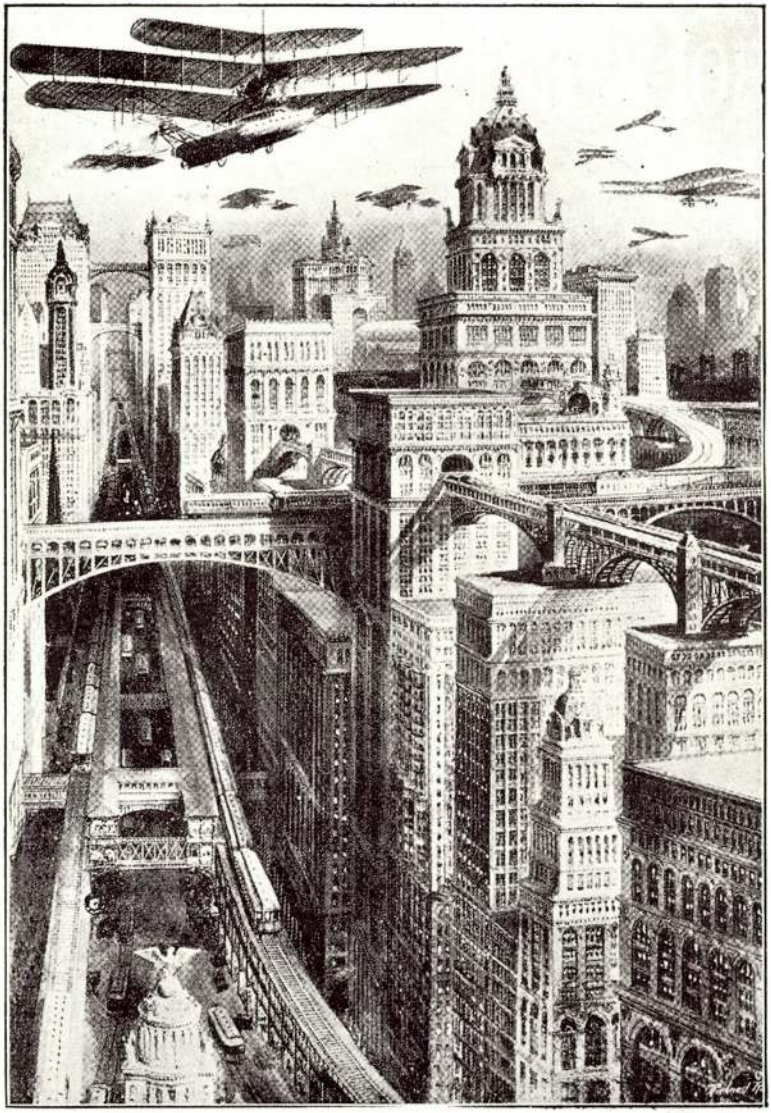
（青森の項終）

♣　♣
　♣
♣　♣

◈山水の之譜◈

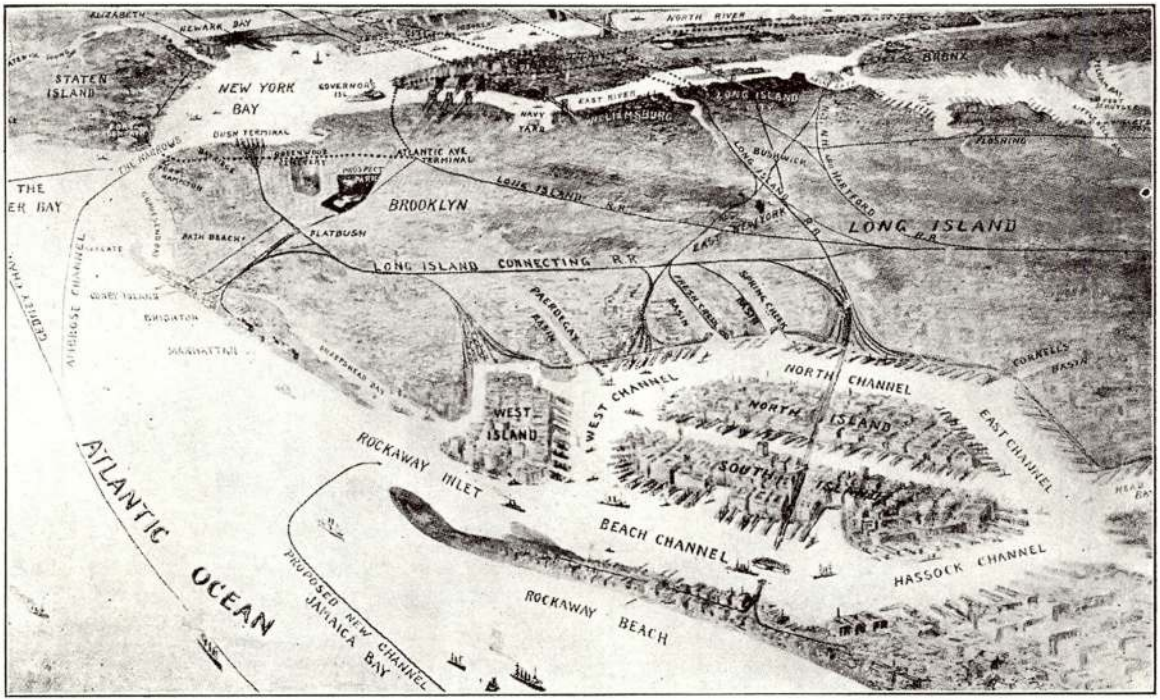
凡そ山水をゑがくに法あり。一丈の山には一尺樹、一寸の馬には豆ほどの人なるべし。遠人には目鼻を書かず。遠樹には枝なし。遠水波なくして雲とひとしかるべし。岩に三面を見せて、道には二つの岐あるべし。すべて畵は遠近を知るを第一とす。遠山近き山とつらならず。遠水近き水とまじはらず。林木遠きものは疎平にして、近きは高密なるべし。葉あるものは枝やはらかに、葉なきものは硬し。土に生ずる時は直く、石に生ずるものは曲れり。古木は節多くして。半は死を書くべし。四時の變化を察し、山の淺深をとるべし山谷樹深き所には、寺觀樓閣の屋根を重れ、水鄉山店の間には酒旗の青白を飜すべし。これ王摩詰が、山水の賦の法式なるべし。……

（風俗文選—許六）



未來の紐育市街

紐育マンハツタン區は將來は全部寃天閣を以て充たさるゝであらう。現在はマンハツタン區に約九萬の建築あり其中耐火構造の建築は三千に過ぎない殘餘は半防火の煉瓦及木材混用の建築である



紐育第二築港計畫鳥瞰圖



都市と建築

都市研究生

世界的記錄を示す

紐育の市勢

一　人口の增大

紐育は現在世界に於ける最大都市の一であるのみならず、又最も偉大なる膨脹力を發揮しつゝあるので、最近には毎年十六萬人の人口增加を見ると言はれて居る。丁度市俄古、ヒラデルヒヤ、バルチモア、ボストン及ピッツバーグの諸大都市の全膨脹量と同量のものを紐育一都市に於て增加しつゝあるのである。一九一五年の紐育市の人口統計によれば五百四十九萬八千九百八十二人にして、最近五年の間に七十三萬二千九十九人を增したのである。又紐育の行政區域の面積は九百六十四平方哩にして、其中に包含する人口は無量七百七十五萬人を算し、一ケ年の增加約二十萬人であると言ふことである。倫敦の市行政區域が六百九十三平方哩にして、其人口七百四十四萬八千人餘なるに比すれば、其面積に於て二百七十一平方哩、人口に於て八十萬人以上の優勢を示して居るのである。（最近

の倫敦のセンサスによれば、其人口八百四十五萬餘との報告あるを以て此人口の數字は或は誤りならんかとも思はれる。此數字は最近紐育の一雜誌より得たものなれば、倫敦に關する數字だけは疑を存し置く。）

又大紐育と稱する範圍内の住民は、九百〇六萬四千三百九十五人にして、大倫敦の住民より多きこと約百萬人に達するのである。而して其人種の雜多なることも著しき現象であつて、現に二百萬人以上のものは、全く外來者である。故に新聞紙が四十二種の國語にて發刊さるゝのも敢て不思議はない。而して其住民の中百五十萬人は五才以上十八才以下のものにして、五十八萬六千百九十三人は勞銀に從事する婦人及娘である。又最近の選擧に於て有權者たる男子の數は六十六萬六千百二十九人であつたと言ふことである。

二　富の集積

紐育に流入する金貨は一日平均四百萬圓にして、現に世界の最富强の都市となりつゝあるのは事實である。其銀行の有する積立金は六十億萬圓に達し、北米合衆國の有する金貨の六分の一を所有するのである。其銀行金融力も百十億萬圓に及び全世界金融力の八分の一に當ると言ふような狀態である。其五大銀行の有する預金は二十億圓に達し、中にもナショナル、シチー銀行の如きは一行にして八億萬圓の預金を持つて居るのであつて、北米合衆國の通貨四十億萬圓の中其五分の一以上は紐育市内銀行に保有されて居るのである。ナショナル、シチー銀行一箇の實力より言へば他の世界各國其上に位するもの六個を數ふるのみであるが、紐育の五大銀行たるナショナルシチー、ガランチートラスト、ナショナルバンク・オブコンマルス、チエースナショナル及第一ナショナルの合同金融力の如き偉大なる金融力は他の如何なる都市に於ても發見出來ないのである。

此次大戰亂の以前に於てさへも、紐育の貿易は世界中最大のものであつた、然るに戰後其發展は益々著しく進行し、一九一五年六月三十日に終る年度の紐育港の輸出額は約二十三億六百三十萬圓にして、北米合衆國全輸出額の四割二

分に當り、其輸入額は約十八億四千百二十萬圓にして、同國全輸入額の五割六分に當つて居るのである。而して一九一五年の一月一日より十一月六日に至る間の輸出額は約二十六億六千五百萬圓にして、其前年の同期間に比すれば約十二億萬圓の增加である。若し之を一ヶ年に通算すれば、輸出增加は十五億萬圓輸入增加は十億萬圓とするのである。

然しながら此の廣大なる輸出入額も、紐育港の商取引の六分の一にしか當つて居ないのである。紐育を中心とする十一箇の大鐵道線路及各方面の運河系統より集積する沿岸商取引の貨物は一九一五年一ヶ年に三百億萬國に達したと言ふことである。又紐育に於ては商取引の殷盛なるのみならず、其工業製產力に於ても亦甚だしき偉力を示して居るのであつて、七十萬人の職工と三萬五千の工場にて產出する貨物の總額は同年間に約二十五億萬圓に達したのである。

北米合衆國の富力は二千億萬圓と計上さるゝ中に就て、其八分の一は此大都市一箇にて所有するのである。其富力の中約百億萬圓は其土地の價格にして、市民の所有品の價格は十二億萬圓、又家具、自働車、馬車の積算十五億萬圓に達すると言はれて居る。

紐育市は又世界最大の株式市場にして、一九一五年に其十一月十三日までは同取引所にて十四億萬圓に値する株式は取引されたのみならず各種の製造品、綿花、穀類、金屬等の世界的市場として其賣買金高驚くべきものがある。

三　大規模の經營振り

紐育市は紐育州の人口の半ば以上を有し、州稅の七割を負擔するけれども、其州立法の權利に於ては劣勢であるのは、其憲法上致し方がないのである。然るに此儘にして進み行く時は、遠からずして紐育市の人口はペンシルバニヤを除けば米國聯邦の如何なる州よりも大きくなる時代に到着するのである。

現在紐育市の經常費は毎年四億萬圓に迫び、三十二億七千萬圓の財產を有し、二十八億一千五百萬圓の市債を擔ひ居れども、又相殺すべき

七億二千萬圓の積立金を所有するのである。又現在市の事業に從事する人物は九萬人にして、其費用は二億萬圓に達すると言ふ數字を知る時は一都市の經營としては如何にも其規模の大なるを感せずには居られぬ。

市豫算の最大目は市債利子の八千四百五十四萬圓と償却積立の四千二百八十五萬圓及敎育費の八千萬圓である、其敎育費は八十三萬人の兒童收用の公立學校費にして、其建築費には已に二億五千萬圓を費したのである、其等の公立學校以外に牧師管理又は私立の學校にて敎育さるゝ兒童の數約二十萬人なることを知る時は學校敎育が如何に都市經營中の大問題なるかを感ずるのである。紐育には別に市立の分科大學ありて八千五百人の學生を收用し、一萬六千人の兒童を研究所附屬敎養所にて敎育しつゝあると言ふことである。

紐育市の警察官は一萬一千人を算し、其費用は三千六百萬圓に達するのである。又慈善事業に投じたる資金は六千萬圓にして、各種の研究所の爲にも已に五千萬圓を注ぎ込んだのである

公園は其面積八千五百エーカー、(約一千四十萬坪)に達し公園通りは百二十萬哩を算す、其等の價格は十三億五千萬圓と評價されて居る、橋梁に費したる工費は已に二億萬圓に達し、築港に面して現在所有する市有不動產は三億四千二百萬圓である。又市が水道工事に費したる工事費は四億三千萬圓に上り、公聽舍に投じたる工費は二億二百萬圓に達し、下水道と街路面築造に費したる工事費は三億萬圓に上ると言ふ。其規模の大小は到底之を我國の都市經營と比較する譯にはゆかないのである。

又現に地下線路と高架鐵道は約二百九十六哩を算するのであるが、現に三百二十四哩の線路は工事中にして、毎日二萬人の人夫が其建設に從事しつゝあり、其構造用材料としては六十二萬噸の鋼鐵材を要し、一千三百萬立坪の岩石と土砂を穿鑿せねばならぬのである。

其他近時確定したる家屋經營の順序を見るに先づ工費八千九百萬圓を投じて六萬八千九百六

十箇の借家及貸室を建築し又更に二千四十三萬圓を投じて、三萬一千二百五十軒の住宅を建つるの計畫である。此の計畫成工の時は十六萬人の市民を之に收容し得るのであるが、更に市の場末方面に六萬の住宅を建設して、合計に於て二十五萬人の住宅を供給せんと企てつゝある狀況である。

市民の食糧問題は日々增進し來る緊急の問題にして、市民一日に費す麥粉は一萬五千バーレル（一バーレルは我二十三貫五百二十匁）に上ると言ふ一事にても、其集積の大量なるを知り得るのである。紐育一市民の年間に費す食費は四十億萬圓以上にして、其中十億萬圓は市內六千軒の料理店にて消費さるゝものである。

郵便事務を見るに、世界に於ける最大郵便局たるグランド、セントラル、終點驛郵便局に於ては每日八十萬ポンドの郵便物を受付け二百二十七箇の列車に依りて之を各地に發送しつゝあり、全市の郵便收入は八千萬圓に上り、其郵便貯金は三千萬圓に達するのである。

東河の橋梁を渡る每日の交通客は平均七十六萬三千人餘にして、高架及地下線が一九一五年六月三十日に終る年度に運びたる乘客は六億四千七百三十萬人であつた。

紐育は國立の最大なる大學二箇を有す、コロンビヤ大學及紐育大學この二つである、其中殊に醫科大學には完全の設備と世界的に有數の敎授を多く有する爲めに世界に知られて居る。又市立美術館や國立博物館は近時大に發展改良を施こした爲めに、今は世界に有數のものとして知らるゝのである。

紐育市は又完全なる防疫組織を有し、殊にロックフエラー研究所のあるあり、研究と防疫と相併びて最善の衛生的努力をなし、市民の保健に從事して居るのは刮目に値する。

四　マンハツタン區の偉觀

紐育市の商業中心地區たるマンハツタン島は世界的記錄を以て誇るべき大建築を以て充たされ、ウール、ウオース館（高さ七百九十二尺）紐育市廳舍、パーク、ロー館、ホドソン終點驛

建物、シチーインベスチング建物（三十四階）シンガー館（高六百十二尺）等は何れも其高さ大さ及工費等に於て世界に知られて居るものである、そのマンハッタン島は其面積十九平方哩六五にして、一六二六年其所有者たりし土人より二十四弗にて購入せしものなるが、現在は其街路を除きたる地所丈けの價格八十二億萬圓と概算され、不動産を計上しては百二十五億萬圓に達するのである。マンハッタン區には二百三十五萬八千六百人の市民を有し其商取引の下町には四十萬人の事務員が活動しつゝあり。其附近の地價は一平方呎四百圓乃至千二百圓（一坪一萬四千圓乃至四萬三千二百圓）である。又事務所室料は一平方呎二圓以上八十圓（一坪七十二圓乃至二千八百八十圓……之を一ケ月を換算すれば一坪六圓以上二百四十圓）にして、如何なる高價の地所を買入れ、堂々たる高層の建物を建設するも其經濟上の利益甚だ大なることを知り得るのである。之を我國の三菱ビルヂング等にては一ケ月五圓内外を室料の標準とするに比すれば雲泥の差あるを見る。

五　紐育の建築雜感

紐育の現在の建築は本誌口繪其他に於て讀者の知らるゝ如く、所謂魔天閣の稱へによりて其特徴の全体を言ひ現はすことが出來るのであつて、世界各國何れの都市に於ても、斯かる變体は見出し得ないのである。何故に紐育の建築が特に甚しき高層のものを採用するに至りたるかは、上述の如き彼の驚くべき經濟力發展が其最大原因となり、地價の暴騰と科學應用の進歩とが之を促進したのである。又業務の漸次大規模となるに從ひ其事務室の位地の構造其他の利便は如何なる高價を拂ふも、其最善を選ばねばならぬ程に事情が迫つて來たことは、最近益々宏壯雄大なる高層建築の建設を誘發したのである。本誌前々號に紹介したるウール、ウォース館の如き一事務用建築にして數千萬圓の工費を要したる例さへも出來て來たのは自然の順序と言つてもよい。

乍併吾人は紐育の高層建築群立の現狀を激賞

するものではない、唯建物その物が如何にも科學的にして現代の經濟發展力と並行し、若くは其の活動力を援助しつゝあると言ふ意味に於て深く之を玩味するの價値あるを思ふに過ぎないのである。其市街の骨子たるべき街路系統は其中樞區域たる下マンハッタン區に於てさへも、縱貫街路の幅員僅かに百尺にして、東西の橫斷街路が其幅六七十呎に過ざるが如き、又文明都市として當然加ふべき都市建築の統一整齊の制裁を怠りしが如き、到底之を模範とすべき價値を發見し得ないのである。吾人はむしろ都市建築の制裁により其整然たる統一を保ち、都市の美觀と衛生上の利便を享有し、街路系統とよく調和を保つ歐大陸の諸都市に於て其範を取らねばならぬ。何れにしても歐米の形態を直ちに我に收める譯にゆかぬのは實際であるから、彼等のあらゆる長所を認識し、其精神を咀嚼して之を我國今後の計畫に應用するを第一義とする。

都市計畫調査會成立の經過

此回內務省內に置かるゝ都市計畫調査會に就ては本誌第五號に於て其大体を紹介したのであるが、其後の成行に就き讀者に之を報告するの義務を感じ此處に其順序を略述する。

前內相後藤男は我々建築に關係ある各種團体の建議を尊重して、都市計畫調査會を設置すべく決意され、追加豫算を提出して無事に議會を通過せしめられたのは、吾人の深く感謝する處である。其後四月七日內相の招致により其當時の建議者たる各團体の代表者は官邸に參集し、右調査會設置に關する內相の底意を聞き、更に吾人の意見を十分に開陳して置いたのである。

然るに四月の下旬後藤男は外相に轉せられ、前の内務次官水野氏が其後を襲はるゝことゝなり内外事務引繼の爲めに此調査會の設置も或は甚だしく延引さるゝことなきやを氣遣ひたりしに幸福にも現内相は前内相と全く同見解を有せらるゝ爲めに其成行は凡て順調に運び、五月下旬左記の如き都市計畫調査會官制は公布され、同時に内務省内に都市計畫課を新たに置かるゝことになつた。而して其課長には市區改正その他此回の都市計畫問題に最も深く關係せられし池田書記官を任命されたるは、此等の事業の將來の進行に非常な便利を與ふるものと思はれる。

四月二十八日内務大臣は其官邸に此回の都市計畫調査會設置に關する協議會を開かんとの意味にて、左の人々を招致され一席の晩餐會を催されたり。席上内相の挨拶は近來珍しき率直主義平民的のものにして、吾人の深く稱賛せざるを得ざるものであつた。

『此回本省内に都市計畫調査會を置くことゝによりましたに就き、各位の御意見を拜聽したく此處に御參集を願ひましたところ、それ〴〵御繰合せを得ましたことを深く感謝致します、抑も都市計畫の事たる、甚だ六ケ敷き問題でありますが、さればとて何時までも之に手を付けず置く譯に行くものではありませぬ。丁度先般建築に關係ある有力なる團体の聯合の建議がありまして、本省に於ても其意を十分に汲み取り、此處に其調査會を置くことゝなつた次第であります、併るに其調査の事項は到底單純なる智識や經驗だけでは解決出來得る性質のものではありませぬから、什うか諸君の各方面に亘れる學殖經驗の御協力を得たいと思ふのであります。故に此都市計畫調査會に就きましては、未だ如何なる方針を取るべきや等何等確定した考が付いて居ないのであります。今夕は食後緩々と諸君の御高見を拜聽致したいと思いまして。云々』

と言ふ意味を以て、此會の發端は建築學會日本建築士會都市協會及我協會の聯合建議を基礎としたるを聲明されしは、吾人の最も愉快に感

ずるところであつた。

又席上後藤外相は前に內相の時に計畫せし事項なるを以て、又特に此問題に興味深きの故を以て出席せし旨を述べられ、會合せる諸氏に向つて其努力を切望せられたるは其熱心の度と共に敬慕の價値あるものであつた、後藤男も此調査會設置に就きては我々の諸團体の建議を深く尊重した旨は呉々も述べられたのである。當日招致されたる諸名士は。

後藤外相、井上東京府知事、田尻東京市長、長谷川鐵道院副總裁、岡田警視總監、松岡法科大學教授、北里柴三郎、緒方正規、中島鋭治の諸氏と內務省內の小橋次官、各局長、沖野技監、近藤技師、坂田技師、池田書記官にして、我々の方面よりは、曾禰達藏（建築學會々長）長野宇平治（日本建築士會長、當日旅行中缺席）藤原俊雄（都市協會幹事）片岡安（關西建築協會理事長）の四人、及伊東忠太、佐野利器、笠原敏郎の諸氏であつた。

田尻東京市長は食卓中に立つて現時市政にて困難を感じつゝあるは市警吏の問題にして。橋梁其他の通行上市の方にて或る程度の取締の爲警吏を置くことは大都市にては絶對に必要なことである、內務大臣は宜しく大都市の此問題に御同情ありたしと敷衍せられ、食事後別席に於て、內相より各自の意見を問はれたるに對し、曾禰氏は起つて　我々建築家團体の建議を納れたる此調査會の成立に向て感謝の意を述べ、將來國家社會の爲め十分に努力せん覺悟なる旨付け加へ、吾々建築家一同の期望は片岡氏より述べる筈なりと結び、片岡氏は即ち我々一同協議の結果約そ一致したる期望を述べたり、其意見の大体は。

『今回改正されたる東京市區改正條例により、東京大阪及京都にそれ〳〵市區改正委員會が組織せらるゝに至り今後其都市の發展に對する準備として街路系統の改修計畫及其實行を斷行することゝ信ずれども。內務省內の都市計畫課及此回の都市計畫調査會は何等其街路系統の計畫に參與する機會なきの機關のようにも解釋さる

ゝ嫌あり、之れ市區改正委員會は法律上最後の權能を附與されて、內務大臣の承認を經さへすれば直ちに實行力を生するものなれば、一諮詢機關たる都市計畫調査會に比すれば、全く獨立獨行の有力なる實行機關であるのは當然であるかも知れぬ。然るに都市計畫調査會は內務大臣の諮問機關であるのと、其市直接の當事者ならざる委員の團体なれば、各市の計畫を最も冷靜に觀察する便利を有する理由とにより、內務大臣は調査會の委員を市區改正委員會に出席せしめて、調査會の査定意見を常に説明せしむるの方法を採り、以て此兩機關の機能を完全に發揮せしめては如何かと考へる』旨を敷衍し、『同時に都市計畫課は其間にありて、常に原案作成又は査定案作成の勞を取るの機關となり、其融和を計れば、此三機關は法律上は無關係の如くにして、實際には何れも重要なる鼎足的關係のものとして有効なる成績を擧ぐるであろふと思はれる』と結び、各機關の關係に就ての希望を述べ、次に調査會の事業に就ての意見を付け加へた。

『本調査會の事業は第一に恒久的の街路系統計畫、第二に上下水道、第三に地區制定、第四に建築制限即ち法規、第五に立法及行政法規と財政少くとも此の五つの部門に分ちて其研究の歩を進むるの要あり。其中に就て最も重大なるは第一項にして、市區改正委員と常に連絡を保つの要あるも主として此事項に屬する。而して此等の部門はそれ〳〵小委員會の如く相分れて調査するとも、各自相關連する場合多きが故に余り窮屈に分別して相顧みぬと言ふことのなきを望む』旨を述べた。

佐野氏は、建築法規の大綱を一日も早く決定して、少くとも大都市の改正街路より之を實施せしむることは目下の急務に屬する旨を述べ、各方面に亘りて其制限の重大なるを敷衍し、建築制限の三大綱目は其高さ、明き地制限、及其構造にして、此三者は都市建築の統一上絶對緊急のものなれば、細目の條例は後廻しとしても、此大眼目は最も急速に且つ適當に解決を要する

のであると云ふ意味を中心として詳論したのであつた。

井上東京府知事は此回の調査會に對する希望として、東京市が現在遭遇しつゝある各方面の困難を憩へ、殊に近年の著しき工業發展の情況を說き、三年前まで僅かに一億七八千萬圓の製造力を有せし我東京市が近時一躍して五億萬圓に上りたる事實は什うしても東京の街路を此儘に看過し得ない實際上の脅迫である。若し吾々が板橋街道や、千葉街道に行きて其交通の輻輳甚しき爲めに蒙りつゝある困難を見るならば、机上の議論では手緩れを感ずるのである。其他各方面一つとして行詰りならざるはなき旨縷々數萬言物せられたるは、當面の責任者としてはさもあるべき事であるが、それにしても接續町村併合の問題に觸るゝことを避けらるゝは少々不徹底であつた。

藤原俊雄氏は市政及市財政上に就き、もう少し積極的施設を考へざれば、我國の都市は到底發展の見込なし、大藏省が餘りに市債募集を嫌ふが如き弊風は打破するの要ある旨を述べ、東京市は現に一億餘の市債を有するに過ぎざれば今後は四五億の市債を起す位の決心を要する、而して東京市の漸次の發展は十分に其負擔に勝へ得るのであると結論した。

緒方正規氏は文明都市の衛生狀態は漸次向上すれども、獨り我國の都市は少しも其傾向なきのみか、野蠻病たる赤痢、チブス、コレラ等が依然として益跋扈するの狀況である。此等は都市の下水上水其他の衛生設備の缺陷によるのであるから、是非とも其解決を望みたいと述べ。中島鋭治氏は東京市の上水道の現狀に就て、詳細なる說明をなし現在の狀態にては容易に衛生工事を徹底せしむることは出來ぬと憩へられた。

池田書記官は又東京市の交通、人口、等に關する圖面を提出され、各員に其詳細を說明され如何に東京が今日まで遣り放しであつたかを痛切に思はしめた。中には東京市は周圍の地帶を全部買收しては如何、未だ遲きには失せずと說くものさへあつた、談話はそれからそれへと積

極的施設の問題に集中しつゝあつたのは、如何に都市計畫が目下我帝都に緊切であるかを證明して餘あるものである。當日の會合は内相の期待されたる意味に於ては大体に於て大成功であつたと觀察し得られるのであつた。

都市計畫調査會官制

二十二日官報勅令第百五十四號を以て都市計畫調査會官制を公布し即日より施行したるが其の要領左の如し

第一條　都市計畫調査會は内務大臣の監督に屬し都市衛生警察經濟交通其他都市計畫上必要なる事項を調査審議す

第二條　調査會は都市計畫に關する事項につき關係各大臣の諮問に應じ又は關係各大臣に建議することを得

第三條　調査會は會長一人委員二十四名以内を以て之を組織す前項定員の外必要ある場合に於ては臨時委員を置く事を得

第四條　會長は内務大臣を以て之に充つ委員及臨時委員は關係各廳高等官市の公職に在る者及學識經驗ある者の中より内務大臣の奏請により内閣に於て之を命ず

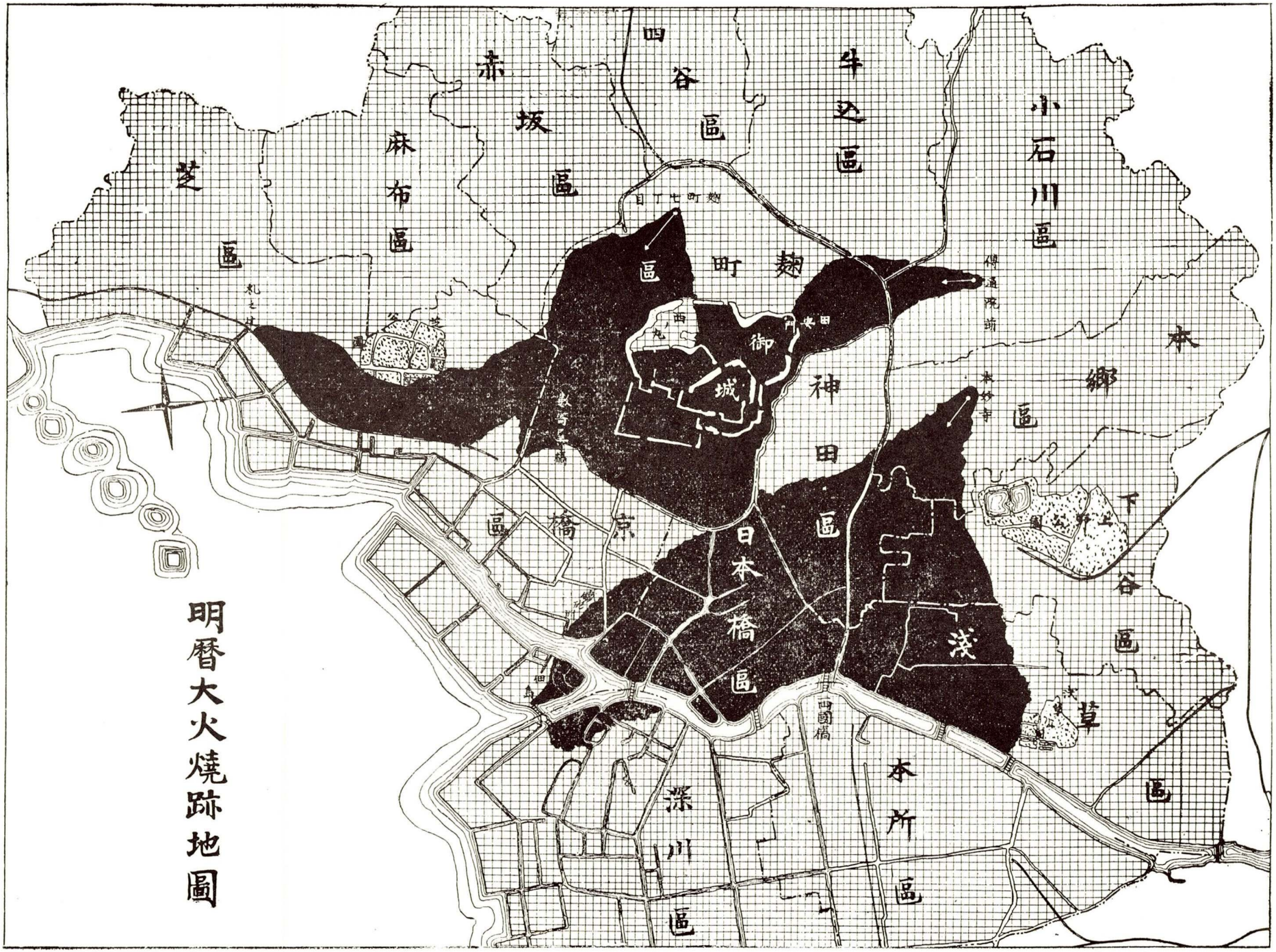
第五條　會長は會務を總理す會長事故あるときは内務大臣の指名したる委員其の事務を代理す

第六條　調査會に幹事を置く内務省高等官の中より内務大臣の奏請により内閣之を命ず幹事は會長の指揮を受け庶務を整理す

第七條　調査會に書記を置く内務省判任官の中より内務大臣之を命ず書記は會長及幹事の指揮を受け庶務に從事す

明暦三年江戸大火の記

『火事は江戸の花』であると言はれた程東京は昔から火災の多い處であつた、又其罹災の甚だ


明暦大火焼跡地圖
芝區
麻布區
赤坂區
四谷區
牛込區
小石川區
本郷區
下谷區
淺草
本所區
深川區
京橋區
日本橋區
神田區
麹町區
御城
西丸
東丸
傳通院前
本妙寺
四國橋
佃島

しき程度も江戸の火事に及ぶものはないのであつた。中に就て明暦三年（今を去る貳百六十年前）の一月十八九日の火災程悲慘なものは世界開闢以來何處にも見出すことは出來ないのである。世界の最も大なる記錄として殘つて居る倫敦大火（本誌第一輯第四卷所載）は明暦三年の大火より九年遲れて起つた大悲慘事であつたが、其罹災の面積や、燒死人數等に於ては到底此江戸大火に及ぶべくもない。又亞米利加の三大火災として知れて居るシカゴ大火、バルチモア大火及桑港大震災後の大火と雖も、此恐ろしかりし明暦大火と比較する譯にゆかないのである。殊に此火災の記錄として見るべきは、其燒失の速かなりしことゝ、市民を燒亡したとの多數なりしとであつて、其記錄を讀むさへも戰慄を禁し得ないのである。彼の安政二年の大地震（本誌第壹輯第五卷所載）に壓死者燒亡者の多大なりしと其慘狀の程度を爭ふのである。先般燒失したる本所の回向院は其無緣の燒死者弔慰の爲めに建立したる寺院であることは、相撲觀覽の傍ら、そゝろに其當時の悲慘事を追懷せしめる。

今左に其當時の模樣を記載したる各種の記錄を引用して其大樣を讀者に知らしめる。其記事は互に相撞着をなす點もあり、多少誇張したる推定記事もあれば、又小說然と面白可笑しく書き上げた記事もあり、讀者は其間を取捨して推量されんことを希望する次第である。吾々が從來講談にて數次聞かされたる本妙寺の御小袖燒けと稱するローマンスの如きは、確かに此火災を背景としたる傑作の一であると言つてよろしいのである。

明暦三年正月十八日、大風、此日本鄉丸山本妙寺火を失し、北柳原（神田區）南京橋、東佃島及深川牛島新田に延燒す。翌十九日大風猶已まず、午刻小石川鷹匠町出火、北神田臺、南外郭に延燒し、江戸城本丸二三丸又災に罹る、夜に入り、麹町五丁目火有り、櫻田一帶の大小名邸及西丸下一炬に付し、火先是より二分して、一は通町を燒き、一は愛宕下を經て芝浦に至る

兩日三次の火災に燒盡したる建物の重なる者

は、江戸城、及和歌山城主徳川頼房、府中城主松平綱重、館林城主松平綱吉邸並に本理院（徳川家光夫人鷹司氏）天樹院（徳川秀忠女）両邸を始め、諸侯の邸第五百餘、神社佛閣三百餘、倉廩九千餘、橋梁六十一に達し、士庶の屋舎數ふるに遑なし、死者は其數拾萬二千人を越へ、焦土の廣袤廿二里八町、市井五百餘町を算す、或は云ふ、八百餘町也と、歴世の舊記武具珍寶の類大半此火災の爲めに燒亡す。

幕府は直ちに重なる大名罹災者の參勤歸國を許可し、大名旗本及士人に對して金銀貨與若くは下賜をなし、餓民の給食一般罹災民の救恤を開始し、又市中の警備を嚴にせり。而して燒死者は之を本所牛島に合葬して一寺を創建す、回向院即ち是なり。

（以上は柳營日記、明暦炎上記、むさしあふみ、後見草、三正綜覧、明暦丁酉災記、玉滴隠見、元延實錄等の記事を綜合したる事實なり）

上杉年譜の記事より

正月十八日（明暦三年）本郷五丁目の本妙寺（法華宗）より出火、乾風烈く、本郷湯島は云に及ばず、郭外其邊の諸將諸士の官邸、寺院、社祠、市廛、一宇も殘らず灰燼となる、其夜に入て鎮まり御堀内に、火移りて、四方に燒擴り、北は柳原、東は深川の向を限り、南は京橋鍛冶洲を限て燒す、俄に風替り、八丁堀を越、向島の八幡宮の寶殿に火移り、忽回祿す、諸人周章先途を遮り、煙焔に咽んで啼喚ふ、其聲雷の如し、其火もいまだ消へず、夜中恰も白晝の如し、かゝる處に、七手侍組の内、清野帶刀秀範は、百日番頭にて江府麻布の官邸に在けるが、櫻田邸へ番轉の侍中引連相詰る、時に虎門を鎖したる故、溜池の際へ數萬人相集り、往來叶はず、秀範生質强力たるに依て、虎門を一人にて排押開き、數萬人の上を手廻り左右に從へ、侍中殘らず引卒し、異儀なく櫻田邸へ駈着ぬ、此に依て衆目の武功、通り難き場所を一已の働を以て摠侍中不レ殘著事、誠に意を武門に洗き驍勇の器、稱するは餘ありとて、感賞し玉ふ、翌十九日大風イマダ止ず、午刻小石川の邊より出火、一面に燒廻り、御城内に火移り、天守、樓殿、金門、石壁の燒上る、此に依て將軍家西丸へ渡御と玉ふ、今日の火災に、公（上杉綱勝）の櫻田邸及び隣屋舗の官邸共に類火せり、依て公には麻布下屋舗の官邸に移り玉ふ、諸士は云に及ばず、奴隷の徒に至る迄別儀なし、翌二十日曉方より漸風靜り鎭火す、誠に廣大無邊の野と成て、所々窮屋板屋の營をなす計なり……

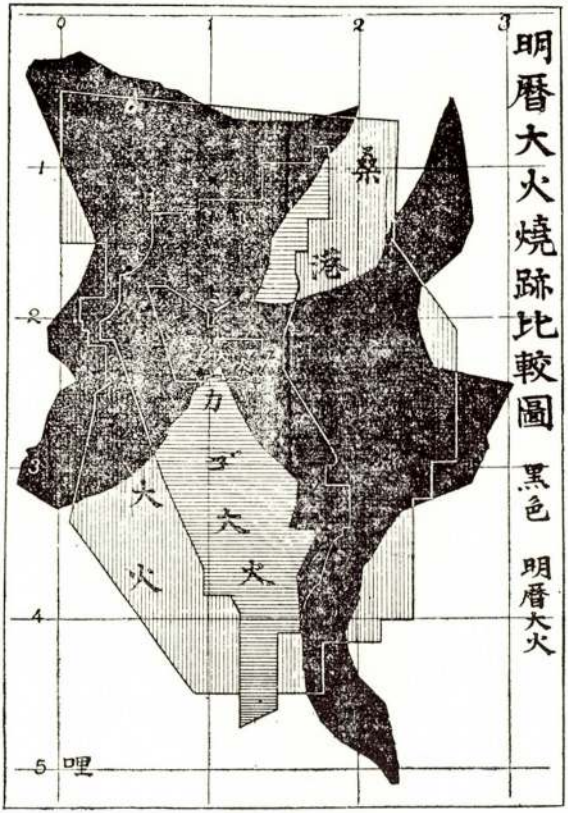
今般十八十九兩日の鬱攸に燒失之覺

一、萬石以上類火　百六十軒（但萬石以上燒殘五十四軒）
一、物頭組頭番頭類火　二百十五軒
一、新番組之類火　六十三軒
一、小從人組類火　百九十軒
一、御書院番組類火　百四十軒
一、町屋之類火　兩町にして四百町、片町にして八百町

但通程二十二里八町(三十六町一里にして)間數四萬八千間

一、家主不知町屋　八百三十軒餘

一、橋殘たるは吳服町の一石橋、淺草橋計、此外皆燒失、



一、燒死する者三萬七千餘人、此外數不レ知、況牛馬犬猫をや

むさしあぶみ記事より

扨も明暦三年丁酉正月十八日辰の刻ばかりのことなるに、乾のかたより風吹出し、しきりに大風となり、ちりほこりを中天に吹上て、空にたなびきわたる有さま、雲かあらぬか、煙のうすまくか、春のかすみのたな引かと、あやしむほどに、江戸中の貴賤門戸をひらきいず、夜は明けながらまだくらやみのごとく人の往來もさらになし。やう〳〵未のこくにおしうつる時分に本江の四町目西日に、本妙寺とて日蓮宗の寺より、俄に火もゐ出で、煙天をかすめ、寺中一同に燒あがる。折ふし猛風十方にふきまはし、卽時に、湯島へ燒出たり。はたごや町より、はるかにへだてし堀をとびこゑ、駿河臺永井しなのゝ守、戸田うねめのかみ、内藤ひだのかみ松平しもふさの守、津輕殿、そのほか數ヶ所、佐竹よしのぶをはじめまいらせ、鷹匠町の大名小路數百の屋形、たちまちに灰燼となりたり。それより町屋かまくらがしへ燒とをりぬ。……こゝに於て數萬の男女けぶりをのがれんと、風下をさしてにげあつまる程に、向ふへ行つまり靈岩寺へかけこもる。墓所のめぐりはゝなはだひろければよきところがりとて、諸人爰にあつまりゐたる處に、當時の本堂に火かゝり、それより數ヶ所の院〳〵にも渡り、一同に燒りあがくろけぶり天をこがし、車輪ほどなるほのほとびちり。か

ぜにはなされて、雨のふるごとく、大勢むらがりゐたるうへに落くれば、からからのかみにもゐつき、たもとのうちより焼出、まことにたへがたかりければ、諸院あはてふためき、火をのがれんとて、我さきにと、靈岩寺の海邊をさしてはしり行、泥のなかにかけこみけり。寒さはさむし、食はくはず、水にひたりてたちすくみ、火をばのがれたりけれども、精力つきはて、大かた凍死す。……さて又はじめ通り町の火は、傳馬町に焼けきたる。數萬の貴賤、此よしを見て、退あしよしとて、車長持を引つれて、淺草をさしてゆくもの、いく千萬とも數しらず。……北の方はじめ焼とまりと柳原の火おこりて、せいぐわんじまへの大名小路へおしうつりて、立花さこん、松浦ひぜん、細川帶刀、丹羽の式部の少輔、等都合三十五ヶ所、寺かたには、にちりんじ、ほんせいじをはじめ百二十ヶ寺一同に燃へ立つ、右傳馬町の火とひとつになりて焼あがり、炎空にみち〳〵て、かぜにまかせてとびちりつゝ、かさなりあつまり、をしあい、もみあふ人のうへに、三方よりふきかけしかば、數萬の男女さわぎたち……おちかさなり、ふみころされ、おしころされ、さしもにふかき淺草の堀、死人にてうづみけり、その數二萬三千余人……

明れば十九日、江戸中によろこびをなす者、歎きをいたすもの、相まじわりていとさうゞ〳〵しかりけり、焼残りし貴賤、その一族どもの類火にあひしを日ごろのよしみ此時なり、いかでか見すつべきとて、焼跡にはせ集り、こやかくやと懸まはる。あるひはかゆを煮てもち來り、あるひは酒肴をゝくりつかはしなんとする處に、巳の刻ばかりに、小石川の傳通院おもて門の下新鷹匠町大番衆與力の宿所より焼亡出來れり。此煙のありさまを遠き所より見るものは、しばしが間は、旋風にまきあぐる、土煙なりといふ者も有。又きのふの焼野のきゐ殘りたる煙なりといふものありて、火事とはしかと見さだめず。しかも北風皆よりも猶はげしくふきしかば、時刻をうつさず、吉祥寺の學寮院坊々にもゐうつり、車輪ほどなる炎くろけぶりの中に飛ちりて、十町二十町が外にもゐわたる事、同時に廿余ヶ所なり、しばしが内に水戸中納言殿さしもつくりならべ給ひし大きなる御舘に火かゝり、焔と煙とまきたてもゐあがり、大堀をへだて、本鷹匠町の森のした、飯田町典壽院の御所、左右典厩公の兩の殿、中の丸櫓、御殿守、二の丸、三の丸を初めとして、松平加賀守おなじく伊豆守、土炊薗江守、水野出羽守、本田内記、酒井津の守藤堂大學頭等の御舘、金銀珠玉をちりばめて、みがき立たる大厦高樓、むねをの大名十五ヶ所…それより打つゞきて、鍛治橋の内、むねをの大身には、細川越中守、松平新太郎、同相模守等をはじめ大名屋形廿六ヶ所、小名の屋形十七ヶ所、其他數寄橋内の九ヶ所都合七十二ヶ所、年月日比作り並べたる屋形々々、善盡美盡、みがき立たる大厦高牆の構數萬間、前後十五町一同にもゐあがり、黒煙天をこがし、炎は雲を焼棟木瓦のくすれ落る音おびたゞしともいふばかりなし。……

申の刻より、北風西になをりて、いよ〳〵あらく吹しかば、これにて焔を吹きりて、紅葉山西の丸は堅固に殘りけるこそあやうけれ、御馬場の近邊、土手をさかひて、やようすがしへと火うつり、北みなみ廿余町一面になり、町屋をさして焼出る。これ

によつて中橋、京橋の町人ども、きのふの火事のまださめざるにうちそへて、又々この大火事、これはそも何事ぞや、唯今世界は滅却するぞやといふ程こそ有けれ……かくてやう〳〵燒しづまるかとおもひしに、申の刻ばかりに、江城の西丸糀町五町目の在家より、別に火もゐ出て、松平出羽守、同越後守、同但馬守、其他數ヶ所、さしも奇麗嚴淨なる山王權現勸請の地、天神の社にいたるまで、忽ちに咸陽一朝のけぶりとなり、いよ〳〵西かぜはげしくして、東照權現の御やしろ、紅葉山へ猛火しきりに吹き付しかば、あやふくなりたる處に、權現おうごの御力をや添られけん、俄に北風となりて、吹切ければ、西の丸つゞがなく殘りたるぞめでたけれ、それより南の方、大名小路へ燒とをる伊井掃部頭、上杉彈正少輔、毛利長門守、伊達陸奥守、等宛竟の屋形廿六ヶ所、小名廿余ヶ所、その外御成橋の御門の中は一ヶ所も殘らず、忽ちに片時の煙となりにけり、又西の丸の下に至りて……櫻田の町屋に燒うつりて、すぐに愛岩の下、大名小路へうちつゞく其屋形八十五ヶ所同時に燒くづれたり。さて櫻田の火、すでに通り町にも出て、海邊にて保科肥後守の下屋敷、又芝の濱手には、松平相模守等十八ヶ所、增上寺の中にては、東照權現の社頭、臺德院、同御臺の御廟、同本堂、經藏、鐘樓、五重の塔婆、三門、北の裏門などは、つゞがなく相殘れり、けれども所化寮百十ヶ寺、おもての東門、神明の本社、神樂堂、護摩堂等その夜うしの刻ばかりに、みなこと〴〵く炎上せり。……火はこゝろのまゝに燒行くほどに、增上寺より南へ十一町、芝口三町め海手にいたりて火はおのづから消にけり。……

折たく柴の記の中一節

我生れしは明曆三年酉正月の火事の事にて戸部の第宅も燒たれば、外孫にておはせし內藤右近太夫政親の、いとけなくて柳原におはせし所にのがれ給ひ、にわかに假屋をうたせて、家人等をもかしこにあつめ置れたるに、その二月十日辰時にかの假屋のうちにむまれし也、されば我いとけなき程は火の兒とぞ、戸部のよび給ひたりき。

火事に付き落書（明曆三年日記）

□なやきそといへども燒る武藏野は
　人もこもれり我ももこれり

□武藏野は人のいるべき家もなし
　こもより出でゝこもにこそいれ

□書そめも天火和合といはふらん
　みな圓滿にもゆるむさし野

□燒浪人我ふる郷へかへるとて
　錦はきいでこぢき行らん

□火事雅樂で心つくしの曹後殿
　江戶にはてんと伊豆はなるまい

□財寶はたゞ一時に燒やしき
　さゝげをつくれ旗本の衆



低廉なる職工住宅建築

（ウイリアム、イ、グロベン氏所說）

會員　牛村喜男

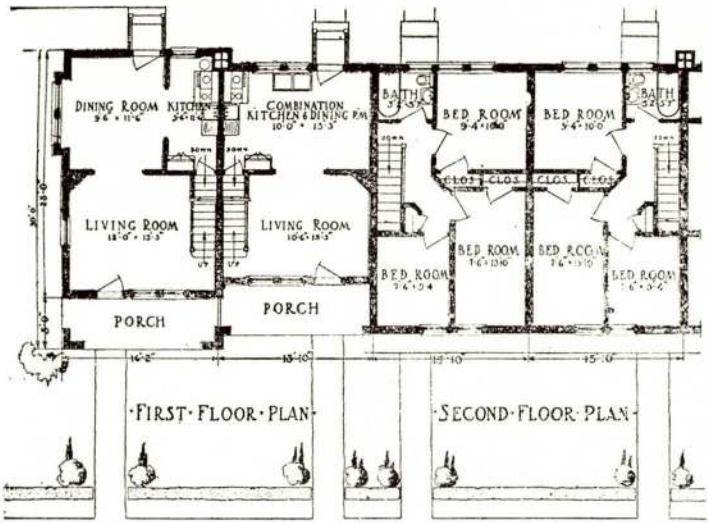
現下工業界の急進は世界各國を通じて最も著しきもの丶一つである、殊に米國戰時工業の活躍は更に甚しく、各種の方面に渉りて無限の材料と勞力とを要求して止まないのである。

勞働者の生活を省みてその生產能力を大ならしめんとするの謀は既に行はれつ丶ありと雖も尙戰時中は材料拂底價格不廉等のあらゆる困難に遭ひ、整備せる勞働者住宅の供給が斯界の進運に伴はず、やゝもすれば全般の能力に影響を及さんとするが如き傾向あるもの丶樣である、工程輕易、工期短少にして工費最も低廉なる、科學的家屋の建設は最も困難とする處、最近米國建築雜誌にウイリアム、イ、グロベン氏が紹介せる構造法の如きは、これらの難件を解き目下の急に應せんとするものと思はれる、もとより我が國のそれと同日に論すべからざるものなれどまた他山の石ともならむか。

今次の戰亂は計らずも米國に於ける勞働者住宅問題をして非常に緊張せしめたのである、今日まで同問題の解決に幾度か國家的にまた工業團により個人により種々の計畫が試みられたが尙未だ滿足すべき結果に到達し得ない、從て今日も更に科學的理解と施工を望みつゝ一大懸案として眼前に橫はつて居るのである。

實際米國に於ける造船所を始め各種の製造工場等に於て、この勞働者住宅問題を等閑に附し

ては到底事業の發展を促すことは許されない、その生産能力は一に職工住宅の處置如何に懸つて居るである、多數の職工に當然給せらるべき



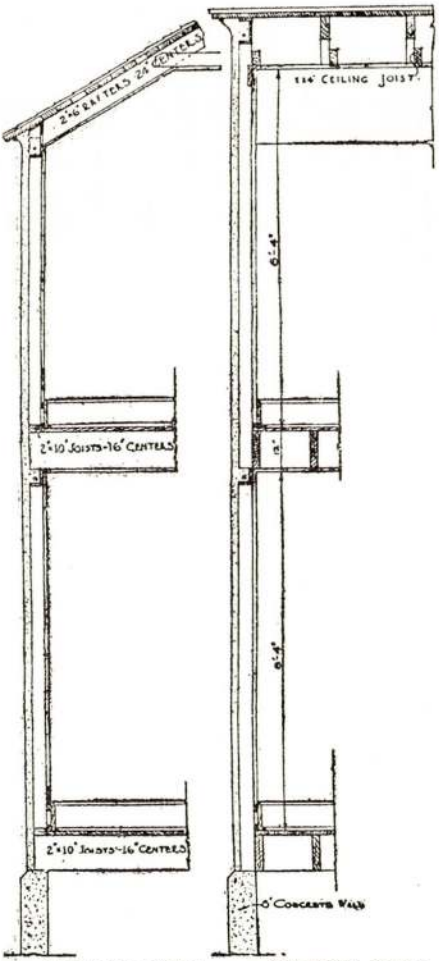
衛生的住宅の現時の缺乏は危險なる過群生活、無謀なる勞力供給を伴ひ、延ては全工業界の戰時事業を阻害しつゝあるのである。

この危急を救はんがために米國に於ける都市計畫者建築家及各技術家は擧げてその全力を盡し極力奮闘して居るのである、而してその目さす目途は、常に從來の危險なる可然性の家屋を飽までこれは斥け、耐火構造にして衛生設備の整へる永久的の家屋を短期間に建設供給するにあることは言ふ迄もない。

建築材料殊に煉瓦及石材の供給不足及價格不廉なるに際し、イ、ジ、ペロット氏はコンクリート支柱セメント塗家の一新構造法を案出し最短期間に多數の永久的家屋の建設を可能ならしめた。

本構造法は鐵筋コンクリートを以て煉瓦等の壁体に代へ、施工方法も在來の注込コンクリート又はコンクリートブロックとその趣を異にし重にセメントガンを以てコンクリート工法に利用したのである、コンクリートがこの種の家屋

に應用して防火防濕にして耐久的なる諸點より最も重寶なる材料たることは論を俟たない、又一面施工當を得て使用材料の夥多なる場合には各種の方面に於て最も經濟的である、まして目下コンクリートは到る土地にても得易く、高價なる陸上運賃を免れ、澁滯せる舟便の不足を省き以て工期の延滯を少なからしむる理由である戰時計畫に伴ふ木材の國家的の大要求は殆ざあらゆる方面に渉つてこれを吸集し、その結果個人的の木造建築は否應なしに中止の狀態に押し付けられたのである、例へばボストン市の統計にても一九一七年の供給額は三四年前のそれよりは約七千五百萬尺も減少して居る、これは單に價格騰貴に因る要求減少がかくまでに立到らしたとは見れない事實運送能力の減少氣候の不順等あらゆる原因によつて、現在では能ふ限り木材使用を中止して刻下の悲況を通過せざるを得ない樣な境遇に瀕せしめたのである。

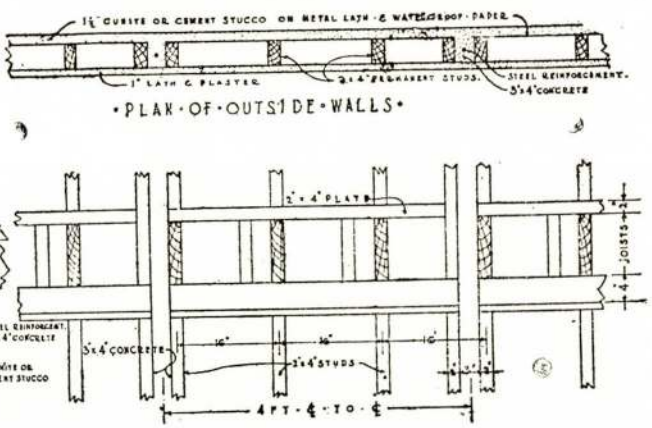


本工法にてはかく材料の逼迫せる場合に限らず、常に最廉にして、最良なる工法たることを信じて疑はない尙また在來の壁体に比して中空

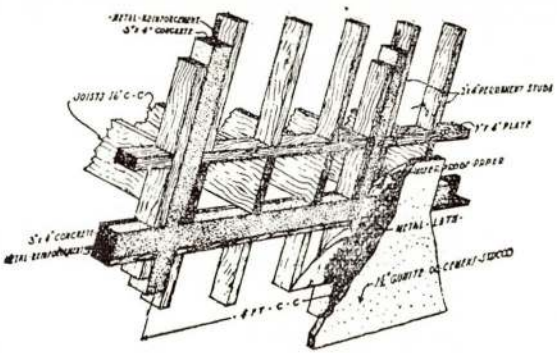
壁なる點に於て防濕の効も大なるものとせなければならぬ、病院兵營其他一階建工場に應用して更に可なりである、若し工場の如きものにて內部仕上げの不必要なる場合にはメタルラス打にて外部同樣のコンクリート造にすれば足る理由である

工事の順序は地下室の堀方を終へコンクリート礎石を移動混合機により假枠へ注入築造し、木根太を配置し軸組も普通の方法にて建て只た間柱四本目毎に三吋四吋のコンクリート支柱の建つ樣に間を狹め、二階腰と軒廻りには胴差受板を取付けコンクリート施工後はコンクリー支柱と連る樣にして置く、二階胴差に根太を架渡し又間柱を建登すこと一階と同樣である、側間仕切共木組が出來屋根が葺はれたならばコンクリート支柱の部分を除き、厚い防水紙を外部へ釘打張付け、その上へメタルラス若くは鐵筋を配置する、コンクリート支柱胴差軒桁には無論鐵筋を挿入してメタルラスと相當の連結をとり胴差及桁がコンクリート充塡の後は梁となつて根太垂木を支へしめる一方木柱はセメント塗の力骨にもなれば內部仕上の下地ともなる。

木組を終はれば外壁は厚一吋半乃至二吋支柱諸共にセメントガンを使用してコンクリートを築き上げる、萬一セメントガンを利用し



ない場合に柱梁はコンクリート打込みとし、壁はメタルラス下地へ一、二のセメントモルタルを手塗とせなければならない、セメントガンの工法によるコンクリートは普通のものよりも三割強の密度を増加し、強度も約二倍に達するのである外壁仕上の色合はモルタルに調合の際適當顔料の加減をする位で、外壁に對しては何等特別の加工を要しないのである要するに本工法の迅速なるは又セメントガン使用の程度如何による理由である



屋根も陸屋根勾配屋根何れにしても、竪壁に同工法によつてコンクリート構造とすることは雑作ない事柄であるが工費低廉を以て第一義とするこの種の家屋にては見合さなければならない若し勾配屋根の場合ならば屋根材料として市場に經濟的なる輕易の不燃質材料が夥多しく存在するからこれを使用して可なりである。

ともかく理想の主眼は工費低廉にして、半耐火的住宅の建設、即ち工事期間に於ても工費の點に於ても總木造住宅に讓らぬ家屋の建設にあるのである、かゝる點からして本工法の如きは最もその理想に近いものと見ることが出來る。

尚本構造の異彩とすべきは、その壁構造にして普通煉瓦造の如く煉瓦工事の終るを待つて床屋根の取付に着手するの必要もなく、加ふるに中空防濕壁体を得ると同時に内部特殊下地構造を省き、外壁に於ては通常免ることを得ざるコンクリートの龜裂を防止し、又一般に材料勞力の運用に至便なる點等枚擧に暇ないのである。

若し本構造にして完全なる施工法によれば圖示せるが如き二階建十軒長屋は地下室堀鑿後約三週間にして工を終へることは至難でない、多數同型のものになれば軒並同時に施工し、その速成はセメントガンの運用宜しきを望む丈である、事實コンクリート工事が一戸一日半乃至二日の工程なることを想到したならば、その施工の迅速なることまた明である。



日本の都市

會員　日高胖演

（於五月例會）

此の前の例會で何か御話をする積りで居りましたが多數の御講演がありましたので御免を蒙りまして此度迄扣へて居りましたが今夜は別に善い考を持つて居らないのですけれども一寸思ひ付いた事を皆樣に御相談申したいと思ひます

吾國大都市に於ては昨今都市計畫と申す大問題が講究されまして本會の如きは率先して此問題を唱導して居りますが、都市に於ける建築は一般市民が是非絶ゑず研究を怠つてはならぬ問題であります。

近來大都市の樞要なる建築には耐火耐震構造（フロント）のものが續々出來て來ましたが其多くは正面が狹く甚だ貧弱で窮屈相に見へるのであります、殊に二階位では左まで目に立たないのですけれども三階四階と高さの延びたものに在つては釣合が取れなくなつて來て不安な感を與へて居ります。例へば東京市の日本橋通りの改正道路に新築された商店建築には最も甚しいのがあります。建築其者丈を考へて見まするど如何にも立派な石造、煉瓦造或は鐵筋コンクリート造でありますが、都市の商店建築としては正面丈飾ればよいので側面は可なりに見苦しい姿を露出して居ります。從來の日本式土藏造は高いのでも二階造でありますから新裝の洋館の側面は遠くから丸見へでありまして、折角都市の美觀に與を添へやうとした新建築も其ヒヨロ長い貧相な醜体を大通の眞中に陳列して居る圖はあんまりほめた話ではないのであります。まして街路の

全体から觀ても目下の處高低不揃で雜亂と不規律と不体裁とを遺憾なく露出して居る譯で市民に不快の感を與へる外得る處は甚だ少ない樣であります。是れは單に街路の美觀といふ點から觀察して見ても甚だ面白くない現象でありますが、畢竟主として從來の狹い往還に釣り合つて居た建築の改造に際して道路との權衡を失したる爲であると考へられます、則ち道路が新館に相應せぬのと街路が狹隘なるが爲であります。それと同時に建物の敷地も今日の時世に適應する建築には甚だ狹隘であつて從來土藏造二階建の建物に相應して居た敷地が四階五階の建物に對して其權衡を失して來たものであると考へることか出來ます。

扨て又經濟的の見地から考察して見ても實際不生產的なやり口であつて不經濟極まる話であると思ひます。既に敷地の狹い爲めに建物は其床坪に於て其の周圍に無駄な地域を殘して居ります。乃ち兩側との境界は路次を通じて居りますし、然らざる場合には隣家の壁との間に利用することの出來ぬ空地を殘します。これは主として側壁の基礎或は軒の突出等のために起る止むを得ざる結果でありますが、例へば一軒の家について兩側に合計四尺の空地を殘しますと假定すれば奥行十三間半の場合は約九坪の面坪となりますから七階分として六十三坪餘の面積を空費する譯となります合計して見ると中々馬鹿に出來ません。又之を横に考へて七軒分の敷地としても可なりの損失になります各個にして見たならば頗る小面積の損失も都市全体から見れば地價高價の地面を無駄に遊ばして居ることになります。こんな不經濟な結果を産んで平氣で居る日本人は中々腹が大きい樣ですが、所謂個人々々の狹い考から出立する爲めに大きな損を招いて居る譯であります。この大不生產的な損失を救濟するのは甚だ必要であると思ひます。畢竟個々の小資本家が個々の小敷地に割據しないで合同して大建築を完成するか或は大資本家の經營に一任して其一部を各個か借用するか或は他の良効な方法を以て目的を達するに手段は幾つもあることゝ思ひます。乍然日本人は兎角狹い考のものが多いから一朝一夕に之を實行することは甚だ困難であります。例へば一軒の家を建てるにしても外國の都市では建築條例かあ

つて其外觀の体裁迄にも干渉をしてゐるけれども日本では各個が他人の家と變つた外觀にしたいといふ希望が第一であつて其町内全体から觀て然るべき所に落付くといふことがなく己れは己れだといふ調子で變つた家を建てるから何の町も何の街もあまり調子の整つた往來はないです、從つて市政の當局者が之れに干渉して其遍狹な思想を矯正する迄の時日と努力は大した事でありませうが都市全体の幸福であり安寧利益のために個々の小利害を犧牲にすることが左迄困難でなくなる迄はどん〳〵改良の實を擧げて行かねばならぬ。

今日重要な道路の小資本家の小我を匡正する爲めに私は地租を高くすることを必要と考へます。今迄市區改正の結果を見ましても擴張された街路の沿道は地價が三割五割と暴騰して居り地主は大小となく利益を得て居ります。然るに此等の騰貴した地所の地租は割合に小額でありますから地主は却つて喜んで居ります、況んや此等の地價の變動を利用して土地買賣に巨利を博する連中の多い處を見ても市政當局者は相當の考慮を加へて地租の値上を斷行するの必要を認めます、そして其收入は之れを其等の街路の修繕改良費に使用して行くとすれば明かに主要道路は其面目を一新して行きます、早い話が北濱附近の地價にしても一坪二千圓といふ呼聲でありますが地租は比較的安價でありますから驚くに足りません、況んや紐育や倫敦等の地價と比へたら雲泥の差のある事情から見れば、まだ〳〵吾國の都市は前途甚だ遠いことでありますが、地價の暴騰に伴ひて其地主の負擔額が增大するとすれば小資本家は大に困難を感じて來る結果小なる敷地は漸次併合されて大資本家の經營に移り都市主要道路の面目が一新されることを信じます。

兎に角現今の吾國各都市主要街路の情況は甚だ其意を得ぬことが多いのでありまして之れを都市の美觀といふ點から見ても之を土地經濟の見地から觀察しても大に改良を斷行して行くべき時機になつて居ると思ひます。殊に今日の樣に都市の建築について輿論の勃興しつゝある際でありますから各方面からの意見觀察が必要であつて皆樣も既に種々御氣付の事とは存じますが一寸私の愚見を開陳した次第であつて今後は續々御高見を伺ひたいと思ひます。



亞米利加の田園住宅

〔アーキテクチユラルレコード（十月號所載）エー、デー、ハミン氏記〕

會員 谷本多喜治 譯

私は、アーキテクチユラルレコードの編輯者から亞米利加の田園住宅に就いて、充分なる論文を書く樣に依頼されたのであるが、此の問題を引受けるのは可なりに重大な任務なのであるどうぞ、私が、此の仕事を果す爲の努力に對して、多くの缺點のあるところは、讀者諸君の御寬容を願はねばならぬ。

私は、出來るだけ澤山な寫眞を掲載したのであるが是れ等を設計された建築家から、提供せられた多くのエキザンプルの遺漏に對する非難は當然私が受けるのである、是れは此等の建築の價値を認めないといふのではなくて多くの挿畫に對する餘白の不足から來たのである。間取や配景の撰擇は、各個の特別な表現や理想の說明に對して、眼を以てする樣にしたのであつて微妙なる建築的價値を、獨斷的に取扱つた樣な方法ではないのである。此の論文中の二三の挿畫は、既にアーキテクチユラルレコードに掲載した論文中から取つたものもある。

アーキテクチユラルレコードは、建築家でない多くの紳士や婦人によつて讀まれて居るのであるから、一般の人士はそうでもあるまいが、特に建築家である讀者には、解りきつた平凡な事を澤山記載した事に付いてお赦しが願いたいのである。

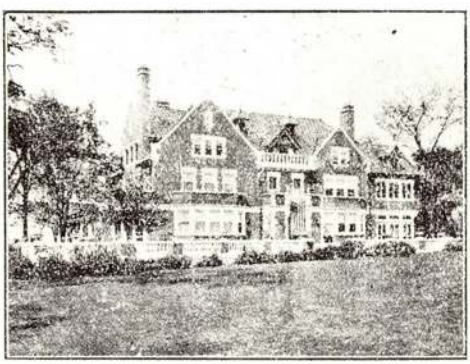
此の論文は亞米利加田園住宅の起元、田園住宅の間取、最近田園住宅の型の三章に分つて取扱つたのであつて、挿畫に撰擇したエキザンプ

ルは、出來る丈中位の價格のものを撰んだのである。

尙ほ、明細に說明せし以外に、澤山な插畫があるが、是等は說明を加へずして、主として外觀を第一類に、玄關を第二類として配置したのである、斯くの如くして配置の方法は、論旨の比較を容易ならしめたのであるが、或る一つの建物に就いて取扱ふ插畫を、分離する不便があるので、此の不便を少くせんが爲に、參照文を各々其の插畫の下に記載して置いたのである。

◆亞米利加田園住宅の起原◆

「フランシス、ベーコン」は、今から殆んど三百年前の人で、法律學者であり、哲學者であり又論說家であつた、彼れの論文の中に『住宅に就いて』と言ふ一篇がある、（其の論文は多くの人は聞いても居れば、又少數の人は讀んでも居る）其の論文は、當時の英國紳士の理想的住宅に就いて、面白く巧みに書いたものである、一度其の論文を讀む時は、如何に因襲と言ふ事が、時と樣式との總べての變化に基いて居る良い住宅設計の要素を、爲して居ると言ふ事が認められるのである、詳細部の變化は、當然認められながらも、英國に於ける小さい住宅の標準になるものや「エリザベサン」や「ジャコビヤン」時代の諸侯の邸宅は、現世紀の有福な多くの亞米利加人が、喜んで彼の等の建築を倣ふた所の間取や形体を、與へて呉れたのである。



第一圖

（第一圖）

結局、暖房採光及輸運以外、住宅築建に依つて、持ち來たされたる重大なる改變は、社會上の改變である羅馬風別莊の間取は、數百人の奴隷を使用する關係上、又光線と熱との爲に出來るだけ都合よ

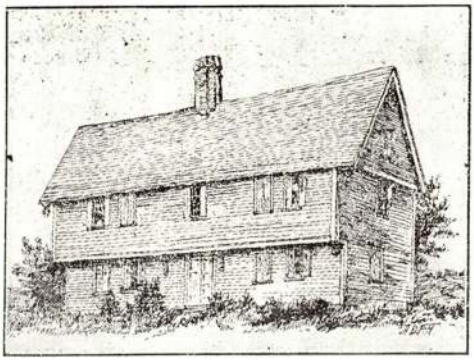
く、方位をとる關係から配置したものであつて寒冷な地方に住む英國紳士は、澤山な暖爐と急勾配の屋根とを作つて、大仕掛な仕事を支配して居ても、使用人の數は限つて居たのである、故に最も整然とした間取が、高い屋根と切妻と煙突とを持つた二階乃至三階建の家に建てられたのである。亞米利加の田園住宅に於ては、使用人の爲には却つて小さな設備がしてあるが、英國に於て適當とせるタイプよりも、僅かな部分なのである、然るに、勞力を省く便利と言ふ事は、最も多くして効果があるのでる、又英國に於ては、扉を締め切るのであるが、吾々は開放を好み、時としては一階全部一室とする事がある、例へば居間、栓廊、又は「スリーピングポーチ」は亞米利加獨特のものである。

英國に於ける流行よりも、經濟的な家庭的事務に携はる亞米利加人は、各寢室に廣い便利な押入を必要とする樣になつたのである、尙ほ湯殿も澤山に設けたのである。英國上流社會の多くの人士間に於ては、古より傳來の持ち運びの出來る錫製の浴槽を備へて、其の浴槽には毎朝召使の者によつて、温湯と冷水とを入れた鑵を運ばして居たのである、彼等は、自らパイプや器具を運用するよりも、寧ろ下級の召使によつて扱はれるのを尙んで居たのである。

氣候、及材料以外、社會上の習慣、家庭的事務、及暖房、採光は、一般に又如何なる場所及時代に於ても、住宅建築の起元と發達とを支配する要素なのである、建築樣式の意義に於て、田園住宅は、勿論其の時代の樣式形体の影響に追從するのであるが、公共的或は宗教的建築よりは其の影響は少いのである。家屋の品位や要求は、最も中庸的なものであつても、其の土地や色々の傳說や趣味の影響は、夫れ等に最も影響を與へるものである。此の理由によつて屢々村莊と中流の家屋とは、貴族や富豪の華麗なる邸宅よりも、より以上興味があるのである。

フランシス、ベーコンは、(私は少くとも今一度此の論文に繰返さねばならないのである)「ラリー」氏の殖民が、初めてゼームスタオンに設

立された時、最初のニユー、イングランド人が初めてメーン州のペマクキッドに上陸した時、（一六〇七年）丁度メーン、フラワー丸が、プリマウスに投錨した三十年以前に相當するが、未だ生きて居たのである。ジヤコビヤン式が英國に流行して居た時は勿論「イニゴージョン」は未だ幼少で、「クリストフアーレン」は未だ生れて居なかつたのである。從つてニユー、イングランドやバーヂニヤの海岸には、ジヤコビヤン式の邸宅は無かつたのである。



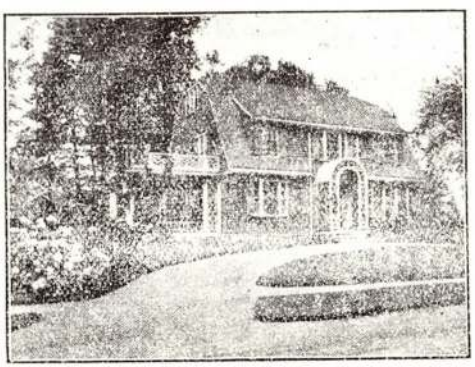
第二圖

最初の丸太小屋と自然野蠻人に對する勇ましき奮鬪は、先づ以て殖民地に起つたのである、やがては美くしい木造家屋や石や煉瓦の建物は未開の西部地方にも及ぼしたに相違ないにしても、森林は伐採されなければならなかつた。交易及取引は贅澤、華美が流行する以前に發達されねばならぬ順序である。從つて母國に於て流行せる樣式の最初の影響は、ジヤコビヤン式でもなければジヨジヤン式でもなかつたのである。殆んど、一千七百二十五年以前に於ては、殖民の僅少なる資財では、豐富なる木材と石の不足について一通の苦勞を味うと同時に少くとも手腕のある石工の不足が却つて、木造家屋の興味ある形体の發達を促したのである。夫れ等の二三のエキザンプルは、尙ほ現存して居る、即ち壁は下見板張、屋根板張、風折り破風の切妻、時としては降花を以て飾られた階上が、乘り懸つた樣になつたものがある、（第二圖）ゼームス河畔の煙草栽培者の煉瓦造の家は、最も簡單なる家である、其の家でさへも、十八世紀時代に於て有福

となるまでは、最も野望ある建築的努力によつて出來たものである。

是等の住宅設計に於ける最初の發達は、最も犧牲的にして獨特な亞米利加型、いはゞ亞米利加式を構成したものである、何となれば、吾々の國民的建築は多少は、外國傳來の型の影響は受けてゐるにしても其處に獨特な遺風のあることを逸することは出來ない、少くとも十九世紀の末葉に至る形体に對しては、私は他の頁に於て注意を求めるのである。

多くの歐洲批評家は、殖民地の文化と美術の眞實なる理論を理解する事に於て缺けて居たのである、最も文明なる移民の社會が、新らしき未開の土地に設立されたのは、近世歷史に於ける最初のものであつた、彼等は思想や習慣や取引を齎らして、新しき未開の社會に植ゑ付けんと試みたのである。(假へば、歷史上に繰り返される事實から見れば、南伊太利とシシリーを占領したドリア人の事蹟を考へて見たい。ギリシヤ殖民地は初めて移住して幾世紀後になつて、紀念的建築の建設を初めたのである彼等は根本的に母國のドリック式を再興したのである)總べて是等の開拓の種子は、全く違背した狀態のもとに起つたのではなかつた、或るものは、新らしき面白い變つた狀態から來たものもある、又或るものは、決して以前はなかつたもので盛んとなつた市民の自由や民主政体の思想の如きものがあつた。母國の建築は、再び生れなかつた。材料、資財、家事上の事務、及鄉土の社交的狀態は、全きを得なかつたのである。新らしく組織した組合は、絶体に民主主義で、其の內容は嚴格なものであ



第三圖

つた。最初の必要な事は、森林を伐採する事であつた、其の土地は直に田圃に分配せられ、木材は薪炭や建物に分配せられたのである、大工は出來て來たが、石工は出來なかつた。僅かな地方を除いては、粘土が豐富で、容易に出來る人造石は、建築材料の使用を促し、木は吾々の國民的建築の材料となり、屋根板は、タイルやスレートに代用されたのである。酷寒の氣候は低い天井や小じんまりした間取を强要し、ニユー、イングランドや、ニユー、ヂャーシーの地方は、僅かな値で急勾配の屋根に階數を增加する樣になつたのである。內部は、白松の簡單な腰羽目以外には大した裝飾はなかつた、暖爐の前飾も簡單なものであつた。

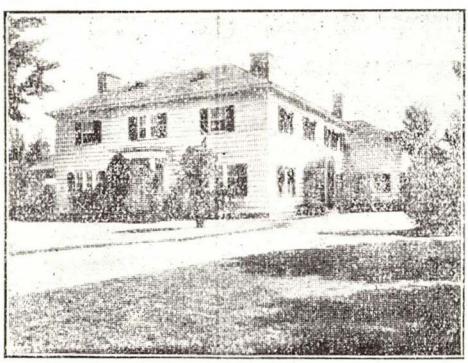
是等の最初の表現は、今日尙ほ固執されて居るものがある、急勾配の屋根（第三圖）下見板屋根板、窓障子代用の二枚扉は、十七世紀から出來たものである。小じんまりとした間取、押入や膳棚の增加、及び薪用の大きな暖爐を固守する事は、革命前の傳來である、英國に於ては、薪が不足の爲め、薪用暖爐は一般に驅逐されて軟い石炭を使用する爐格子の開いた暖爐が一般に採用されたのである。

是等の簡單な木造家屋は殖民地敎化の基に、新らしい條件に合致した產物であつた、即ち古い家から持ち來つて新らしい形に表はし、古い生活の最も良い本質を復活する樣に探求したのである、故に、知らず〳〵して新らしい家に新らしい敎化を創造したのである。

（二）

然しながら、最初の移民の幼稚な狀態が失せて、富の平均や材料の豐富展開して、母國の美術の影響を受ける樣になつた。此の美術の影響からして、殖民地は總べて影響を受けて、生活上の必要なる裝飾を生じて來て、彼等は模倣する爲めに、熟練と手段とを以て、極力外觀を類似させる樣に繰り返したのである。「ハドソン、バレット」夫人が、新舊世界の「梭」である、と叫んだ所の海事商業は、殖民地と母國の、美術と生活とを連結したのである、斯くして十八世

紀、即ち英國に於て「アン」女王「ウイリヤムマリー」及「ジョージ」三世の時代に吾々殖民文化の第二の舞臺が始つたのである。此の時代に於て美術は、幾分英國からの直輸入、家具、化粧具を英國形に模倣する事、或ひは經濟上、社會上、の新らしい狀態の趨勢のもとに英國製品の改良等によつて盛んとなつて來たのである。吾々は、十八世紀時代の粗末な船が、花緞、大絨のみならずマホガニー製の家具、銀器、陶器等を持ち來つた事を想像する事が出來る、尙ほ又、マホガニー製の捻れた階段手摺、曲つた繰方、暖爐の前飾、大工の參考書等をも齎したのである。當時は此前より、より以上新開地に移住する木工事に熟練なる技術者、流行に適せる美術を學ぶ見習生を要求したのである。斯くの如くして亞米利加建築は、詳細部をジョージヤン式を基礎として出來たのであるが、北部地方の簡易生活や木造家屋に良く適合したのである又煉瓦は豐富で安價な南部地方、即ち氣候温暖な爲めに、廣い露臺の日避場、或ひは一階及二階に廊下を必要とする南部地方の、最も貴族的な多數の使用人を有する耕地生活にも適合したのである。十八世紀に於ける家屋のタイプは、自然的で又特有のもので、英國の影響は受けたけれども、固有な全く亞米利加のものであつた。



第四圖

今日吾々は殖民地タイプを明瞭に知悉する事が出來る、此の殖民地タイプは、澤山な書籍と復成されたものがある、是等の威嚴、精美、及美趣とは、其の性質を表はさんが爲めに、實際に試みられた建物によつて、最も善く諒解する事が出來るのである（第四圖）此のタイプの一般的表現を再

錄する事は、限られたる此の紙數では過分な事であつて、建築家や多くの顧客は親しく承知の事である。論文中の挿畫に示してある近世復興式は、實際と技術と共に、十八世紀時代の仕事の價値が明に證明せられるのである。（私は、千九百十五年十月のアーキテクチユラル、レコードに、興味ある論文で公表して居る「ピー、ビー、ワイト」氏の「所謂殖民地樣式の創見」に就いて、價値なきものと看做して居る事を了解に苦むるのである、彼は一千八百八十一年から一千八百九十一年に至る復活せる建築術進歩の阻碍物として視て居るのである、而して夫等に對する異議は、此の新殖民地の運動に於て、建築家が、顧客中の敎育を受けた藝學者によつて影響を受けると言ふ其の事實の中に横つて居ると、暗示して居る。吾々の多くは、一般人士間の趣味改良を證據立てる現れであるとするのである、又斯くの如くして、運動は職業上の虚飾に在らずして、眞正なる國家的發展なのである）。

十八世紀の末葉から十九世紀の始は「フイスク、キンボール」敎授が示した如く「トーマス、ゼッフワーソン」氏が開路者ではなかつたが、最も熱心な鼓吹者の一人であつた爲に、クラシック復興時代となつたのである。佛蘭西の影響は革命后、間も無く非常な勢で英國に侵入した、從つて新らしい首都や新らしく出來た都市に於ける公共建築の發達は住宅建築にも其影響を與へる事多く大きなそして贅澤な型に導かれてゐた。しかし、小さな家は、昔の簡單な粗末な建築を續けて居た。

其後、三四十年にして、純希臘式の運動が起つたのであるが、パーテノンやテシユームを戲作した澤山な白松を用いた住宅と同じ樣な、何等の美趣もない家を作つたのである、北部地方の都市に在る二階迄で通したアイオニックの玄關のある家は、大部分此の時代のものに屬するのである、其のタイプは、十九世紀の末に發見されたのであるけれども、ギリシヤ式よりも寧ろ當時のローマ式のものである、住宅建築は、最も虚飾的な、不自然な、僞作的になつて來て

質樸なジョージアン建築の感じを缺いだのである。美術趣味は、汽車、汽船、製造の爲めに、當然起る工業熱の發達と共に、衰微し始めたのである、汽車、汽船、鋸輪機は、人夫の勞働や手ぬるい方法を驅逐したのである。一般の家は何等感じのない單調な醜惡なる矩形のものとなり、又切妻は箱の樣な形となつたのである。曲線用鋸や手鋸は、最后の仕上げに用ひられたのであつた。舊式の田舍大工は、無くなつて行つたが、未だ、建築家は彼等の位置を取つて代る事は出來なかつた。伊太利風の別莊やゴシック風の住宅及厩（第五圖）英國諸侯の田宅の設計參考書は外觀設計に供せられ、時としては建築道樂家の間取の設計に供せられたのである、製作工場からは、窓、扉、枠、柱廊の柱、鋸製の蛇腹用持送り、柱廊の詳細部等が供給せられたのである。

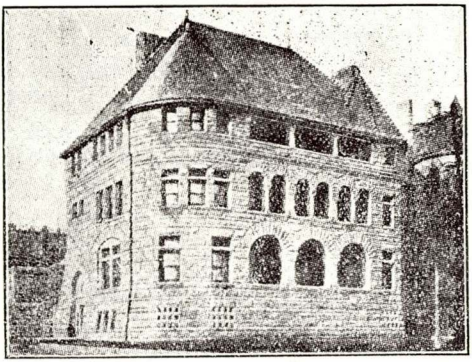


第五圖

間取も詳細部と同樣、何等感じのないものであつた。廣間は狹く、階段は眞直ぐとなり、煙突は板石や大理石の醜い紀念物となつた、黑い胡桃は、內部仕上げの最も立派なものとせられ漆喰天井や蛇腹は、商業上外國の職工の手になつた恐ろしく亂暴な仕事のものであつた。是等の事柄は、革命戰爭の時代を過ぎて、マンサード、ルーフ全盛の勢と商業上機械製裝飾の全盛であつた最后の九十年の終りに出來たのである斯くの如くして、亞米利加住宅建築の暗黑時代は終つたのである。

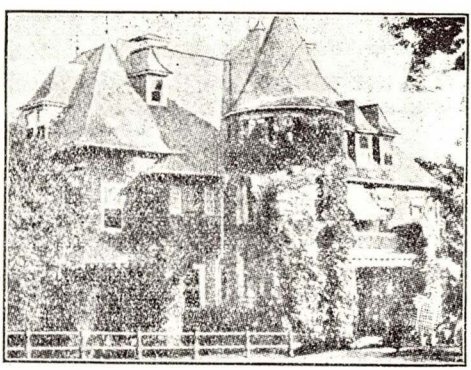
今日の住宅設計起原の始りは、一千八百七十六年か或は、一千八百八十年とも、何れにでも日を定め得るのである。吾々は一千八百七十六年に、フイラデルフイヤで開かれた百年祭博覽

會後、間も無く合衆國に於ける趣味や美術の、前進運動が始つた事をよく知つて居る、夫れ等は色々の象を通つて、今日まで繼續されて居るのである。一千八百八十年に、亞米利加趣味を說く樣になつた所の種々なる勢力や影響は、公共的崇敬的紀念的建築物と同樣に住宅設計に影響し始めたのである「エッチ、エッチ、リチャードソン」氏は、北フランスのローマチスク式に、彼れの眞實なる固性を描出した樣式を確立した、彼は田舍、都會の何れの住宅にも恐る可き手腕を持て居たのである（第六圖）多くの模倣家は、變化に富んだ



第六圖

彼れの繪畫的な力强い創作を模倣せんと試みたのである。當時、ニューヨークに於ける最も卓越せる手腕家であつたマッキム、ミード、ホワイト氏等を中心とする設計家の一團は、充分研究を重ねた不規則な間取に澤山な柱廊と不規則な屋根とを持つた下見張り板とした新らしいタイプを發達させたのである（第七圖）此の種の間取は充分完全なものであつたが、結果は詳細部と趣旨との非常に法外な虛飾の多いために、雅趣ある質樸と言ふ事から遠つて居たのである、一千八百八十年或ひは一千八百八十二年から、殆んど一千八百九十



第七圖

五年迄に終つたところの此の形体の根本は、間取を外觀的に、明白に表して居た、間取の形は形式的な對稱式にとらわれずして、家庭生活の特別なる要求に合ふ様に、暖爐のある居間に這入る階段のある廣間の擴張、澤山な柱廊や出窓色々な種類の引き込める場所の設備、屋根板は平面なもの、彫み目のあるものを共に使用し、下見板を用ひ、稀にハーフチンバーを使用し、漆喰塗りとなし、壁は煉瓦や石に出來て居たのである。

（「ビー、ビー、ワイト」氏は市俄古を其發生地とし、且つ一八八一年―一八九一年間の大復興期の故郷であると宣言してゐる。勿論其發生地の一であることに疑はないが、同時にボストン市は「エチ、エチ、リチャードソン」氏其他によつて、又、紐育市は「マッキム」氏や「ミード」氏「ホワイト」氏や「ポスト」氏や「バッブ」氏及「クック」氏等の力によつて、又ミチアポリスは又他の人によつて指導されてゐた。從つて故郷は澤山ある譯であつて先づ最初に東部に現はれ次いで中央西部に及ぼした様である。）

此等の住宅の有力な表現は「雅致ある」點の追從にあつたが此種の型は英國風に少しも似て居ないに係らず、一般に於て「クイン、アン」式の稱號を與へられてゐる。

吾々は今日こそ此時代の住宅の或種のものに冷笑を與へてゐるが、住宅としては大いに愉快に出來てゐてしかも改良が加へられ、寧ろ驚くべき進歩を遂げてゐる。此等の住宅は合理的な美術的な住居を完成するに眞摯な努力を注入されてゐるのみならず、吾々の住宅設計殊に純然たる亞米利加風に新規軸を加へられてゐる。從つて當時の外國の記者から賞讃せられてゐるし又故「モントゴメリー、シユイラー」氏により一八九三年發刊の「アメリカン、アーキテクチユアー」誌上に書かれて居る。

此發達の經路に今一つ最も重要な道起を考察して見ると、當時の流行の力があつた、則ちコロニアル式復興期であつた。私は吾々の多く

の古い連中が最初は「革命前の建築」の歎賞者であつた學生の熱心なる行動に無頓着であつて漸次に目が醉めて其興味と或種の魅力を感ずる樣になつたのを記憶する、此三四十年前に此種の建築の實測圖や寫眞を滿載して居たのを忘れることが出來ない。地方的の興味が此種の住宅建築の重要な中央部に起つて來た、そこで特別號が出來る、模型が出來る、殊に大々的な覇氣漫々たる田園住宅が實施される樣になつた。庭園の設計にも注意を加へるし、吾々建築家は一層善く敎養され、圖工は以前より熟練するし何うしても巴里と亞米利加の學校に多謝しなければならぬ。住宅は夫々善く計畫され、一層詳細の研究も積み、精練されたる一般の趣味の要求にも合致する樣に內部裝飾を加へて來た、從つて英國型が再興される樣になり、エリザベタンやジャコビアン風の大規模のもので段階や庭園を英國の例に倣つて施工する樣になつてコロニアル型の住宅と融合する樣になつて來た。

斯く不思議な經路ではあるが尙自然的に發達して來て母國との交通は絕えず梭の如くに太洋を往復して居るから今日では兩つの國土と國民は全く自由と共和のために同一の觀念の下に戰爭を共にし兼まじき有樣である。斯くしてフランシス、ベイコン當時の建築は遂に太西洋の此岸にも同感の後繼者が現れることゝなつた、又言葉を換へて申さば古い英國の樹から遲く落ちた種子はとても越へることが出來なかつた海の此岸に培かはれて新しい亞米利加生活に育て上げられたのである。風折屋根、下見張の村莊やコロニアル風の邸宅やジャコビアン式の莊別などが亞米利加型に出來上つていはゆる國風の混合体をなして居るが吾々の二十世紀の敎養に亞米利加主義の風格を多く含蓄された作物が多いことは勿論である。

× × × × × × × × ×



火事は江戸の花とか云つた日本の昔は別のこと現代科學文明の中心地たるアメリカの花は文明ならで火災だとは、又面白いアイロニーではあるまいか、アメリカンシティ四月號所載にかゝる米國都市火災損害高の統計を示したものがあつたので紹介することとする

何人の責と云ふ、敢てアメリカ人限つたことであるまいと思ふ

亞米利加の花

―誰人の責ぞや―

會員　伊藤正文　譯

今春一月のこと、アメリカ合衆國の國民火災保險業協會（The National Board of Fire Underwriters）の手によつて一昨年即千九百十六年の、火災損害の統計を廣く集めてゐたものゝ大体が完成されたのである。

此統計を見ると千九百十六年と云ふ年は凶年であつたと云ふのも無理ではない合衆國の火災損害高は一人に付き二弗、一〇を示した位で、前年の千九百十五年の如きは一弗、七一であつた。此三十九パーセントの差は何を意味するかと云ふと、その年内に無駄な破壊の爲に被る莫大な損失が增加し、總計四〇、〇〇〇、〇〇〇弗以上にも上ると云ふことである。

火災の起る原因に就て研究して見ると、此損害は如何程漠大でつまらないものかが明亮になるであらう。此等の原因を凡そ三つの部類に大別することが出來る。

絶体に防止し得るもの、

幾分防止し得るもの、

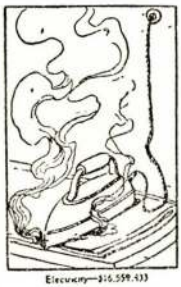
不確實なもの、（多分詳かに分けて見るなら

ば防止し得るものかも知れぬ）

最初の二つの部類は次に複寫した圖面に集めてその性質を示してゐる。絶体に防ぎ得る場合の原因による損失は六〇、四六六、〇五四弗即全体の二八、九パーセントを示してゐるが其中の一弗でもこうして無駄に捨てられる筈のものではあるまいし、それを救ふことも出來る筈である。保險業協會では此等の火災は、個人の意志に向つては當然罪惡は成立しないが、社會に對しては一つの罪惡であることになると云つてゐる位である。

（絶体に防止し得るもの）







大統領ウヰルソン氏も次の樣に云つてゐる。

『防止し得可き火災は個人の不幸より以上の害惡である。即之は公衆の懈怠によると云ふ可きである。國民の財産を保持することが緊急問題であると云ふ明白な必要條件になる時には此害惡を除く爲にあらゆる手段が講せられるであらう。それは常に重要な逼迫した結果を齎す事件に對してより以上になることであらう。』

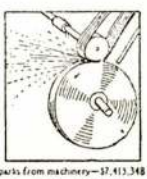
（絶体に防止し得るもの）











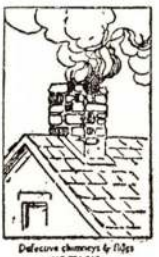


そう云ふ時は斯の如き火災が懲罰であると認められる時であらう。

原　因

『防止し得る火災』の原因に就て研究する事に

於て、防止し得る程度に階梯をつけることは幾分困難なことである。例へば現に電光そのものを如何にして防止す可きやと云ふ既明の方法はない、併しそれから受ける損失は、只避雷針を立てることゝ、金属板を埋没すると云ふ簡單な方法で非常に幾分減ぜられるのだ。四防止一、二三七、一六八弗に迄上る程損失を得し起す『露出』の狀態るは有名なブラックもムの災害と、Paris, (Tex., Augusta, Ga., の其他の大火によつて注意をひいた。その各々の場合に照して見ると『斯の如き損害は絶体に防止し得る筈のものだ。』と認められる程防止し得可きエンメントは大であつた。







原因の不確實な火災は他の二つのいづれの部類かへ別け込まれてゐるのだが、勿論それだけに明確な原因であるわけではない。色々の立場からそれは廣い意味で防止可能と云ふのであるが消極的の説明に過ぎぬ。







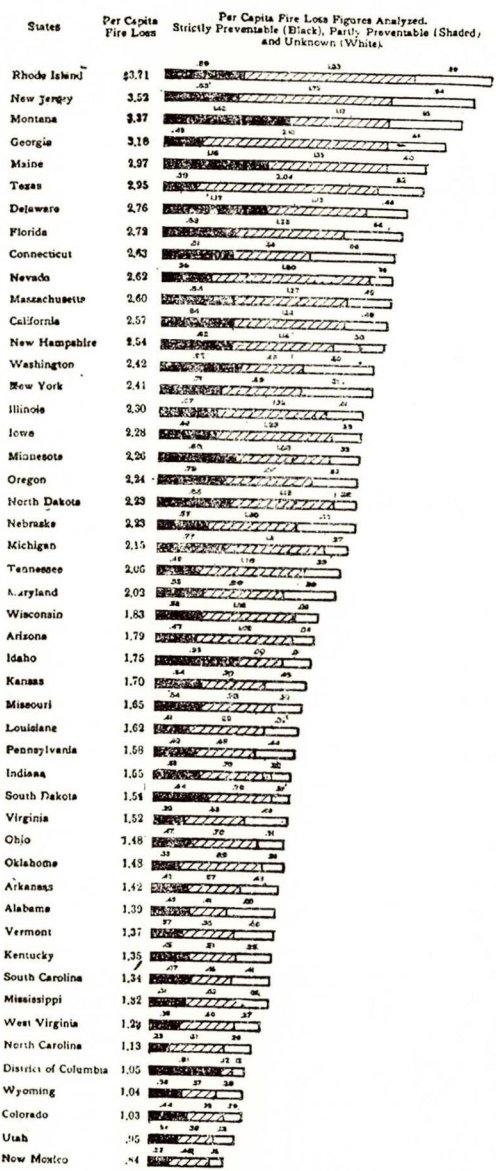


各州の損害高（圖表參照）

次に示す圖表は一人に就ての火災損失高を示してゐるものであるが火災の損害割合に於て廣い變化を示してゐるし、原因の三つの異る部類

火災保險業協會支配人部へ報告された損害高の統計は二〇幾分八、二〇五、三四〇防止し弗で時の合衆國火災損害高の九十七パーセントか九十八パーるセントに當ると信せられる。又一方に如何程の割合が絶体に防止不可能かを確むることは困難である

に關係して、非常な變化をさへ示してゐる。即ち一例を示すと、コロンビア地方は一人に就き僅かに、一、〇五弗と云ふ良成績を示してゐるが、絶体防止可能の部分は全体の八十一パーセント占もしめてゐる。丁度各州の第二位にあつて一人に就き三五二弗を示してゐるニウジアシイのそれと殆ど同じである。表で黒色の部は申譯のない失態を示してゐることになる。次の幾分防止可能の部分は定罪的である、又白い部分、之も罪が全々ないとは云へない。



（各州火災の高い損害）

板葺屋根の危險

板屋根の危險さは、すべての火災の原因に重大なファクターをなしてゐることでも明る。特に合衆國南部に於てそうである。例へばさう久しくはない以前のこと The National Roard の當局者が三五〇〇〇人の人にある或る南部都市

の消防屯署で一日を過し、彼が居た間に報じて來た警報の狀態を調査した。

全体十六報の中から一報は無駄の報知であつたが他の十五は眞正の火災であつた。而してその中十四は板屋根の火事であつた。此地方では低勾配の板屋根の使用は非常に盛であるが、此種の板は天候の下に速に變質して火災の準備をしてゐる樣なものである。同時に燃料に木を多く用ふる點も南部諸州の危險率を加へるものである。

一火災の損害高を調べて見ると、コロラドの平均三一一、四〇弗からジェヲルジアの一五四三、四四弗迄の州によつて差があるが、一轄して平均すると一火災につき五八三、五六弗になる。

世界の危險たる可き米國人の不注意

火災による破壞の經濟を研究するとアメリカ人の不注意が主なる原因であると云ふ結論に益々近づく。此事實がそれ程にげ場もない程確實なものと認められる樣になつて未だ一年を出ないのである。

國民經濟の能率が前例のない程發達した曉には、吾人が之迄傳習的の力のまゝに押流されて來た火災の破壞と云ふものが、すべての歷史上の最大の苦しみを示してゐる問題について見ると始ど悲劇となつて見ゐる樣になる。年々火災の爲に起る數千の災害に就ては云ふ迄もなく、若し此有樣が千九百十八年迄つゞいたならば吾人がうける火災の損失の眞の意味は直接他の數千の破滅を導くことになる。

我若い人々の軍隊は佛蘭西の戰線に立つことを覺悟してゐる、聯邦側の大勢力は漸次吾人の富源をたよる樣になるであらう。而して歐州諸國の非常な人は吾人が彼等に料食を送らねば饑の爲に嚇かされてゐるのである。その點からアメリカの火災は吾人の供給を破壞し、吾人の財産を危くし、驚く可き程度に迄吾人のエチルギーを弱める。即ちアメリカの火災損失の裏面には常に預つて力ある『アメリカ人の不注意』と云ふことがあることを忘れてはならない。故に此

問題は單なる經濟上の問題でなく人類の將來そのことに關係がある。

アメリカ人たるものは各々、三千哩彼方の出來事として歐州大戰を忘れることは出來ぬ、又同時にそれは彼の國、彼の事業界、彼の家庭に於て迄もそうであることを實際に現さねばならない。此事實がわからない樣ならば早や無頓着にのみ歸するわけにはゆかぬ。又火災の危險に對して先天的に汚れてゐる米人の不注意な無頓着な舊習を打破して速に改革を施さうとせぬならば、アメリカ人の愛國的の市民として考へられてゐる信用は墜落せずにはすまぬであらう。

（終）

◈戸ざさぬ國◈

大國の市中へ罷りし頃、其國風を視るに、乞食の族（ヤカラ）まれにもたゝず。故を問ふに、其國の貧人乞食の爲に、傍に一棟の小屋を建て並べ、數千人の者を入れ置き、朝夕の粮を與へたすけ給ひて、男女ともに其業々を相應に與へ勤めさせ、それ〴〵に賣りたてさせ、一人々々の利得年を重て、其の積銀の多少に隨ひ、すたれたる地を田畑に開發して、百姓にぞ取立て給ふ。是よりして貧人乞食の族不易（フエキ）の家德を得て、愁ふる事皆てなく、國守は仁哀の政道より、廣大の五穀納まりつゝ、戸ざさぬ國とか見ゐ侍りぬ。（それ〳〵草）



赤坂大理石に就て

會員　T　T　T　生

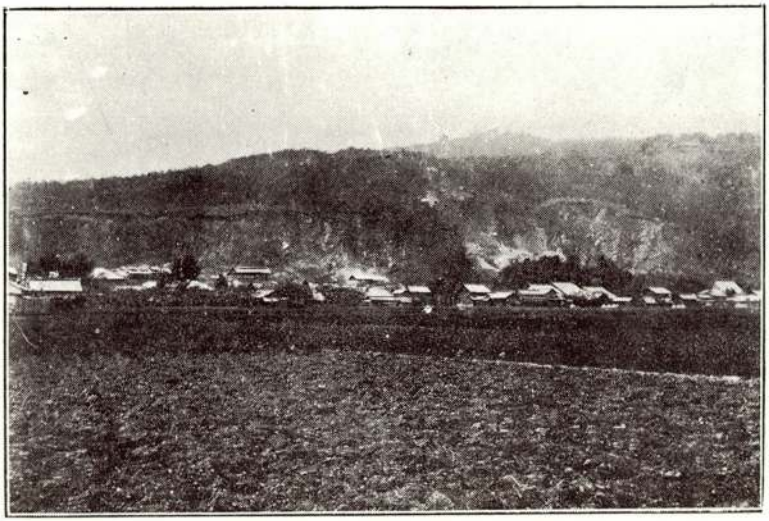
はしがき

大理石は本邦各地方より可なり多量に產出して居るが其種類も亦百數十種に及んで居る樣である。一般建築家に廣く知られて居るものは矢張岐阜の赤坂金生山產出のものを筆頭としてゐる。長州美彌郡伊佐牛明、同別府、秋吉等の白及薄雲石之に次き茨城多賀郡國分村下孫（シモマゴ）の寒水石、縞鼠石薄鼠石、同久慈郡眞弓太平田、水穴產白石又は埼玉秩父蛇紋石等が其重なる大理石の產出地である。

予は曾て赤坂に遊んで充分視察したことがあるので茲に紹介をする譯である。

赤坂金生山とは何處ぞ

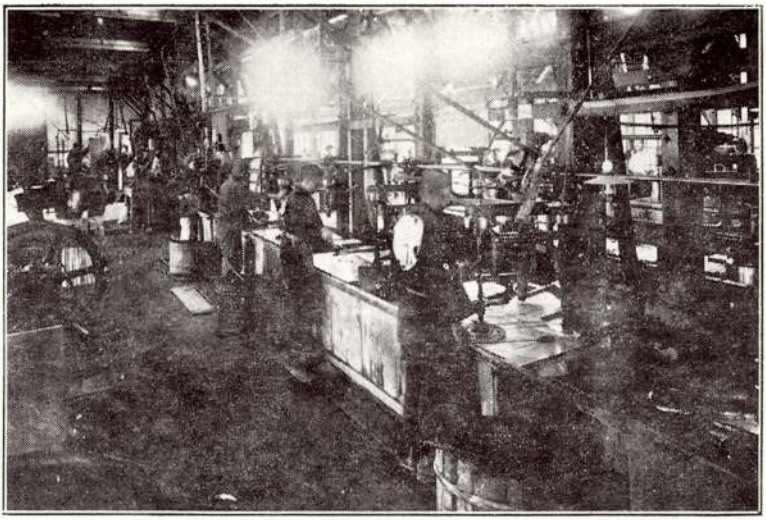
東海道本線大垣驛を通過する旅客は一應眼光を西北方に展ずれば僅か三哩の地點に象頭山の樣な姿を現して居る。これが金生山である。は揖斐川に沿ひ谷汲には三十三番の觀世音樣の札所がある、世人未だ記憶に古からぬ彼の濃美大地震の震源地の根尾山脈が一望の內に展開する所一体此邊の地帶は一般底地にして木曾、長良、揖斐の三大河川の氾濫に依つて水害に有名な所である。この金生山は彼の江濃の國境を劃する所謂伊吹山脈の東南麓に蜒々長蛇の如く相連りて遂に蔭々たる濃美の平野に臨む、從つて山頂の眺望は西北は揖斐の上流權現岳、三國山、惠那、御嶽の所謂日本「アルプス」の連峰を遠望にして近くば揖斐長良の淸流や岐阜、名古屋の都邑も皆一望の眼界に迫り來る中々絕景な勝地で



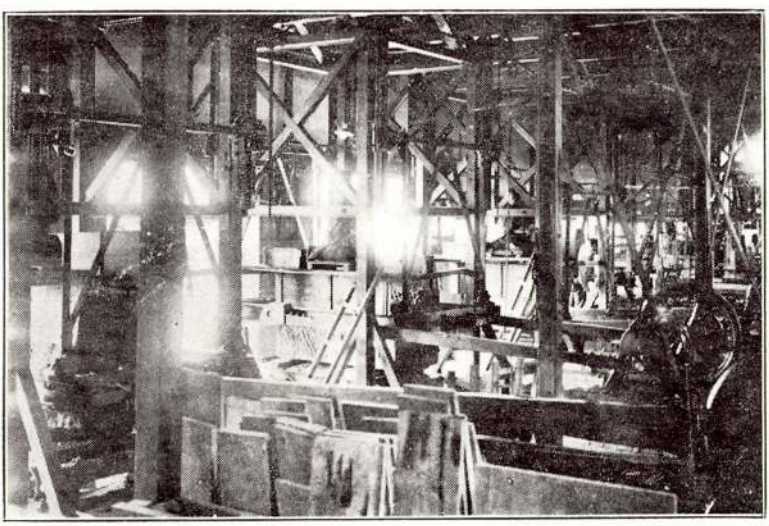
赤阪町及金生山の遠望



遠眼鏡石丁場



矢橋第一工場(磨場)

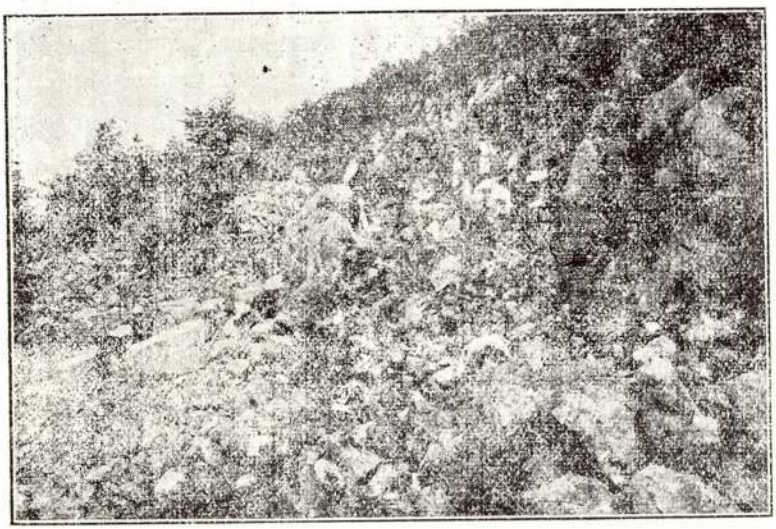


矢橋第二工場(挽割作業)

あるが昨冬の如きは壹時間に三尺の積雪があつたさうであるから嚴寒の季節には降雪の多いのは甚だ困るが之れ等の近く又遠く山岳重疊或は都邑の風景は春夏秋冬を通じて實に眺望絶佳の土地と云ふべきである旅途寸暇を得ば一顧に値するものがあると思ふ。

◆大垣驛から腕車を利用する◆

其昔孝子で有名なる彼の養老瀧より池野間の私設鐵道あり途中大垣驛に下車すれば東海道線に聯絡してゐるが大垣から八分間に東赤坂驛に到達し腕車にて約十分を費せば



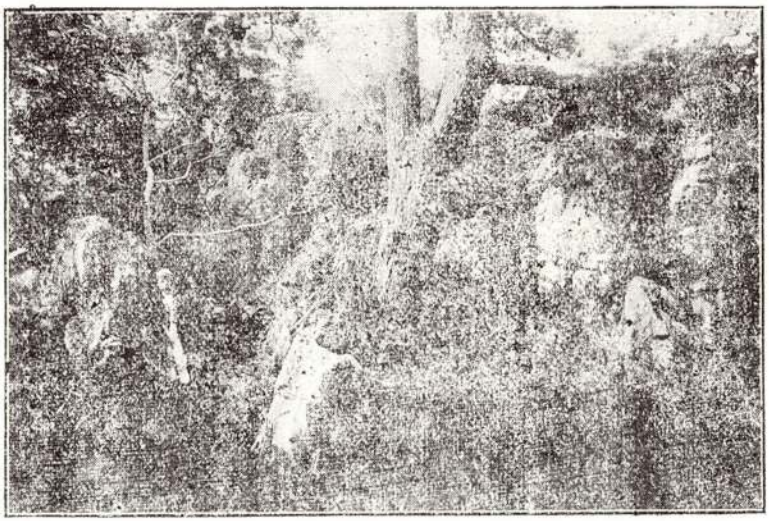
二ッ綠新更紗丁場

赤坂町に達することが出來る若し之れが大垣驛より直に腕車を驅る時は近か道を利用して僅かに三十五分間にて達するのである此幹線は中仙道の街道なるか故に往昔より既に交通繁く人文大いに開けて當時は既に鑛山杯に着眼したとのことである。

のみならず此の山は東照神君と申された家康公が天下分目の關ケ原の戰をする前數日間東軍の陣地として大垣の城に籠つた西軍に對効したことのある要害である當時西軍の主將宇喜多秀家は大垣城下に一戰を期して居つたが老巧な家康公は野戰によつて勝を一據に決

せんものと流言を放つて直路大阪に向ふいふ氣勢を示したので石田小西の諸將がたまり兼ねて關ケ原に急擧防禦の陣を張つたといふことである。山巓から指呼の間に大垣城下を見る旅客は萬感胸に險るゝ筈であると思ふ。

山勢を見るに其面積は百二十餘町歩標高約五百尺にして東西に走り三十五度乃至五十度の傾斜を有してゐる。此山嶺には蛇尾權現社や虛空藏菩薩の御堂がある、某地質學者の御說に依れば金生山は殆ど石灰岩の構成に罹るさうだが其厚層は實に壹千五六百尺あるといふ



（虛空藏山の大破岩頁岩）

上層に露出せるは概ね黑色非結晶狀のもの或は既に結晶質にして有孔蟲のものが尠ないさうであるがこれは殊に附近一体地震地帶であつて太古から再三の地變起り往昔海底にある具類、珊瑚海棲小動物の遺骸等が自然化石となつて地上に露出せしものであるといふことである。

◈石灰岩採掘事業の沿革概要◈

今を去る百有餘年前赤坂町民には此金生山に登り屢々鑛石研究に努力せしものがあつて既に前述せる如く海蟲の化石多數發見せるを以て當時より文具や玩具或は床飾物等の彫刻販賣を專

業と爲すものが多くなり途行く旅人は互に爭ふて購ふたのである之れが爲め「赤坂蠟石」の名は廣く四方に喧傳せらるゝ事となつた、而し之れ等は勿論社會的事業としては何等貢獻する處はなかつたのであるが、其後明治廿六七年の頃一米人キリドール氏とか云へる人渡來して此山麓に居所を構へ原石採堀して自ら米本國に輸出の道を企畫し一工場を設け蒸氣動力を起して盛に奮闘を初めたが交通開けず時運未だ伴はずといふ有樣で遂には事業を拋棄するの止むなきに至つてゐる。此間僅かに二年有半であるが數萬の富を失い空拳を握つて空しく米國に歸還したといふ。其當時から之に着眼したのが土地の富豪矢橋亮吉氏である氏は既に實業界に勇飛して自ら銀行の頭取と成り或は其他諸會社の重役として活動して居られたが資力に潤澤なる同氏は斯る可惜天惠の石灰鑛山を空しく放擲するを慨歎し赤坂町民と謀り率先して明治三十五年の頃小規摸の工場を開設し原料を採堀加工して建築一部の需用に應じ初めたが時代の進運に伴ひ工場の擴張機械の完備職工の養成等に努力して今日の盛運を開いたのである。尙ほ此他に石陽組合なるものがあつて若干の原石販賣を爲し或は前記の文具玩具の小細工彫業者は五十餘軒之れに從事する者二百餘名孰も相當の成績を示し居ると云ふ、又赤坂西南、西北方には石灰岩の水蝕作用のもの其大部分を成し明治維新後は石灰製造の事業を起し逐年其機關を完備し近時は生産額年々六十萬圓に達すと聞いてゐる之れ等は土佐灰に比し稍劣等視するも一見其眞を語らざれば建築家將た現場の老宿と雖も何等の見界なき迄に精錬されて來たのは斯界の爲に一大福音と云ふべきであろう、併し從來粗惡の石灰岩は主として肥料用石灰の原料となし濃、美、遠地方或は中央沿線方面を顧客と爲し良質のものは建築材料として供給せるも近時工業の發展に伴ひ石灰として粗惡のものは却つて各種工業用材として重要せらつゝある。尙ほ其他に「セメント」並に「カーバイト」の原料と爲すものあり之れ又其年產額四百萬貫を下らず其重なる需用者は大垣

楫斐川電化工業會社及び愛知セメント株式會社である猶ほ近時此山麓に原料の彌々豊富なるを觀破し岐阜電氣會社に於ても之れが製工場の建設に忙殺し居れるを見た。

◈建築材料としての大理石には何麼石がある歟◈

金生山を構成する石灰岩は其材質に優劣あるは勿論性質及び色彩等仔細に吟味せば多種多様であつて一驚を吃するものがある、故妻木博士は建築工藝叢書に本坑石材を聊か秩序的に論述せられて居るが今實際に當つて採堀せる原石を見ると多々益々複雑に成つて材名と品質の判斷さへも容易に付け得ない狀態なれども今其主要石材を列記せば左の如くなる。

霞、鼠、紅縞、更紗、遠眼鏡、黑等にして之れ等は孰れも山腹以上の山嶺に多く稀には山腹以下採堀するといふが山麓平原に近き其性質が粗惡であつて概ね前記の「セメント」石灰「カーバイト」の原料に需給するものである。

今其主なる石材の二三に就て概評して見ると

霞石、の丁場は東南月見坂の上層一帶に分布せられ材料頗る豊富なるも其石層に於ては瑕疵多く最大限度五六尺引割仕上げ厚さは石体の大小に依り自然相違するけれど其厚六七分より薄からざる事、そして其色合は概ね灰褐色、銀鼠にして白條の不規則否な自然美ともいふべきものが縦横に交合して山嶺積雪の趣きがある。

鼠石、本石は霞石に比し稍々黑色を帶び粒狀恰も結晶狀を呈し其組織は大体に於て霞石に彷彿としてゐる。

紅縞石

本石材は坑脈並に石層共に系統的の組織なく霞鼠、遠眼鏡石の等石脈下層より偶々發堀するものであつて岩塊の大徑も又三四尺以上のものなく其産額は甚だ尠量なるを遺憾とする。故に此石材を使用するときは、豫め蓄積材を調査の後でなければ設計後に於て或は材料の不足を訴へ工事進渉に支障を生ずるの虞れあるを以て需用者は曩に充分なる注意を拂はなければならない石質は緻密強硬にして光澤あり紅色の班紋は頗

る幽麗にて秋山紅葉の感がある。

更紗石

本石は産地に於て便宜上大約左の三種に區別する即ち本更紗、新更紗、峠更紗とす本更紗石は右三種の內最優良品であるが寡少なるのは遺憾である。從つて需用方面も又玩具其他の小細工物に彫刻販賣するものである。

峠更紗は色彩曇重にして俗に「金喰」と稱する小粒の不純物を多く含有し加工上支障不尠又雜色混同して美麗でない。

新更紗　本石は赤坂大理石中の代表的のものである。其分布の狀態は金生山西北部より西南に跨り山嶺は滿山此石材を以て蔽われ殆ど獨占の感がある、其材質は黑、白、赤、黃等多色相綜錯して複雜なる色彩を以て構成し恰も虎斑の如く感ずるものあり、微少なる操形又は彫刻物は寧ろ錯雜にして勞して功なきを思ふ、一塊の寸法は七八尺乃至十六七尺の大材と雖も採堀頗る容易であろう。品質は諸種の混成石なるが爲め或は硬く軟く一樣ならざるも其光澤は稀に見る艷麗なるものあり、又損傷部に對しては護模、石膏、シケラック等にて彌縫策を構ずるも容易に發見せず頗る重寶のものである、板材としては其大小に依つて厚薄あるが最小限度に於ては五六分の厚さ迄て挽落すも加工並に耐力充分である。

遠眼鏡石

本石の分布は概ね更紗帶の坑脈上層に或は既に地上に露出せるものありて採堀甚だ容易なるも屢雨に曝露し稀には水蝕して細孔を有す、左れど硬度に於ては稀に見る所のものにして黑石に酷似せり、色彩は純黑色に鮮明なる縞或は鼠、白等の條線頗る優美なるものあり、中には其形狀に雅致あるものは偶々庭石として賞讃せらる、石材の大さ並に產出量共鼠或は霞石に彷彿たり。

本石は金生山の嶺に有つて往昔大垣桑名方面の米價標示の旗振場として遠望せし土地より出たる名稱にて原石は概ね前記せる如し。

黑石

本石は山嶺より西南部に亘り石層淺しと雖も分布せる面積廣く頗る潤澤なり材質一樣にして硬く琢磨面は殆ど蠟色漆に勝るものがある、大さは大徑三四尺もの多く偏平なるものは四分前後に迄で加工し得られる、色相は純黑色にして紺色の線條を見る事あり、尙ほ此外海棲小動物の化石類より組織せるものにて其重なるものは花紋、鮫、白黑、桃花石、紅葉石、銀星等二十餘種あるも之れ等の多くは骨董的或は玩具、模造細工等に彫刻を爲し前に述べた樣に各地方へ僅少の發賣をなして居る。

以上記載した石材中大材にて建築用材は概ね矢橋氏の經營に罹るのであるが、他に若干の原石販賣する者は請水、安藤、馬淵等の諸氏がある小細工物は概ね石陽組合に於て支配するものなりと聞いてゐる。

◈採堀方法は如何◈

凡そ石灰岩は花崗岩と全然其生成の狀態を異にし天然の崖層或は其鑛脈が甚だ錯雜であつて大小不同の岩塊より構成せられ、之れが採掘には鑿穴數個を穿ち楔締め矢切して大塊を得るも花崗岩の如く火藥を利用することは殆ど稀なりといふ、即ち坑區の開鑿は地上露出材を除くの外孰れも一般石材採掘事業と異なる處なき爲め茲には省略する。

◈原石の山出及驛出運搬方法◈

搬路の傾斜は緩急交々にして二三十度乃至四五十度位である、緩傾斜には大徑二尺の大鼓胴の一二輪車がある。急なる坂路には橇を使用して赤坂町に搬出するのである。又既成の材料は牛馬車を驅て東赤坂、大垣、垂井等へ運搬し之れより各遠隔の地にも輸送するものがある。

◈加工は如何◈

製造業者は應急に處すべく多數の仕入ものを製作し需用を滿し得るものとすれば施工期間を短縮し價格を低廉ならしむることが出來るが設計者からの注文が千差萬別であるが故に如何せん注文を待つて初めて加工に着手し而かも之れを一氣喝成に遂行する場合には、遂には寸法其他に相違を生じ色相の檢査若しくば模樣替等に因

て來るべき工事進行上の蹉跌より惹て其工事に缺損するは大理石業者の通弊の樣な有樣となつて居る、之れ單價の低廉なる爲ではない、其期限の遲延と共に技術家の反省を要すべき点と謂はなければならない。

◆赤坂大理石の代表的工場は◆

矢橋氏の獨立經營を措て他に求むるを得ない今同氏の工場を參觀して其狀勢を窺るに工場敷地の面積は約二千坪にて工場用建物は大約八百坪からある、日々加工に從事する職工は大小人を合せ一百餘人電氣動力は二十馬力を要し一日平均の出來高は約二百平方尺既成在庫品は平素約一萬四五千平方尺を蓄積する模樣である、更に內容に入り其生產能率並に工作方法を順次に摘錄して見ると前に述べた樣に石塊即ち原石を動力的自動裝置の振鋸（鋼鐵バー巾一吋半厚さ五厘の帶鐵約三十枚を一臺に組合せしもの）四臺を裝置し平均三臺は間斷なく運轉し一回の能力約六寸（三十枚もの）尙ほ他に新式なる英國製鋸の到來せるを見る、更に小端切十八臺及び磨擦機（ポリッシングマシン）の圓盤は直徑五尺乃至八尺もの十二臺を備へ夫れに粗密の金剛砂を以て平滑にし更に「ライフングベッド」に依り正確に仕上ぐるものである、其大さ直徑五尺乃至八尺にしてその四臺の裝置を有す。「艶出し」には普通砥磨を以てするが注文の程度に依つては靑濱、對馬砥を主とし朴炭を以て仕上げるさうである、更に最良の仕上には米國より輸入せしものにて品名は秘して語らないが淡黃色磨粉の細粉に稀酸を羅紗製彫に濕し石の表面を琢擦し徐ろに光澤を出すものがある、今前記の淡黃細粉を混入せしものと稀酸のみを以て琢磨せし材石とは數日間曝露するに前者には何等の變化を見ない處から押して正に米國式「ポリス」材は琢擦材として優秀なる事を首肯せしめる。

繰形もの及び彫刻材には機械動力に依ることが出來ないから自然職工等の一々手工に俟つの外なく從つて價格又低廉でないが圓柱並に圓形手摺子類は旋盤に依り長さ七八尺直徑三尺位迄では容易に加工し得るさうである。

之れは聊か餘談に亘るも參考に迄で一言して見る。本石材据付に際し破損其他の損傷部には未だ適當なる接合劑を見出だされないが專業者は種々苦心の結果漸く左の調劑に依り彌縫策を講ずる樣になつた、「シクラック」の火溶せるものを以て接合し缺損部には護謨及び石膏の調合物に施工すべき大理石に酷似せる顏料を加へて熱し之れを塗喰するを見る。更に粗惡なるは硫黄に或る顏料を加へ、鎔付け、甚しきは「イボタ」蠟に石膏、セメント其他雜種の混合品を使用するも之れ等は孰れも剝脫し或は溶解して自然脫離するは云ふ迄でもなき事である。

◈加工を原産地に置くの可否◈

原産地は概ね寒邑の僻地であつて加工場、敷地料勞働者の賃金並に食料品の價格等は都會に比し遙に低廉であるけれども近時施工期間著しく短縮急施を要する需用家に安心を與へ材質、加工寸法上に錯雜せる注文を山間或は僻地等圖面信書等で交涉を爲すに於て果して需用者に滿足を得せしめ或は技術家に安心を與へ得るやは什うしても疑問であると思ふ。又事毎に需用家の許に一々請負責任者の相往來を爲すは之れ又經濟と時日に於て相容れざるものがある。更に原石輸送に對しては加工品に比し不用石材の運賃を支拂はなければならぬがこれは鐵道輸送の所謂一級品として取扱を受けるし、既成品には所要の材積のみにて無駄物なしとするも二級品の賃率並に積卸、運搬の取扱中破壞毀損するもの等を綜算する時は相伯仲するであらう。寧ろ之れが工場の設置は需用多き都市の場末に置くを需給の關係上むしろ至便なるものがあらう然れども此觀察が現在の狀態を標準とせしものであつて今一步進展せんか事歐米に學び「スットック」物を適宜に概當するの時期到來するなれば山間僻地の物價低廉なる土地に於て需給の調節を量り得ること有利なるは言を俟たない。

◈赤阪大理石の將來◈

金生山の地勢並に坑脈の狀態を想察するに尙ほ將來に有望なる理由と見るべき二三の特徵を擧ぐれば

第一、石材の種類夥多なる事
第二、原石の豊富なる事
第三、山嶺低くして且つ採掘並に搬出に便なる事
第四、主要なる需用地（大都市）への距離比較的近く近時東海道本線大垣驛より赤坂山麓に至る引込線の開設あるとの事將して然らば運輸は更に至便なる事
第五、石灰、セメント、カーバイトの原料搬出の至便なるに從ひ價格低廉となり惹ては事業更に勃興する事

以上の關係より赤坂金生山の石灰岩採掘事業の將來益々有望なるを想はしむる樣である。

如上記載して見た樣に粗薄不徹底の調査を以て貴重の紙面數葉を瀆ふたのは實に厚顏無智の罵を受けることであらう左れど偶々該地方に巡覽の記念として途上卓夫に、農夫に、行脚者に、石灰及び大理石製作工場に、彫刻小賣業者に或は原石販賣業者等各種階級の人士に就て見聞し其記錄を紹介し併せて感想の一端を開陳して見たのであるが讀者之れを諒とせられたい。

▽弔古戰場ノ文△

三代の榮耀、一睡の中にして、大門の跡は、一重こなたにあり。秀衡が郎跡は、田野になりて、金鷄山のみ形を殘す。先高舘にのぼれば、北上川は南部より流るゝ大河なり。衣川は泉が城をめぐりて、高舘の下にて大河に落入る。康衡等が舊跡は、衣が關を隔て、南部口をさしかため、ゐぴすを防ぐと見ゐたり。扨も義臣すぐつて此城に籠り、功名一時の叢となる。國破れては山河あり。城春にして草青みたりと、笠打鋪て時移るまで涙を落し侍りぬ。

夏草や兵どもが夢のあと

佛寺建築の將來（續）

會員　波江悌夫

（三）佛寺建築の現狀（上）

明治維新の大業は封建制度を打破して郡縣政治の建設にあつた、武門政治の弊に堪へないで復古王政の大義を復興するにあつた。勤王の志士の熱血は局面の展開に無中になつて對幕のために尊王攘夷の旗色を飜した傾向があつたにせよ、德川時代に勃々頭を擡げ來た尚古敬神の思想が其源をなしてゐる。亂麻の様な戰國のあの混沌の時代に唯一の警鐘を鳴らして古神道の廢れたるを興し、伊勢大廟の改造期を定め尊皇忠誠に盡したる織田信長が衷心の志は隱然人心の機微に浸透して、後世山鹿素行や荷田春滿、加茂眞淵等の思想に培われ、次いで本居宣長や賴山陽等の學者は豫言者としての犧牲に忠實な大事業を遺してゐる。そして彼等の蓄積し來た復古敬神の思想は活劇を演すべき天下の志士の頭に流れ込み、時潮の大勢は一大革命を成就した。此の新時代の變轉期に武門の愛顧を受け、又は衆民の信仰を鑛き得たりし佛敎は過去の罪償に依つて過去と心中をしなければならなかつた殊に明治初年の政府は大英斷を以て神佛混淆の弊を打破するに努力した結果、明瞭に治政者から引導を渡されてしまつた様なものであつた、神道と分離を餘儀なくせられ時の政府から見離された佛敎は既に衰運の第一步を踏み出したのであつた、宗敎に束縛を與へず、信仰の自由を

許可された處が新時代の有力者から特別な愛顧を受けないのみならず、多くの勤王思想家に何等の共鳴を與へなかつた佛教は當然の報酬を事後に受けたのであつた。生死の巷に出入して、血汐の洗禮に養はれ、勤王の熱血を湧かした多くの志士が敬神的復古思潮の大勢に乘ずるや、多くは現世の巷に切實の修業を積んで五尺の小軀時に塵よりも輕く時に泰山より重く君の馬前に屍を曝さんことを望んで、來世を希ふを要せず、玉と碎けて瓦全を潔しとしなかつた生死一如の現實世界に突入しては生きたる修業をやつた樣なもので、多くの浪人の心神の膽錬には禪的佛教の恩教かないでもなかつたろうが、寧ろ復古敬神の思潮と融合し得べき仁義忠孝の孔孟の教典かあづかつて力あつた樣である。

徳川時代に佛教が相當の保護を受け信頼を繋いで居たには相違ないが、治世三百年の太平の夢は、兎角現世の享樂に耽つて、後世を希ふは老人か、さもならば愚夫愚婦の勤業とせられた位で、所謂智識階級の人士は支那文學の研究に才を闘はし想を錬り膽を養ひ智徳の完璧を期する有樣であつた從つて忠君愛國の思潮は此等智識階級を風靡するに至つた。であるから革命の犠牲者が從容として斷首臺上の露と消ゆる有樣は丁度異教の迫害に遇つて犠牲の鬼となつた信仰家より以上の立派な最後を遂げて居る。

斯くの如き世の馴練に養はれた當時の志士が明治政府の中堅をなすに至つては佛教は見慘な境遇に陷つたのは止むを得なかつたのである、建武中興の大義に振ひ立つた當時の勤王家と佛教との關係は頗る濃厚であつて大に興味ある問題であるが、明治維新後の思想界は忠君愛國の大濤の澎湃するものがあり、尚古敬神の思想の氾濫する處に、佛教は顧みられる餘裕がなかつたのである。

殊に佛教界にとりての大打撃は泰西の物質文明襲來の影響を痛切に蒙つたのである。佛教が我邦に輸入せられた當時は燦然たる隋唐の文明に伴つて渡來したのであつたが、千五百年後の佛教は新來の物質文明に非常なる迫害を蒙つて

しまつた。上古社會の上下に新智識としての實勢力を振つて居つた佛敎徒は明治の新時代には社會的存立の根底を失はれしまつたのである。勤王の志士が僧房の裡から現はれ或は僧堂を鹿が谷草庵としたにせよ革命の先鋒として佛敎徒の働いた部分は僅少であつたのみならず新時代を指導するの名僧善智識なく、徒らに新文明を嫌忌して排外の陣を張つた結果は美事に時勢に負いて何等の建設何等の貢獻を明治時代に殘すことが出來なかつた樣である。尊皇攘夷の志士が開國論に豹變した樣なスバラシイ行動が出來なかつた。



燒失を免れた芝增上寺山門

佛敎が今日の衰退潮落は要するに新時代の人心と緣絶の形となつた爲である、新しい時代に新しい局面を轉開するの禪機も現はれなかつた爲である、徒らに時世の奔浪に弄ばされて自家の舊骸に眠つてしまつた爲である、乍然多年我國の思想界を指導し社會の上級にあつて社會的使命を分擔して居つた佛敎が一朝一夕に滅亡するの悲運には到達すべき筈はなかつた、のみならず新來文明の快潮に乘つて渡來した基督敎の敵として厭惡の盾を持し嫌忌の戈を執つて保守主義者の先鋒となり、新來宗敎の蔓延を防止するには可なりの努力を遂げて居る、したが此の間違つた努力は却つて佛敎のためには不運の結果を齎したのである、現世を無視する樣な宗敎來世の天堂の福音を說く新敎とは形こそ異なれ、心靈の問題、思想界の大道としては目的は同じ方面に向つて居るのである、いはゞ同士打である。殊に忠君愛國の思想、尙古敬神の信仰から見れば、出世間的宗敎の使命は味方同士であつて佛敎と新來敎とは寧ろ手を携へて進むべき

であつた。處が多年の因習二千年の歴史は凡てを盲目にしてあらぬ詭辯、不可思議な曲論を敢てして佛敎徒は自繩自縛の不運に陷つた。

斯くの如く新時代の社會に立つて斯くの如き狀況の下に斯くの如き態度に出でた佛敎界の運命は到底新時代の敗者たるより外はなかつた、佛寺建築の現狀が見るも氣の毒な衰運に遭遇して居るのは、誠に御氣の毒であつて同時に致し方もない次第である。

(四) 佛寺建築の現狀 (下)

之を外にしては社會の爲政者から見離され、之を內にしては新時代に順應すべき轉機を執へることが出來なかつた佛敎が、事實に於て實社會との交涉が疎隔して行くのは當然である、天保の老人が天保錢の樣に待遇された時代に僧侶は唯これ葬祭をこれ事とする役目に沈臨してしまつたのは不思議はない。佛敎の使命からいへば現世の活社會に出入して人心の機微に觸れ、心靈の問題を眞向に振りかざして、世道人心の爲めに大に盡さねばならぬ責任があるが、社會的變革のために物質的の後援を失つた彼等は他を挙いるよりは自家存立の根底が動搖して來たことに戰慄を禁し得なかつたのである。

士農工商の階級が劃然として存立して居つた舊幕時代には僧侶は其社會的使命に於ても相當の任務に從事して居た。蓋し彼等は寺領の下附壇越信者の寄進附施等の物質的後援に事を缺がなかつたのみならず、雲水に身を漂して托鉢行脚に都市町村を巡遊して些の迫害もなく悠々念佛勤行を遂げて何等の不安なき位置に立つて愚夫愚婦を濟度し說敎することが唯一の務であり樂であり又頗る容易であつた。多くの信者は喜んで彼等の後援となり樂んで彼等の說敎を聞くに集まつた、殆んど今日の學生が學者の講演會に參集し、赤十字社總會や園遊會に滿都の子女が盛裝して出掛けるに似て居る、現に今尙舊來の信仰を持續して居る眞宗や日蓮宗の所謂團參が如何に群集して鐵道院を狼狽させつゝあるかを見るならば思半ばに過ぎるものである。兩本願寺の會式に際しては信者の寄進賽錢は山と積

まれて彼等の社會的努力に對する物質的報酬となりつゝあるのである。

社會的變革の下に尚舊來の惰力を持續して更に物質的要求に不安を感ぜざる一部の敎徒は幸である、彼等は進んで說敎もし濟度も爲ることを躊躇しない、去りながら今日の惰力は何時迄も同じ樣に經續するものと判斷したならば大なる間違である、所謂園參の連中には明治時代に養はれた新しい人間は皆無といふて差支はない從つて園參の內容は慶應以前に生れた老人連から成り立つて居る、泰西文明の快潮に棹さす處の多くの明治の若い靑年の信仰は復興期の思潮に觸れて現世の享樂に黃金の禮拜に、將た又物質文明の恩惠に浴しつゝあるのである。

之を要するに明治時代の佛敎は我國民思想の一隅に敗殘の形骸を守つて居るに過ぎない狀態であつた、そして其僞りならざる事實は佛寺建築の現狀を觀れば自から明瞭である。

佛寺建築の中で明治時代に建てられ、明治時代の建築として史上に殘し得るものがあるであらうか。四十五年間の實社會の產物として佛寺建築の代表的作品があるであらうか。

大にしては國庫の補助を受け國民の淨財寄進で前後十餘年の歲月を費して出來上つた奈良の大佛殿は唯一のものであるかもしれない、しかしこれは單に修繕に過ぎないのである、風雨多年甍破れ軒傾き大たる佛殿を倒壞せざる間に修復を加へたに過ぎない、それのみならず明治時代の思想界や實社會とは何等の生きた連鎖はないのである。古物保存、國寶保護の名の下に數十年の生命をつないだに過ぎないのである。從つて二千年の昔を偲ぶ鴟尾が棟の上に安置せられ



修繕後の奈良大佛殿

波とうねつて居た軒が平安時代の曲線を畫く樣になつても明治時代の建築としては後世に語ることは出來ないのである。唯夫れ舊骸を繕ふたに過ぎないのである。夫れであるから鐵材を木柱の骨とし料拱の間に持送用の鐵材が隱見して居るからといふて建築的價値を云々するの必要はないのである。

鶴見の海岸に近く曹洞宗の本山が北陸の山の間から移轉されたのは明治時代の出來事である如何なる理由から如何なる道起から此の破天荒の壯擧か斷行されたであつたであろうか。これは彼の奈良の大佛殿とは同日に語ることが出來ない事は明かである。何となれば其境內を劃し堂宇を建立し、法堂、僧坊、鐘樓等の新築に民衆の淨財を集め。信者の寄附によつて、一宗門の實力を現實に示し得たからである。殊にその鐘樓や梵鐘はハイカラの懸賞募集によつて案を求めた如きは社會的に何等かの意義を語つて居る樣である。乍然唯夫れ移轉改築に過ぎないのである。建てられた堂宇は舊來の慣習と舊來の宗儀を執行するの出張所として、明治時代の帝都附近に其姿を現はしたに過ぎないのである、新時代の活社會と連關生動する實力があるなら百年の將來を慮つて新時代に順應すべき建築を經營し建設すべきであると思ふ。

若し建築的手法藝術的手腕の如何にも痛快に現はれた明治時代の作品の第一を求むるなればそれは西本願寺の勅使門であろう、從來の手法形式を超越して新しき意義を加へた作品としては關野博士も歎稱を禁し得なかつた。乍然此勅使門は西本願寺が現社會に連關する使命を俱象するものとは一寸申し候にくい。過去に建てねばならぬものを現在の人に建てさせたと觀ることが出來る、いはゞ床の間置物である、どうしても四方に塀を張つて保護を加へて行かねばならぬ建築である、やはり過去の形骸を新しい錦で掩ふたといふに過ぎない樣に思ふ。

明治時代の作物として擧げて見るべき建築の甚だ少ないのを悲しむ。萬を越ゆる現在の佛寺建築の狀況は唯夫れ內務省の社寺局で特別の保護

を加へなければ逐次世の荒浪に攫はれて行く厄介物である、多くの特別保護建築物は大低都會と離れてゐるが、それでも朝に一宇を焼かれ夕に一堂を倒壊して遂には悉く滅亡して行かねばならぬ代物である。徳川時代に建てられた多くの寺院は今日最も頽破して行きつゝある。若し佛教の現世に於ける社會的地位が斯くの如き建築と同樣な運命に在るものとすれば須らく大に工夫を要すべきではないか。

一度增上寺の本堂が一小僧の放火によつて烏有となつてしまつて以來天下の淨財を集めて再建の夢を見て居るが、さて中々金が集まらない當事者は新建築の經營については大に苦心考慮すべきの時である。徒らに前車の徹を踏んで舊骸を守るべき時ではない樣に思ふ。不聞なる余は祝融氏の手帳に書き付けられる寺院徒らに多くして實社會に新設せらるべき佛寺が誠に寥々たるは甚だ遺憾に堪へないと同時に將來に何等かの畫策を講じつゝある佛教徒が手を束ねて刻下の現狀を成行に任せてあることを誠に遺憾に思ふ。

◆廢　寺◆　　白季元

溪沙橫漲水痕平　閑叩雲關壁半傾
殿上土花人不到　斷塘支睡聽蟬鳴



建築業協會の消息

我國の有力なる建築請負業者は明治四十四年の交に於て建築業協會なる團体を組織し、翌年五月第一回總會を東京に開き、爾來建築業者に發生する各種の問題を講究し、重要事項を審議し、且つ相互の親睦を計り、意見を交換し、相互利益の增進に力めつゝあり。今日迄に既に拾有二回の總會を經て益々有力なる效果を擧げつゝあり。されど建築業者の小數なる有志者の團体なるが爲めに社會的に其動靜は發表せられず、從つて建築業者の大部も亦此會の存在を知らざる程にて多くの建築家も初耳の士點なからざるなり。今同協會設立趣旨を揭げて其抱負を知らんとす。

建築業協會設立趣旨

目下我建築界ニ於テハ既ニ建築學會アリテ學理技術ノ研究切磋ノ機關稍々遺憾ナキヲ得ルト雖モ、學術以外ニ事業上ニ關シ改良進歩ヲ催進スル同業相互ヲ聯絡スベキ完全ナル機關ヲ有セズ。茲ニ吾人同志相圖リテ本協會ヲ組織シ、先ツ現今我邦ニ於ケル當業者中信用厚クシテ根底鞏固ナルモノヲ以テ會員トシ、互ニ親睦ヲ篤ウシ、德義ヲ重ンジ、弊風ヲ除キ斯業發展ノ途ヲ求メント欲ス。

今日建築事業上ニ關シ改良ヲ要スルコト頗ル多シ、當業者互ニ相戒メ、其態度ヲ愼重スベキハ勿論或ハ職工就業者ヲ養成シ、慰安ノ法ヲ講ジ、或ハ工錢ヲ協定シ、又ハ事業上ニ起リタル紛爭ヲ和解シ、及斯業ニ關スル法制ヲ考究シ、特ニ斯業ノ發展ヲ阻害スルノ恐アル偏重ナル稅法、片務的ナル諸請負契約ヲ是正スル等ハ正ニ本協會ガ進ンデ其折衝ニ當ラントスル所ナリ。

本協會ハ其會員ヲ制限シ未ダ一般同業者ヲ網羅スルヲ得ズト雖モ、吾人ノ意素ト斯業ノ改良進歩ヲ期圖スルニ在リ、故ニ他日時機ノ到ルアラバ本協會自ラ中樞トナリ、以テ汎ク一般同業者ヲ糾合シ更ニ大ニ斯業ノ爲メニ盡サントス。

是實に明治四十四年九月十五日付の宣言にして當時會員として參加せる請負業者は左の十九名とす。

猪橋幸吉　石井權藏　稻住兼吉
橋本料左衛門　長谷川金太郎　原林之助

戸田利兵衛　富樫文次　大倉粂馬
大林芳五郎　川尻五平　横河民輔
松村雄吉　安藤德之助　佐藤勇七
木村音右衛門　宮崎善吉　島田藤吉
錢高善造

尙當時の役員氏名を擧ぐれば

理事長評議委員　横河民輔
常務理事同　原林之助
理事　同　大倉粂馬
同　大林芳五郎
同　安藤德之助
同　佐藤勇七
評議委員　稻住兼吉
同　橋本料左衛門
同　富樫文次
同　宮崎善吉

創立當時に於ける故原林之助氏の熱心なる努力斡旋は會員の等しく忘る能はざる處なる由。次いで大林芳五郎氏を失ひ協會の事業頗る寂寥たるものあり、財來會員の廢業、死亡等によつて減少を來せしが、又新進氣鋭の竹中氏等入會して絶えず諸般問題の講究を持續し毎年二回の總會を春秋二季に開催して目的を貫徹するに力めつゝありき。

最近に於ては斯界の要務多端にして建築業者にとりては益相互利益の增進と協同策應の實を擧ぐるの急要を認め、同協會の內容を充實して內は益同業者の親睦向上を計り、外は愈社會に向つて有益なる貢獻をなさんとするの機運到來せるもの、如く本年春季總會を大津市に開くや、刻下の事務に接觸すべき重要なる諸問題の討議せられし由なれば左に其大概を擧げて紹介する處あらんとす。

建築業協會第十三回定期總會

大正七年四月二十二日　大津市ニテ開催、木村、鴻池兩氏ノ斡旋ニテ太湖汽船ヲ借受ケ、午後四時八景ノ勝ヲ眺メツヽ會議ヲ開ク、橫河氏議長トナリ一場ノ挨拶ヲナセリ、當日ノ出席員ハ左ノ如シ。

石井權藏　戸田利兵衛
小林辰三郎　大倉組　德見常雄　大倉組
橫河民輔　伊藤卯三郎　安藤組
安藤德之助　安藤組　島田藤吉
德政金吾　清水組　鍋田鍵二郎　清水組
清水釘吉　清水組　高石覺本　橋本組
橋本料左衛門　橋本組　小倉保二　大林組
大林賢四郎　大林組　白杉龜造　大林組
八木伊三郎　松村組　田中讓　松村組
大黑福松　木村組　木村篤二　木村組
木村音右衛門　木村組　錢高久吉　錢高組
錢高善造　錢高組　竹中藤右衛門
吉田虎三　鴻池組　保科圭三郎　鴻池組
仁科員一　鴻池組　栗山宗淳

會務報告抄錄

一、昨秋總會ノ際評議員戸田氏ノ提案ニ係ル「風水害ニ因ル損害破壞ヲ蒙レル工事ノ負增額割合標準ニ就テ」審議ノ結果多年ノ宿題ニ屬シ遽カニ解決スルノ不可能ナル理由ニヨリ專門家ノ調査鑑識ニ俟ツコトヽセリ

一、右ニ關スル諮問事項ニ付キ判例其他ノ參考書ヲ檢シ、更ニ會員ノ抱懷セル意見ヲ加ヘ、之ヲ綜合シテ左ノ如キ十項ヲ得タリ

第一、土木建築請負契約ノ目的物ガ當事者ノ責メニ歸スベカラザル事由ニ因リテ滅失毀損セラレタリ、此場合ニ於ケル滅失毀損ノ負擔者ハ何人ナル乎

第二、右ノ事由トハ普通商人間ニ天災ト通稱スベキ程度ノモノニ非ズシテ大災害ノ場合、例ヘバ山崩、地裂、未曾有ノ大火、洪水、落雷、暴雨、颶風、海嘯、地震、暴動、革命戰亂ノ如キ數十年間中稀レニ見ル大不可抗力ノ場合ヲ指ス

第三、契約工事ノ進行中目的物完成以前ニ右ノ事由發生シタルトキノ負擔者

第四、目的物ガ全部完成後其引渡以前ニ右ノ事由發生シタルトキノ負擔者

第五、右ノ引渡問題ニ付注文者（又ハ其有權限者）ノ都合ニテ期日ヲ延期シ又ハ請負人トノ間ニ通知其他ノ事情ニ基キ双方ニ行違ヒ生ジ居ル期間中ニ右ノ事由發生シタリ、此場合ハ負擔者ニ變動ヲ來スヤ

第六、右第三ノ場合、殊ニ第四ノ場合ハ本問題ノ目的物ハ民法第五百三十四條ニ所謂「特定物」ト稱シ得ルニ非ラザル乎

第七、危險負擔ニ關スル法律ノ規定ハ命令的公益的ノ規定ナルヤ、又當事者ノ自由任意ノ特約ヲ許スヤ否ヤ

第八、一般ニ天災ニ因ル損害ニ付日本ニ於テハ古來ヨリ注文者ハ其損害ノ一部ヲ負擔スルノ商慣習アリ此場合ハ以上ノ法律上如何ナル影響ヲ來スヤ

第九、前示第二ノ事實發生ノ場合ニ於テハ請負契約ハ法律上尙ホ有效ニ存續スルヤ換言スレバ斯ル場合ハ所謂客觀的履行不能ニ因リテ該契約ハ自ラ解滅ニ歸スルモノニ非ラザル乎

第十、通常生ズベキ普通ノ天災ニ付テハ函館控訴院ハ注文者ノ負擔ニ歸スト判決シ大審院ハ請負人主義ヲ採ルモノヽ如シ（明治三十五年（オ）第四百六十五號、明治三十五年十二月十八日第一民事部判決）尤モ該大審院判決ハ請負人ガ口頭辨論期日ニ缺席セル爲メ裁判所ハ相手方ノ陳述セル訴訟事實ノ全部ヲ基礎トシ是レニ因リテ爲シタル差戻判決ナリ因テ大審院ハ更ニ辨論及ビ裁決ヲ爲サシムル爲メ該事件ヲ函館控訴院ヘ差戻セリ

一、前記十項ニ關スル調査ヲ開始セントス欲シ、民間一流ノ專門家ニ諮リタルニ、多額ノ經費ヲ要スルタメ都合上中止セザルヲ得ザルガ故ニ各大學教授ノ研究的調査ニ依賴スルコトニ決シ、目下審議中ニ屬ス

一、一昨年着手セル土木建築業ニ關スル民、商事判例ハ近日出版スルヲ得ベシ

一、近時個人經營ヨリ法人經營ニ組織變更ノ手續ヲナシタルモノ多シ。左ノ如シ

株式會社大倉組土木部
株式會社安藤組
株式會社木村組

一、三月二十九日午後六時ヨリ東京ニ於テ役員會招集、左ノ諸氏參集總會其他ノ件ニ付協議セリ

松田氏（大倉組）　腰原氏（橋本組）　植村氏（大林組）
戸田氏　安藤氏　清水氏　横河氏

一、昨年度春季總會ニテ業務一般公休日ヲ毎月一日及十五日ト一定シタル決議ハ各方面ニ之ヲ通告シ置キタルニ大阪土木建築組合其他ヨリ賛同ノ旨通知アリタリ

議事抄録

一、役員改選ノ件ハ從來ノ慣例ニヨリ大倉粂馬氏ノ指名ニ一任シタリ

一、豫テ安藤理事ヲ經テ入會ヲ勸誘セル安藤龍吉氏ハ今回承諾サレタルヲ以テ今回戸田氏紹介ノ任ニ當リ滿場異議ナク可決ス

一、見積ニ關スル有料制度ノ件並ニ保證金徵收ノ件ハ一括シテ竹中氏發案ノ趣旨ヲ述ベ從來ノ慣習ハ一種ノ惡弊ヲ順致セリトナシ、之レガ革正ナスヲ急務トシ、全會一致協力シテ之レガ貫徹ニ力ムベキヲ述ベタルガ橫河氏德見氏清水氏白杉氏小倉氏等交々意見ヲ發表シ或ハ之レガ實例ヲ擧ゲ或ハ歐米諸國ノ現狀ニ鑑ミ更ニ吾國刻下ノ狀況ニ照シ、之レガ調査方法ニツキ島田氏木村氏白杉氏等ノ注ラ意アリ、結局調査委員ヲ設ケテ審重協議ヲ重ヌルコトトシ東京方面ヨリ參名關西方面ヨリ參名之レニ理事長ヲ加ヘテ七名ノ委員ニ附托スルコト並ビニ委員ハ理事長ノ指名ニ委スルコトニ可決セリ

一、橋本氏ハ本會ノ動靜ヲ社會ニ紹エズ發表スルノ必要ヲ說キ竹中氏之レニ賛シテ機關雜誌ノ發刊ヲ具策トナシタルガ結局之モ委員附托トナレリ

一、會員ノ增加ヲ計ルノ件ニ就テハ竹中氏、清水氏、橋本氏、橫河氏等ノ意見アリタルガ結局入會金ノ範圍、額面現狀維持トシ、各員ハ可成加入幹施スルコトニ決シタリ

尙當夜席上ニ於テ大倉組事務德見氏ハ土木建築用諸機械製造販賣、修理、交換、拂下、貸貸、賃借等ヲ營業トスル株式團体創立計畫ニ就イテ有益ナル話ヲナシ一同大ニ興味ヲ以テ之ヲ聽キ、島田氏ハ土木用建築用ノ材料品運搬問題ト自働車使用ニ付イテ自家經驗上ノ意見ヲ發表シ、竹中氏ハ關西方面ノ有志ニ於テ本年一月以來五日會ナルモノヲ組織シ、每月五日ノ日ニ相會合シ、斯業ノ向上發展ニ關シ智識ヲ交換シ頗ル有効ニ利用シツヽアル旨ヲ述ベ、東京方面ニテモ此種ノ會合ヲ開カレンコトヲ希望シタリ

（以上）

現在役員氏名左ノ如シ

理事長評議委員　橫河民輔　同　同　白杉龜造
常務理事同　清水釘吉　評議委員　戸田利兵衛
理事　同　橋本料左衛門　同　竹中藤右衛門
同　同　大倉粂馬　同　木村音右衛門
同　同　安藤德之助　同　錢高善造

現在會員氏名左ノ如シ

猪橋幸吉、大林組、錢高善造、石井櫟藏、橫河民輔、上遠喜三郎、橋本料左衛門商店、松村組、鴻池組、長谷川金太郎、安藤德之助、安藤熊吉、清水組、佐藤勇七、竹中工務店、戸田利兵衛、木村音右衛門、富樫文次、宮崎幸吉、大倉土木組、島田藤吉、

會報



會誌

一、本會雜誌第一輯第七號は五月下旬刊行し、各府縣知名有力者、各種學會協會及各新聞社並びに建築に關係ある各學校に寄贈配布し置きたり

一、本會雜誌は從來毎月十五日發刊の豫定なるも種々都合ありて漸く下旬に刊行する有樣なりしは編輯部の大に遺憾とする所なりしが來月號より廿五日發刊に訂正することゝなしたり

理事選補

一、武田五一氏は今回名古屋高等工業學校長に榮轉せられたる結果、本會理事を辭任せられしにより理事會に於て協議承諾することにせり

一、武田理事後任は第拾貳回例會に於て會員瀨戸文吾氏選補せられたり

新入會員

一、左の諸氏は第拾二回例會に於て會員として入會の承諾を得たり

松本仁重郎　大野直平
杠（ユズリハ）貞雄　熊澤榮太郎
鈴木甫　池村元助
小寺彌一　中靜重
小川安太郎　村松啓太郎
中村新治　荒木賢治
計　拾二名

一、左の諸氏は今回普通賛助員たらんことを申込まれたるにより理事會の決議により入會を承諾せり。

湯淺乙吉　井上新太郎
矢田部起四郎　石田敏樹
茂木清太郎　中村義雄
高橋米三郎　谷田寛
占部定一　中山源治
計　十名

會員移動

一、田中大作君は四月中宗建築事務所を辭し文部省技師に榮轉せられたり

會員死亡

一、西村慥爾君は五月下旬高知市にて逝去の報あり、愛悼の至りに堪へず本會より弔電を發送したり。

寄贈圖書雜誌及新聞紙

建築雜誌五月號（建築學會）
建築世界五月號（建築世界社）
內外建築五月號（內外建築土木時報社）
土木時報五月號（內外建築土木時報社）

住宅　五月號（住宅改良會）
通俗衛生五月號（大阪府衛生會）
北國新聞（北國新聞社）
木材新聞（木材新聞社）
鹿兒島大林區管下地圖（鹿兒島大林區署）

會合

特別理事會

日時　大正七年五月四日　午後六時—十時
會場　大阪倶樂部
出席　片岡、日高、波江、松本、野村

記事

一、左の諸項につき意見を交換せり
一、武田理事より辭任の申出ありたるより承諾すること
一、武田理事後任として瀨戸文吾氏を推選すること
一、市の要求にかゝる建築法規案調査は第一乙部委員會に於て講究すること
一、例會の講演會を開放して賛助員に傍聽せしむることにつき例會の決議に附すること
一、第六部委員會をして秋季大會の準備を開始せしむること

第拾貳回例會

日時　大正七年五月十七日午後六時—十時
會場　中央電氣倶樂部
出席者計　三十六名
大林、小林、佐藤(彰)、葛野、木子、日高、原田、牛村、中村、野呂、置鹽、井上、内藤(太)、設樂、光安、山本鑑、今林、淺井、本野、小笠原、河合(清)、山本(倉)、池田(實)、浦邊、三木、森山、宮嗣、荒川、谷本、伊藤、須川、波江、吉木、吉井、石田、
書記　岡部、小谷、

記事

一、片岡理事長上東中に付池田理事座長となり七時晩餐會を開く、七時半協議會に移る
一、武田理事後任選補をなすにつき理事會は候補者一名を擧げんとしたるも異議あり、依つて左の三氏を擧げたり
瀨戸　文吾
山本　鑑之進
舟橋　喜一
一、無記名投票の決果左の如し
瀨戸　二〇票
山本　四票
舟橋　七票
大林　五票
一、新入會員拾二名の詮衡につき二三意見の交換ありしが決局全部の承諾をなせり
松本　仁重郎　大野　直平
杠　貞雄　鈴木　甫
熊澤　榮太郎　池村　元助
小寺　彌一　中　靜重
小川　安太郎　中村　新治
松村　啓太郎　荒木　賢治
一、會務報告として雜誌部の決議を主記より報告ありたり
一、秋季大會準備に關しては第六部委員會に委託するに決したり
一、例會の講演會に賛助員の出席を是認するの件につきては主記より一應の説明ありたれ共都合ありて徹回せり
一、八時談話會を開き左の諸氏の談話ありたり
日本の都市　日高　胖
建築學會大會について　波江　悌夫
同所感　葛野壯一郎
一、尚當夜木子氏より就職者のために便宜を與へんことを希望し本會事務所に就職簿を備ふることに決せり

（以下次號）

◆編輯だより◆

□ 霖雨蕭々之候、諸彦愈御精養奉祈候、本協會雜誌の連月主張する處は、都市問題の肯綮に當り、世論の高調に伴つて本誌の任務は益倍加せられ候

□ 從つて江湖諸彦にして本誌の眞價を認めらるゝ君子は漸く廣く、各地重要都市に於ける知名有力者の御後援は漸く深く、會員一同欣快の至りに候

□ 大阪高等商業學校教授伊藤法學士の論文は都合ありて本月號丈休載仕るべく又會員須藤氏の『東大寺建築史』も次號に割愛せるは甚だ不堪遺憾候

□ 『技術家とは何ぞや』の痛論は特に直木工學博士の許可を得たるものに有之、論旨の堂々たる、主張の熱烈なる、斯界に於ける頂門の一針と奉存候

□ 豪壯且つ雄偉なる人格の叫喊は技術界の興隆に寄與せらるゝのみに非ずして曳いては、一國の消長にも影響する處有之べきか、再讀三讀可然存候

□ 本號頁數も前號に劣らぬ紙數を算し申候ため、附錄維納建築條例の後半は次號に揭載することゝいたし候、維納市市街地圖も參考のため挿入致候

□ 本誌御投稿御希望の諸彦は、御申越次第本誌原稿用紙發送仕るべく候、又他の原稿用紙にて御寄稿有之候ても差支無之、奮つて御投稿不堪希望候

□ 本誌購讀御希望の諸彦は、本會事務宛御申越相成度、又購讀料金御發送相成被下候節は、振替口座（大阪三九九七五番）宛御拂込相成度此段申添候

（編輯員一同）

役員及職員

理事長　片岡安（主計）

理事　池田實（編輯）
野村一郎（編輯）
瀬戸文吾（編輯）
日高胖（編輯）
波江悌夫（主記）
松本禹象

編輯補　伊藤正文
佐藤四郎
本田登

書記　岡部顯則
小谷信藏

會員百三十三名、名譽賛助員十八名
終身賛助員三十名、特別賛助員五名
普通賛助員百九十八名

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	一八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表	貳拾五圓

大正七年六月十日印刷（毎月壹回）
大正七年六月十五日發行（十五日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）

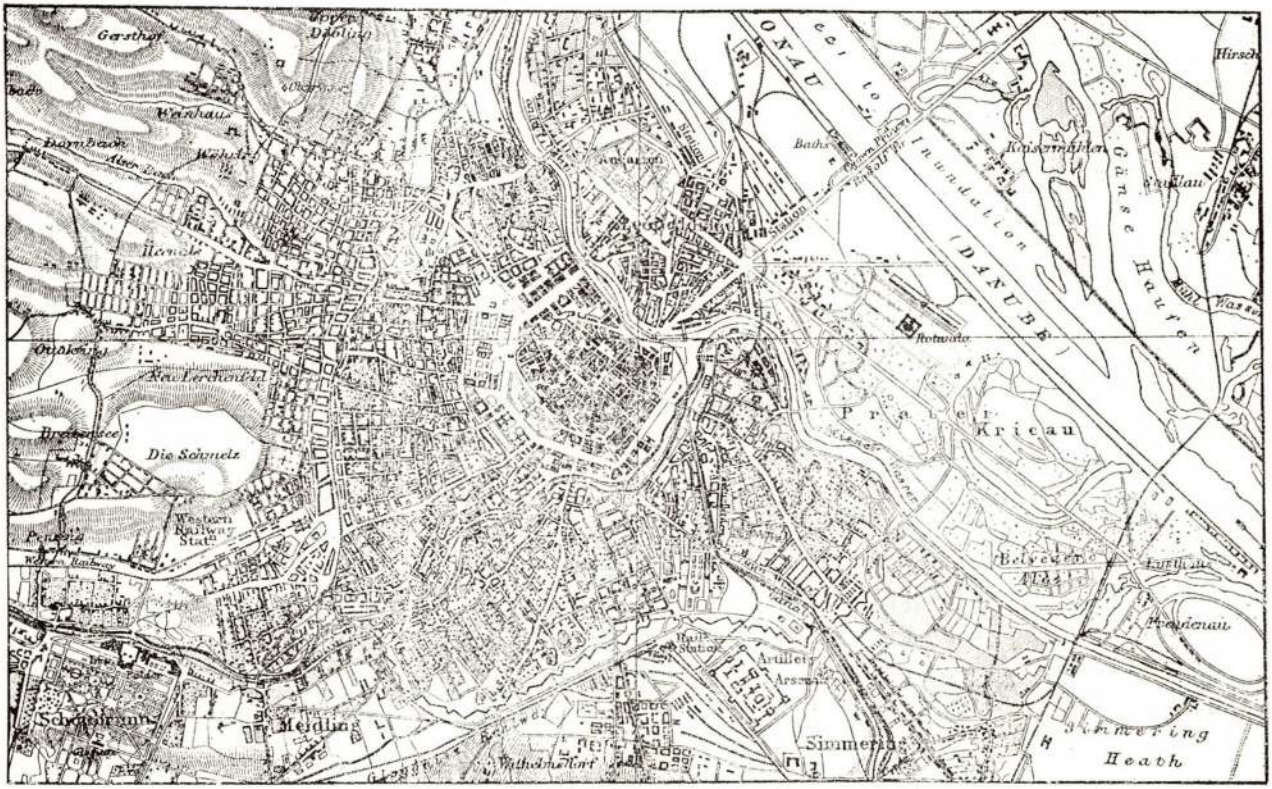
發行兼編輯人　伊藤幸太郎

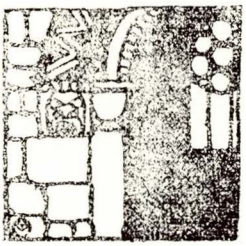
兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地

印刷所　大阪活版所
大阪市東區今橋一丁目十一番地

發行所　關西建築協會
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九、九七五

墺匈國首府維納市建築條令


Gersthof
Währing
Döbling
Währing
Währing
Währing



帝王國首府ウインナ建築條令（上）

千八百八十三年一月十七日法律
第三十五號國法

朕ハ大公國塊國議會ノ建議ニ基キ命令スル事左ノ如シ

第一條千八百六十八年十二月二日附第二十四號國法及千八百六十九年十二月二十日附及千八百七十年國法第一號及第三號ノ帝國首府維納建築條令ハ茲ニ之ヲ廢止シ帝王國首府維納ニ對シ次ノ建築條令ヲ施行ス

第二條朕ガ內務大臣ヲシテ本法ヲ施行セシム

第一章
建築線及已成街路小路及廣場ノ水準確定
建築線及水準ニ關スル

告示ノ請求

第一條 建築出願者ハ許可ニ先チ左ノ場合ニ於テ建築地ノ所有權又ハ地主ノ承諾ヲ證明シテ建築線及水準ノ告示ヲ建築署ニ請求スベシ

1 公共ノ街路ニ接シテ新築增築又ハ改築ヲ施ス場合並ニ街路ニ面シテ圍障ヲ設クルニ當リ其基礎ヲ置クノ必要アル場合

2 比較的小ナル地區又ハ建築地ニ比較的大ナル建築物又ハ建築未成物ヲ分設シタル場合但シ此場合ニ於テハ新タニ街路ヲ開クベキ見込ノ有無ヲ問ハズ

(2) 初メノ場合ニ於テハ(第一)位置圖ヲ提出スルノ必要ナキモ終リノ場合(第二)ニアリテハ出願者ハ規定ノ尺度(第十九條)ヲ以テ調製シタル位置圖ヲ提出シ自己ノ境界及何レノ場合ヲ不論其所有地內ニ設クベキ建築物ヲ精細ニ示スベシ

(3) 建築署ガナスベキ建築線及水準ノ告示ハ兩ッナガラ確定セルモノナルトキハ十五日以內ニ之ヲ行フ若シ未確定ナル場合ニアリテハ三十日以內ニ之ヲ行フベシ

(4) 若シ右ノ期限ニ從フヲ得ザル場合ニアリテハ其期間內ニ出願人ニ對シ書面ヲ以テ遲滯ノ理由ヲ通知スベシ

(5) 指令書ニハ建築線及水準面ヲ固定點上ニ顯シ且精細ナル明記ヲナスベシ

建築線及水準確定ニ關スル特別注意

第二條

1 現在街路ノ及小路ニ於テ建築線ヲ確定ヅル場合ニアリテハ建築署ハ主トシテ注意ヲ用ヒ新建築線ヲシテ可成直線ナラシメ且街路ヲシテ公共ノ通行人員ニ適當ナル幅ヲ有セシメ通常ノ場合ニアリテハ十六米突特別ノ場合ニ限リ十二米突以下トナスヲ得

2 街路水準ヲ檢スル場合ニハ可成現在ノ水準關係ニ顧ミ街路ヲシテ可成小ニシテ且同形ナル傾斜ヲ得セシムル樣ニナスベシ

3 洪水ノ危險ヲ有スル管區ニアリテハ其水準ハ他ノ條令ニ依テ之ヲ定ム

第二章 新街路及廣場ニ對スル建築線及水準ノ確定並ニ建築場內土地ノ區劃

建築場內土地區劃ニ關スル許可

第三條 各建物ノ建築許可出願以前當該官署ニ對シ建築場內土地區劃ノ許可ヲ乞フベシ

(2)右土地ノ區劃トハ左記ノモノヲ云フ

(イ)新タニ建築地ニ通ズベキ又ハ該地ト境ヲ接スベキ道路又ハ廣場ヲ設ケ若クハ已ニ現在セル道路廣場ノ延長ヲ請求シタル場合ノ區劃

(ロ)已ニ現在セル街路又ハ廣場ニ接スル建築地ガ多數ノ建築場トナシ之ガ爲メニ街路又ハ廣場ヲ新設シ若クハ延長セザル場合ノ小區劃

(第十九條後項參照)

右ニ關スル許可願ノ要件

第四條 區劃出願人ハ地圖又ハ土地臺帳抄本ヲ呈出シ詳細ナル位置圖ヲ以テ區劃ヲ明示スベシ此圖ハ五通ヅヽ提出スベキモノニシテ其全地面ノ周圍ノ精密ナル寸法ハ黑色ニテ之ヲ現ハシ建築場ノ寸法ハ赤色トナシ圖面內計算スベキ部分及數字ハ前記色彩(黑及赤色)ニナスベシ而シテ又區劃スベキ土地ニ接シテ現存セル建設物ニハ從來ノ使用目的ヲ附記シ且左記ニ關スル面積計算表ヲ付スベシ

1 區劃前ニ於ケル全地面ノ寸法

2 各區劃地及街路面積ノ寸法

右計算表ハ地面ノ大ナルモノニアリテハ各別ニ調製シテ位置圖ニ添附スルヲ得

(2)區劃地ガ數登記簿ニ渡ルベキ登記原因ヲ有スルモノナルトキハ圖面並ニ表中ニ該登記原因ヲ明示スルヲ要ス但區劃許可前ニ各登記簿中ニ記入セラレタルモノハ此限リニアラズ

(3)現時尙使用中ニ係ル維納ノ登記圖面ニシテ維納ノ尺度ヲ以テ調製シタルモノニ顧ミ今後縮圖ノ際ニハ左ノ規定ヲ適用ス

(4)區劃圖ハ實地ノ三百六十分一ノ尺度ヲ以テ調製スベシ

(5)廣濶ナル地面ニアリテハ一覽圖內ノ區劃ハ七百二十分一又ハ一千四百四十分一ノ尺度ヲ以テ現ハス事ヲ得但此場合ニアリテハ各建築物集團ノ明細圖ハ三百六十分一ヲ以テ作ルベシ

(6)地形圖ニアリテハ長サヲ三百六十分一トナシ高サヲ五倍大(七十二分一)トナスベシ

區劃案ノ審查

第五條 區劃案審查ノ場合ニアリテハ建築署ハ該建築場ガ適當ニシテ且日光空

氣ノ要件ヲ具備セル建物ヲ設クルニ足ルベキ形狀及大サヲ有スルヤ否ヤ又申立ニ係ル新街路ハ可成的直線ニシテ且可成的同形ニシテ僅少ノ傾斜ニ止マリ十六米突以上ノ幅ヲ有スルヤ否ヤ並ニ全体ノ營造物ガ已成又ハ總圖中ニ設計セラレタル他ノ建築物ト適當ノ連絡ヲ有スルモノナルヤ否ヤヲ注意スルモノトス

(2)袋路ハ可成的其成立ヲ禁止スベシ

(3)已ニ建築シアル市區ニアリテハ最小限十六米突（十二米突以下ナルヲ得ズ）以下ノ新街路ヲ設ケントスルニハ其地ノ狀況ガ之ヲ許ス場合ニ限ル

(4)然レドモ建築物ヲ有セザル市區ニ在テハ街路ガ主タル通路ニアラザル場合並ニ該街道ノ全長及兩側ニ於テ建造スベキ家屋ガ半階層（メッツアニン）並ニ下層室ヲ除キ二階ノミヲ有スル場合ニ在テハ其街道幅ヲ十二米突迄減ズル事ヲ得但此場合ニ在テハ最上部蛇腹ノ高サハ地盤ノ最高水準點ヨリ十五米突以上トナス事ヲ得ズ

(5)右終リノ義務即チ家屋ノ其高サヲ二階ニ限ルノ件ハ當該道路ノ兩側ニアル建築區劃地總体ニ付キ登記確定スベキモノトス

(6)前庭付ノ家屋ヲ建築シ得ベキ街道ヲ設クル場合ニ於テ該街道ガ本道若ハ其他主要ノ通路ナラザル限リ最小幅ヲ十米突（人道ヲ含ミ）トナス事ヲ得但此場合ニ於テ建築線ハ相互ニ十八米突以上ノ距離アルヲ要ス「エルケル」前廊、出窓、戸外階段、屋前溜リ臺等ハ多クノ之等建築線前ニアリテ前庭ノ半ハ以上突出セシムル事ヲ得ズ

(7)然レドモ之種前庭ハ街道ノ全長ニ從テ設クベキモノニシテ之ガ爲メニ生ズベキ義務ハ區劃地總体ニ付キ登記確定スルヲ要ス

(8)或土地ヲ區劃シテ建築場トナサントスル場合ニ境界ヲ接スル一數以上ノ建築ガ新設スベキ街路ニ接迫シ其街路ヲシテ規定幅ノ半バヲ以テスルモ直チニ開通スルヲ得ザラシメタルトキハ建築署ハ道幅不足ノ故ヲ以テ若クハ他ニ地方的ノ干係ノ必要上其狹隘ナル部分ニアル建築地ニハ道巾ノ完全マデ建築ヲ許サヾル旨命令スルコトヲ得

新設街路ノ榜示

第六條 區劃許可書ニ規定セル新街路ノ幅員及方向ヲ適當ニ確定センガ爲メ工事着手前建築署ハ街路線及水準ノ榜示ヲナスベシ而ノ此榜示ハ其都度願人ノ請求ニ依リ遲クモ十日以內ニ之ヲ行フ

區劃許可ノ消滅

第七條 區劃許可ハ指令ノ日ヨリ三ケ年內ニ該區劃建築地ニ工事ヲ開始セザルカ又ハ其期間內ニ登記事項ヲ實施セザル場合ニハ其效ヲ失フ

市街擴張地ノ區劃

第八條 市街擴張資本ニ屬スル市街擴張區域ニアル建築地ノ區劃ニ關スル許可ハ維納市會ノ承諾ヲ經テ帝王國內務省之ヲ附與ス

第三章

土地讓與及街道開設建築線變更ニ關スル賠償

第九條 確定建築線ニ應ジテ已ニ現在セル建物又ハ倘建築ナサヾル土地ノ境界線以內ニ或家屋ヲ新築增築又ハ改築ナシ若クハ圍障ヲ退設シ又ハ境界外ニ

前進シテ之等ノ建設ヲ要スルトキ初メノ場合ニアリテハ市ヨリ建築主ニ對シ賠償ヲナシ第二ノ場合ニアリテハ建築主ヨリ市若クハ他ノ土地所有者ニ對シテ此等兩線間ニ於ケル土地讓與ニ付キ相當ノ賠償(引受金)ヲ支拂フベシ

(2)右賠償額取調ベノ爲市ハ讓與地ノ評價ヲ行フベシ此場合ニ於テ該地ガ已ニ建築物ヲ有スルトキ又ハ舊建築線ニ從テ建築スルヲ得ルトキ又ハ徵稅簿中ニ建築中ト記載アルトキニ限リ之ヲ建築地ト査定スル事ヲ得讓與地ガ若シ建築地ニアラザル場合ニアリテハ時ト場所トヲ參照シ通常一般ニ該地ガ利用セラルヽ程度ニ應ジテノミ之ヲ評價スベシ此他建築線ヲ退クルニ依リ殘餘ノ土地ニ價格變動起リタル場合ニアリテハ賠償額確定ノ際其變動價格ヲモ算入スベキモノトス

區劃當時ノ土地讓與

第十條 區劃ノ場合ニ於テハ凡ベテ已存ノ街路又ハ廣場ノ擴張並ニ街路廣場ノ新設ニ要スル場所ハ已定建築線外最高限幅二十三米突ヲ限リ無償ニテ讓與スベシ街路廣場ヲ設クルガ爲メ有ニ超過セル土地ヲ讓與スル場合ニ於テハ**第九條**ノ規定ニ從ヒ市ヨリ之ガ賠償ヲ行フベシ

(2)利害干係ヲ有スル土地所有者ガ街路ノ一方ニノミ建築地ヲ有スル場合ニアリテハ該所有ハ街路用トシテ將來ノ道幅ノ半ハマデ無償ニテ土地ヲ讓與スルノ義務アリ

(3)已存建築地ヲ小區分スルモ之ニ依テ新街路ヲ設クルノ必要ナキ場合ニハ之ヲ以テ區劃ト見做ス事ナシ

係爭ノ賠償額査定

第十一條 賠償額ノ評價ニ付キ和談ヲ遂ゲ能ハザル場合(**第九條**)又ハ賠償ヲ肯ゼザル場合ニアリテハ(**第十條**裁判所ハ無償讓與者クハ有償額ノ爭點ニ付キ判決ヲ與フベシ然レドモ之ガ爲メニ建築立會審議及工事ヲ中止スルコヲ得ズ但場合ニヨリテハ建築出願人ガ市若クハ他人ノ所有地ニ建築ヲ施シテ所有者ノ承諾ヲ證明シ又ハ建築署ガ二人ノ鑑定人ヲシテ査定セシメタル地面引受額ニ對シテ受訴裁判所ニ證據金ヲ呈出シタルモノナルヲ要ス

(2)建築線ヲ引ゾノ方法及讓與スベキ土地ノ指定ニ關スル間題ハ司法手續ノ關スル所ニアラズ

賠償金支拂期限

第十二條 賠償金ハ工事完成後其土地ニ負擔ナキ旨登記簿ノ抄本ヲ得タル場合ニ市ヨリ之ヲ支拂フモノトス

(2)必要ノ場合ニアリテハ市ハ建築出願者ノ特別請求ニ依リテ即時若クハ工事前ニアリテモ賠償金ノ見積リ及手續ヲ行フ但其結果ハ右ノ場合ニ於テ其都度市ガ確定スベキ期間ニ効力ヲ及ボスベキモノトス

街路及溝渠布設

第十三條 市ヨリ建築出願者ニ對シ又ハ該出願者若クハ土地所有者ヨリ市ニ對シテ讓與スベキ地面ハ何レノ場所ヲ問ハズ出願者又ハ土地所有者ニ於テ自己ノ費用ヲ以テ規定水準トナスベシ

(2)工事ノ進行ニ從ヒテ必要ナル街路並ニ建築出願者ガ其建設物ト適當ニ連絡ヲ有セシムベキ主タル溝渠ハ市ニ於テ必ズ之ヲ築設スルノ責アリ

第四章

許可ヲ要スル建築物

第十四條　新築增築改築ヲナシ又ハ必要ノ場合ニ於テ公道若クハ小路ニ面シテ圍障ヲ設ケ並ニ現在ノ建物ニ變更ヲ加ヘ之ガ爲メニ其維持力耐火性及衛生狀態又ハ隣家ノ權利ニ影響ヲ及ボシ又ハ之ニ依テ建物ノ外觀ニ著ルシキ變化ヲ來スベキモノナルトキハ本法ニ從テ許可指令ヲ司ドレル官署（建築主）ノ認可ヲ受ルヲ要ス

届出ニテ足ルベキ建築物

第十五條　些小ノ變更ニアリテハ工事着手前書面ヲ以テ建築署ニ届出ツルヲ以テ足レリトス

(2)建築署ハ其變更ガ**第十四條**ノ規定ニ從フベキモノナリト認メタル場合ニアリテハ工事ノ中止ヲ命ジ設計圖面ヲ提出セシムル事ヲ得

届出ヲ要セザル建築物

第十六條　建物本來ノ構造ニ變更ヲ及ボサヾル修繕ニアリテハ届出ヲ要セズ

建築認可出願書類

第十七條　建築出願人ハ認可願書ト共ニ建築地ガ自己ノ所有ナル事若クハ土地所有者ノ承諾ヲ受ケタルモノナル事ヲ證明シ審査並ニ認可ニ要スベキ建築圖ヲ呈出スベシ

(2)第三者ノ名義ヲ以テナシタル認可願ニハ委任狀ヲ添付スベシ又若シ處理權ヲ有セザル者ヨリ呈出スルモノナルトキハ法定代理人ノ委任狀ヲ添ユベシ

建築圖ノ內容

第十八條　建築圖ハ二通之ヲ呈出スベシ而シテ左ノ事項ヲ含メルモノナルヲ要ス

1 建築物ノ位置ヲ正確ニ認知指定スルニ足ルベキ周邊ノ表示但何レノ場合ヲ問ハズ建築場ニ存在スル建物隣接家屋又ハ土地（其持主及番地ヲ記入スベシ）其他隣接ノ庭園、對向セル街路線隣接街路ノ幅及名稱ヲ記載スベシ

2 建物各階層並ニ土中室及屋下床ノ平面圖及横斷面但各階層ノ天井構造ヲ明示スベシ

(2)土中室平面圖ニハ家事用溝渠及水道暗渠竈坑並ニ井アル場合ニハ其井及ビ家屋溝渠ガ注流スベキ街路ニ通ズル大下水ヲ示シ横斷圖ヲ以テ其關係ヲ適當ニ現ハスベシ

(3)屋根層平面圖ニハ屋根層凡ベテノ壁並ニ防火壁及ビ壁ノ構造種類及樋ノ所在ヲ明示スベシ

3 建物ノ正面及若シ街角ノ建物ニシテ正面ノ交錯アルモノヲ設ケントセバ其正面ノ必要ナル限リ其延長ニ於ケル各種ノ正面ヲ現ハスベシ

4 普通種類ノ鐵構造部ノ表示

(2)但シ特別構造ニ係ルモノナルトキハ稍ヤ大ナル尺度ヲ以テ明細圖ヲ作リ其負擔力計算表ヲモ添付スベシ

(3)現在建物變更許可願（**第十四條**）ノ場合ニアリテハ其圖面ニハ出願許可ノ判定ニ必要ナルモノノミヲ表示スルコトヲ得但シ建築署ノ望ミニ依リテハ全體ノ圖面ヲ差出スヲ要ス

圖面ノ尺度

第十九條　位置圖ハ實地ノ三百六十分一ニシテ測量圖ノ長サハ之ト同比例ニ而シテ其高サハ五倍大（七十二分一）ノ割合ニテ調製スベシ

(2)平面圖正面及斷面ハ實地ノ百分一ノ割合トナスベシ

(3)圖面ハ凡ベテ堅牢ナル圖面紙又ハ蠟布ニ之ヲ描キ符號ヲ完全ニ附スベシ又此他明細圖及構造圖ハ可成的明瞭ナル樣稍ヤ大ナル尺度ヲ以テ之ヲ作ルベシ

第二十條 建築圖ハ建築主及若シ他ニ圖案者アルトキハ其者並ニ建築出願人ニ於テ之ニ署名スルヲ要ス

委員ノ交涉現場見分隣人及其他ノ干係人ノ召喚

第二十一條 建築許可前ニ於テ委員會ノ交涉ヲ開キ建築出願者又ハ其代理人並ニ工事擔當人隣人及其他ノ利害關係人ヲ召喚ス但シ該干係人ノ召喚ハ建築署ノ見込ニ從フモノトス

(2)必要ノ場合ニアリテハ之ニ亦衛生機關部ヲ加フ

(3)此審議ハ通常建築地ニ於テ之ヲ開クベキモ建築署ノ命令ニ依リテハ其出張所ニ於テ亦之ヲ行フ事ヲ得ベシ但シ此場合ニ於テ關係當事者ハ現場ノ見分ヲ請求スルノ權アリ(以下稅表ナリ略之)

建築圖ノ審査

第二十二條 建築圖ハ此條例ノ規定並ニ衛生關係ヲ參考シ精細ナル審査ヲ遂グベシ又建築署ハ工事ガ街路又ハ廣場ヲ著ルシク不体裁ナラシムベキモノナルトキハ之ヲ拒絕スル事ヲ得ルモノトス

異議申立アリタル場合ノ所分

第二十三條 隣人又ハ其他ノ干係人ヨリ建築ニ對シテ異議ノ申立アリタル場合ニ於テハ先ツ示談和解ヲ試ムベシ万一示談不調ニシテ其異議ガ利害關係人ノ私權ニ屬セザル場合ニアリテハ建築署之ガ所分ヲ行フ

(2)若シ右ノ異議ガ私權ノ性質ヲ帶ビタルモノニシテ公共上違反セザルモノナルトキハ私權ヲ害セザル限リニ於テノミ建築ノ許可ヲ與フル事ヲ得但此場合ニ於テハ出願工事ハ公共ノ關係上許可シタルモノナル旨宣言シ爭點ハ之ヲ司法手續ニ依ラシムベシ

(3)私權上ノ異議ハ之ヲ民事裁判所ニ移シ指令書中ニ其旨特記スベシ

(4)民事裁判所ハ公共ノ關係上許可スベキモノト認メタル建築ヲ事件ノ判決ニ至ルマデ中止スベキモノナルヤ又ハ如何ナル條件ヲ附シテ此期間内ニ工事ヲ開始セシメ得ベキヤノ問題ニ付キ決定ヲ與フルノ權ヲ有ス(法此第三百四拾條以下)

建築願指令ノ通知

第二十四條 市會又ハ市參事會ノ協贊ヲ經ズシテ指令スルヲ得ル場合ニアリテハ願書呈出ノ日ヨリ十四日以内ニ建築願ニ對スル指令ヲナスベシ然レドモ若シ許可ニ付キ市會又ハ市參事會ノ協贊ヲ得ベキ場合ニアリテハ三十日以内トス但指令遲滯ノ原因ガ建築出願者ニ迷惑ヲ及ボス場合ハ此限リニアラズ

(2)指令書ニハ建築署ノ認可條件ヲ附記シタル圖面二通ヲ綴合シテ之ヲ出願人ニ下附スス又立會ヲナシタル隣人及其他異議ヲ申立テ若クハ指令ニ關スル通知ヲ特ニ請求シタル干係人ニ對シテモ此旨書面ヲ以テ通知スベシ

又若シ前記期間ニ從フヲ得ザル場合ニアリテハ其期間内ニ於テ遲滯ノ理由ヲ書面ニテ出願人ニ通知スベシ

工場設置ニ對スル許可ノ關係

第二十五條 工場法ニ從フテ工場ヲ設

置セントスル場合ニアリテハ工業警察上其設立ヲ審査スルト可成同時ニ委員會ノ交渉ヲ開止スベシ

(2)若シ右ニ反スル場合ニ於テ工場設置願ニ關係ナル建築ノ許可アリタルトキハ工場設置ノ許可ハ別ニ之ヲ請求セザルベカラズ

建築線及水準ノ榜示及遵守

第二十六條 建築線及水準ハ建築開始前書面ノ請求ニ依リテ建築署（遅クモ請求ノ日ヨリ八日以内ニ）ヲガ榜示ヲナシ附近ノ不動固定點ヲ目標ト定メノ上付キ精密ナル調書ヲ作ルベシ

(2)官署ガ示シタル建築線及水準ノ部面ハ勝守スベキモノトス

建築許可ノ有効期前ニ於ケル建築禁止

第二十七條 建築許可ノ有効期（第二十四條百七條及百九條）及ビ建築ニ依リテ街路線ヲ犯スベキ場合ニアリテハ官署ガ建築線ヲ榜示、（第二十六條）スル以前ニ於テ工事ヲ開始スル事ヲ得ズ

(2)建築委員會決議ニ依リテハ建築許可書ノ下附前ニアリテモ地形ヲナス事ヲ得但之ガ爲メ公共若クハ隣家ノ權利ヲ犯スモノナルトキハ此限リニアラズ

許可ヲ受ケタル設計圖ニ違反スルヲ禁ズ

第二十八條 官署ノ許可ナクシテ認可設計ヲ變更スル事ヲ得ズ但シ左ノ場合ハ此限リニ非ズ已ニ現存セル建物ニアリテモ亦單純ノ届出ヲ要スル（第十五條）變更ノミニ限ル時但右現存建物ノ場合ニアリテモ届出ヲナスヲ要ス

(2)認可設計ニ著ルシキ變更ヲ來シ又ハ建物ノ耐火、衛生狀態又ハ隣者ノ權利ニ影響ヲ及ボスベキ相違ヲ生ズルモノナルトキハ其變更ノ着手前ニ於テ新設計ヲ提出シ之ガ認可ヲ請求スベシ

(3)使用許可前ニ於テ整理セル圖面一通ヲ差出スベシ

右ニ關スル禁止令ノ遵守規則

第二十九條 建築認可證及認可圖面ハ監守吏員ノ閲覧用トシテ常ニ之ヲ建築場ニ備フベシ

帝王城又ハ御苑附近ノ建築物

第三十條 帝王城又ハ御苑附近ニ於テ土地區劃又ハ建築ヲ行ハントスルトキハ當該宮内官ニ其承諾ヲ求ムベシ

鐵道線敷地及鐵道線ニ接スル建築物

第三十一條 鐵道敷地上ニ建築ヲ施シ及ビ已成若クハ工事中ノ鐵道ニ接シ若クハ其防火區域ニ於テ新築、增築又ハ改築ヲ行ハントスル場合ニアリテハ之ニ關スル現行既定ニ從テ取扱フベキモノトス

建築許可ノ有効期限

第三十二條 建築許可書ハ下附ノ日ヨリ起算シ二年以内ニ工事ヲ開止セザルニ依テ効力ヲ失フ

第五章

工事ニ關スル規定

專業者ノ工事擔當

第三十三條 建築主ハ其工事ニ關シ資格ヲ有スルモノニ限リ工事擔當者トシテ採用スベシ若シ其擇定ニ付變更アリタル場合ニハ其都度之ヲ建築署ニ届出ツベシ

工事擔當者ノ責任

第三十四條 工事擔當者（第三十二條ハ

建築材料ノ品質其好ニシテ完全ナルモノヲ使用シ並ニ技術上堅牢ヲ期セル工事ナラスニ付キ充分ナル責任ヲ帶フルモノトス

(2) 但シ工事ニ關係セル參加人ニ過失アル場合ニ於テハ第一項ノ規定ニ拘ハラズ該參加人ハ之ニ付責任ヲ免ルヽ事能ハズ

治安及道路警察上ノ制規

第三十五條 工事擔當者ハ左ノ義務ヲ有ス

1 一定ノ場合ニ於テ書面ヲ以テ工事ノ開始ヲ建築署ニ届出ル事

2 新築及公ノ道路ニ面スル建物ノ部分ヲ修繕スル場合ニアリテハ必ズ制規ノ警戒標ヲ設ケ又夜間建築材料若クハ其他ノ用具ヲ戸外ニ放置スルノ要アル場合ニアリテハ一定監視ノ下ニ必要ノ點燈ヲナスベシ

3 公道ニ接シテ坑ヲ穿ツ場合ニアリテハ之ニ付キ完全ナル警戒ヲナスベシ

4 公道ニ面シテ建築場ニ板圍スル場合ハ板圍ヲ建築線前ニ前進セシメ得ル距離ハ該線ヨリ二米突以内タル事然レ共此場合ニ於テ建築署ハ臨機其尺度ヲ變更スル事ヲ得ルモノトス

5 板圍ノ外部ニ建築材料ヲ貯積スルノ必要アル場合ニハ特ニ建築署ニ申出テ用材置場ノ指示ヲ乞フベシ

(2) 戸外路上ニ於テ砂撰、石灰沸化、「セメント」調合及材料積置ヲナサントフルニハ必ズ建築署ノ承諾ヲ受クベシ

煉瓦石ノ大サ

第三十六條 煉瓦石全形ノ大サハ長サ〇、二九米突幅〇、一四米突厚サ〇、〇六五米突トス屋根、圓天井、舗瓦眞空瓦及其他ノ採形瓦、裝飾瓦ノ大サハ各自臆意タルベシ

壁厚

第三十七條 壁厚ハ荷重ノ大小、材料ノ如何、家屋ノ階數、及其高サ室ノ廣サ床構造ノ如何ニ依リ異ルモノトス、煉瓦壁ハ普通煉瓦石ヲ用ヒ石灰「モルタル」積ニシテ普通住家トシテ次ノ壁厚ヲ定ム但煉瓦壁ノ漆喰等ハ壁厚ト見做セズ

1 煉瓦壁厚ハ半枚ヲ以テ增減ノ單位トシ半枚、壹枚、壹枚半、二枚等ニ壁厚サヲ定ムベシ而シテ次ニ示ス寸法ハ小數ヲ取除キシモノナリ

半枚	〇、一五米
壹枚	〇、三〇米
一枚半	〇、四五米
貳枚	〇、六〇米
二枚半	〇、七五米
三枚	〇、九〇米
三枚半	一、〇五米

2 窓又ハ入口等ノ間ニアル壁幅小ニシテ並煉瓦石灰「モルタル」積ニテ充分ノ耐力ナキトキハ上燒煉瓦石ニテ「セメントモルタル」積ニナスカ又ハ石材又ハ鐵構造ニナスベシ而シテ其事項ハ計畫圖ニ記入スベシ

3 最上階ノ本壁ハ該階室ノ奥行六、五米突マデハ厚四五珊知米突ニシテ六、五米突以上ノ深サヲ有スルトキハ其厚サヲ六〇珊知米突トナスヲ要ス

(2) 「トラム」床ヲ用ヒタル場合ニ在テハ下部各層ノ本壁ハ十五珊知米突ノ厚ヲ加フ而シテ直接ニ相重ナル二ツノ階ニ於テノミ其本壁ガ同一ノ厚サヲ有スル構造スルヲ得之ニ依テ平地ニ接シ存在スル本壁ハ最上階室ノ奥行六、五米突

迄ハ四階建家ニテ七十五珊知三階建ニテ六十珊知タルベシ而シテ若シ最上階室ノ奥行ガ六、五米突以上ナルトキハ四階建ニテ九十珊知、三階建ニテ七十五珊知ヲ最小ノ厚サトナスベキモノトス

(3)「ヂツベル」式床ヲ採用シタル場合ニ於テハ「ヂツベル」木ヲ自由ニ据置スベキ目的ヲ以テ家屋上部第二階ヨリ以下各層最下室ニ至ルマデ其本壁ハ十五珊知米突ツヽノ厚サヲ加フルヲ要ス

(4)圓天井又ハ鐵梁上ノ木造天井ヲ採用シタル場合ニ於テ各階並ニ地階ノ壁ノ厚サハ（地階ノ内法ノ高サガ五米突以上アラザルトキ）最上階室ノ深サ六、五米突マデ四十五珊知ニシテ室ノ深サ之ヨリ大ナルトキハ壁ノ厚サハ六十五珊知トナスヲ要ス但シ此場合ニ於テハ適當ノ材料ヲ使用シテ壁ノ耐力ヲ證明シタルモノナラザルベカラズ

(5)天井ノ構造部ヲ荷フノ用ニ供セザル本壁ノ各部ハ室ノ深サ如何ニ拘ラズ各階並ニ地階ヲ通ジテ四十珊知ノ厚サトナス事ヲ得

4中壁ノ厚サハ三階建ニアリテハ各階共六十珊知、四階建ニアリテハ地階ニ於テ七十五珊知其他ノ層室ニテ六十珊知トナス

(2)鐵梁上ニ天井ヲ作リタル場合ニ於テ壁ノ耐力ヲ證明シタルトキハ最上階ニテ其壁ノ厚サヲ四十五珊知トナス事ヲ得

(3)少數ノ階ヲ有スル建物ニアリテハ「トラム」床圓天井又ハ鐵梁上ノ天井ヲ採用シタル場合ニ於テハ其中壁ノ厚サヲ四十五珊知米突トナス事ヲ得此種建物ニ於ヲ「ヂツベル」床ヲ採用シタル場合ニ於テ中壁ガ尚上部ニ築壁セラルヽモノナルトキハ中壁ニアリテ兩側面十五珊知米突以上ヲ有スル支臺間ニハ常ニ少クトモ三十珊知以上ノ間隔ヲ有セシムベシ故ニ此場合ニ於テ該壁ノ厚サハ六十珊知米突ナリトス

5防火壁ハ下部ヨリ屋根層床組石ニ至ル迄少クトモ三十珊知米突ノ厚サトナスベシ又四階建ニアリテハ平地面ノ部分ニテ四十五珊知米突ノ厚サニ造ルベシ

(2)防火壁ガ同時ニ床臺トシテ使用セラルヽ場合ニアリテハ其必要アル各階ニ於ヲ其厚サヲ四十五珊知トナスベシ

6採光庭壁ハ床構造部ノ直接支臺ナルトキハ四十五珊知米突以上ノ厚サアルヲ要スルモ此他ニアリテハ三十珊知ヲ以テ足ル

7階段壁ハ（建物ノ外部ヲ圍メル場合ニアリテモ）放出シ階段ニアラザル限リ二階以下ノ建物ニアリテハ最小限厚三〇珊知トナシ三階及四階建ニアリテハ四十五珊知トナス事ヲ得

(2)放出階段ヲ採用シタル場合ニ於テハ何階屋ナルヲ問ハズ又階段壁ガ建物ノ外部ヲ圍ムト否トニ關セズ該壁ノ厚サヲ四十五珊知トナス

8建物ノ外部ヲ圍マズ又天井支臺ノ用ニ供セザル廊下壁ハ十五珊知ノ厚サトナス事ヲ得但此地階ニアリテハ少クトモ其厚サ四十珊知ナラザルベカラズ

9仕切壁ハ十五珊知以上ノ厚サトナスベシ若シ該壁ガ一方ニ於テ同時ニ木造天井ノ支臺トナリ且上方ニ築壁スルモノナルトキハ其厚サヲ四十五珊知トナシ其他ニアリテハ三十珊知ニ

テ足レリトス

10 凡ベテ煙突ヲ包括スル内壁ハ少クモ四十五珊知以上ノ厚サヲ有スベシ

11 土中室及根積ニ於ケル本壁ガ混合壁ナル場合ニアリテハ平地ノ部ヨリ十五珊知厚キヲ要ス

(2) 此等壁脚ノ積出シ前方小路ニ面スル部分ハ十五珊知米突以上トナス事ヲ得ズ

(3) 他ノ構造部及右「セメント」鐵等ノ如キ材料ヲ使用シテ前記規定ニ相違シ若クハ第三十六條規定ノ瓦ノ大サニ反スル事件ニ付キテハ建築署ハ之等ノ材料ガ果シテ堅牢ナルヤ否ヤニ關シ提出セラレタル證明ニ基キテ之ガ決定ヲナスモノトス

防火壁

第三十八條 各家屋ハ各階並ニ屋下室ヲ通ジテ各獨立セル防火壁（第三十七條第五號）ヲ續ラシテ隣地ト分離スベシ

(2) 此防火壁ニハ隣地ニ面スル孔口ヲ穿ツ事能ハズ但五ニ接觸セル建物各層室ノ連絡用トシテ官ノ許可ヲ受クルトキハ該壁ニ戸口ヲ設クル事ヲ得ベシ

(3) 屋根ノ木造部ヲ此防火壁中ニ挿入セザルヲ得ザル場合ニアリテハ該壁殘部ノ厚サ尚ホ十五珊知以上ヲ有スル壁厚ナラザルベカラズ

階段

第三十九條 各新築住居ニアリテハ屋根層並ニ其他各住室ヨリ廊下並ニ戸外及土中室ニ通ジ得ベキ耐火階段ヲ有スルヲ要ス

(2) 右ニ付キ建物ノ幅員ニ應ジテ一數以上ノ耐火性本階段ヲ設クルヲ要ス

(3) 此階段ハ一階及二階家ニアリテハ内法ノ廣サ一、一〇米突以上ニシテ數階アル建物ニアリテハ一、二五米突アルヲ要ス

(4) 三階又ハ四階建ニ於テ本階段以外ニ尚一數以上ノ副階段ヲ有スル場合ニアリテハト部二ツノ層樓用副階段ガ耐火性構造ニシテ一、一〇米突以上ノ幅ヲ有スル場合ニ限リ本階段トシテ之ヲ使用スル事ヲ得

(5) 本階段ノ直通セル階段ノ踏面幅ハ二十九珊知以下ナルコトヲ得ズ尖形ヲ有スル踏面板ハ階段壁ヨリ四十珊知ノ距離ニ於テ其幅少クトモ二十九珊知其尖端ニアリテハ十三センチ米突トナスベキモノトス

(6) 跳上ゲノ高サハ層樓ニアリテハ十六珊知土中室及屋根層階段ニアリテハ二十珊知ヲ超ユル事ヲ得ズ

(7) 階段ニハ手摺ヲ備ノベシ而シテ其開放セル位置ニハ高サ一米突以上ノ欄干ヲ設クルヲ要ス

(8) 放出階段ノ欄干ニアリテハ之ニ依テ墜落ヲ防グニ足ルベキ構造トナスベシ又四階建ニアリテハ第一階及第二階ノ階段室ニ荷物ヲ積置ニ供スル設備ヲ要シ三階建ニアリテハ少クトモ第一階ノ階段室ニ之ヲ設クベシ

(9) 特別ノ場合若クハ公ノ建物又ハ裝飾階段ニアリテハ建築署ハ右ノ構造並ニ摑ノ取付ケヲ免ズルコトヲ得

(10) 階段踏場並ニ階段室廣場ノ廊下ハ耐火材料ヲ以テ完全ニ之ヲ造築スベシ

(11) 又本階段ニ通ズル各室連絡用ノ副階段ハ前記條件ニ從フヲ要セズ

(12) 階段出口ニハ落戸（横戸）ヲ設クル事ヲ得ズ

明天井

第四十條　硝子屋根ヲ以テ階段ヲ照スノ必要アル場合ニアリテハ屋根骨ヲ鐵材トナシ周壁上ニ取付ケ該周壁ハ屋根以上ニ突出セシムベシ

(2)右以外ノ室ニ天窓ヲ設ケル場合ニアリテモ亦屋下床ト火災危險ノ連絡ヲ有セザル樣注意スベキモノトス

(3)各硝子屋根ニアリテハ通風口並ニ必要ノ場合之ヲ防護スルニ足ルベキ格子ヲ取付クル樣注意スベシ

廊　下

第四十一條　戸外（建物ノ外壁ニ設ケタルモノ）廊下ガ本階段ト住室トノ連絡用トシテノ使用スルモノナルトキハ全ク耐火性ノ材料ヨリ成リ一、一〇米突以上ノ內法幅ヲ有スルヲ要ス

(2)右ノ廊下ニハ高サ一米突以上ノ耐火性欄干若クハ硝子障子木造壁ヲ設クルヲ要ス

(3)最上階ニ於ケル開放セル廊下ニハ建物ノ屋根ト分離セル防火屋根ヲ設クベシ

住室及各室ノ高サ並ニ

階層ノ數

第四十二條　住室ノ高サハ最上部ノ蛇腹上端マデ通常二十五米突ヲ越ユルコトヲ得ズ而シテ又最上階ノ床ハ街路水準線ヨリ二十米突以上高カラシムベカラズ

(2)地盤ノ傾斜セル所ニアリテハ右ノ高サハ地盤ノ最高水準線ヨリ測定ス

(3)住室ハ採光充分ニシテ通風自在ナルベシ

(4)各住室ノ內法ノ高サハ直天井ニアリテハ三米突以上ナルヲ要ス

(5)直天井ナラザル場合ニアリテハ右ノ高サハ平均尺度ヲ以テ之ヲ計算ス故ニ空間ハ內法三米突ノ高サヲ有スル直天井ニ於ケルト同一大ナリ

(6)住室ハ五個以上ノ階層ヲ有スルヲ得ズ而シテ此場合ニハ地階及半階層アルトキハ之ヲモ算入スルモノトス

(7)官署ノ許可ヲ得テ地階室ヲ上下ニ區劃セントスル場合ニアリテハ之ガ爲メニ生ズル下部又ハ上部ノ區劃モ各々內法ノ高サ三米突以上ヲ有スベキモノトス

(8)家屋ノ高サ階層ノ數及階層ノ高サニ關スル前項規定ハ第十一乃至第十四管區ニアリテハ市會ノ表示セル本道及廣場ニ對シテノミ適用セラルヽモノトス

(9)右管區以外ニ於テハ特別ノ規定ナキ限リ（第七十一條八十二條八十三條）住屋ハ普通地階ヲ除キテ三階以上トナス能ハズ此場合ニ於テモ半階層アルトキハ之ヲ階層トシテ計算ス

(10)此等ノ住屋ニ於ケル各室ハ直天井ノ場合ニ內法高二六米突以上アルヲ要ス但直式ニアラザルモノニアリテハ右ノ高サハ平均尺度ヲ以テ計算ス

內庭及採光庭

第四十三條　庭ノ大サハ其位置ト建物ノ幅員及高サ隣庭ノ形狀周圍ノ場室ノ數及使用法ニ關スルモノニシテ空氣及日光ニ付キテノ衛生的要求ノ充分ニ滿シ居ルヤ否ヤヲ檢スベキモノトス

(2)右ノ場合ニ於テ規則トシテ準據スベキ點ハ各建築場ニ工事ヲ施スニ當リ總面積ノ最小限十五パーセントヲ空地其マヽトナシ此內ノ大部分ヲ內庭トナスニアリ

(3)內庭ハ住室又ハ厨房ニ日光ヲ供給スル用ニ供スルモノニシテ少ナクトモ十二平方米突ノ面積アルヲ要ス

(4)然レドモ内庭ガ單ニ廊下便所又ハ其他ノ住室以外ヲ照ラスニ供用セラルヽモノナルトキハ六平方米突ノ面積ヲ以テ足レリ

(5)便所ノ通風坑ハ其横斷面一平方米突以下トナス事ヲ得ズ

(6)内庭及通風坑ハ通風上可成其下端ガ充分ニ大ナル氣溝ヲ通ジテ街路若クハ外庭ニ通ズル樣ニスベシ

(7)(イ)專ラ住屋ニ供セザル建築塲(ロ)數多ノ建物ノ内庭及採光庭(ハ)建築塲ガ瓦ニ接觸スル地(ニ)現存建物ノ間ニアル建物塲又ハ區劃地ニシテ前記規定ノ宥恕ヲ得ルニアラザレバ工事ヲ施ス能ハザル塲合ニアリテハ建築署ヨリ建築境界及庭ノ大サニ關シ其地ノ狀況ニ相當セル恩典ヲ與フベシ

天井ノ構造

第四十四條 中間床ハ相當ノ耐力ヲ有スル樣之ヲ構造スベシ建築設計案中(第十八條)圖面ヲ以テ顯ハスベキ構造ノ撰定ハ建築主ニ一任シ地階又ハ土中室ニハ木造天井ヲ使用セザル條件ヲ附スベシ

(2)木材ヲ用ユベキ天井構造ニアリテハ厚八珊知ノ灰燼ヲ布キ床ト天井トヲ分離スベシ

(3)最上階ノ天井ハ防火性ナルハ勿論堅牢ニシテ屋根火事ノ際落下シ來ルベキ屋根用材及壁墻ニ對シ充分ノ抵抗力ヲ有スルモノナラザルベカラズ

(4)建築署ガ比較的大ニシテ且特別ナル床構造ノ負擔力ヲ定ムルニ付キ耐重試驗ヲ必要ト認メタル塲合ニ於テハ使用許可前何時ニテモ試驗重量及試驗方法ヲ示シ建築出願者ノ費用ヲ以テ之ヲ實施セシムル事ヲ得

篏込壁及木造壁

第四十五條 煉瓦篏込壁又ハ木造壁ヨリ成レル建築物ハ通常之ヲ禁止ス但特別ノ塲合ニ限リ建築署之ガ認可ヲナス事ヲ得

(2)右ニ反シテ或住室ノ各部ヲ區劃スル目的ヲ有スル塲合ニアリテハ之等ノ篏込壁又ハ木造壁ノ使用ヲ許可ス此塲合ニアリテハ其兩面ニ漆喰ヲ塗ルベシ

(3)焚火塲ノ直近ニアリテハ石造壁ヲ設クベシ

廣告目次

イ、石材商案内　一一
和泉煉瓦株式會社　二五
井上水道工務所　一七
ハ、原安商會　二三
ニ、日本ペイント製造株式會社　一九　裏表紙表
日本石綿盤株式會社　二〇
ヘ、榮進社　二六
米國貿易會社　二四
ト、東松工作所　二五
チ、中央セメント株式會社　二二
オ、大阪窯業株式會社　二九
大阪煖房商會　(前)二
大野式特許品營業所　一二
カ、川島商店　三〇
川崎工場　一三
タ、高田商會　二八
ナ、内外土木建築材料合資會社　一四
ム、村井工業所　一七
ノ、野澤幸三郎　一八
マ、松尾和助商店　四
ケ、建築事務所案内　六
建築請負業者案内　二七
コ、コルク工業合資會社　一六
ア、秋山小林商店　一四
サ、櫻セメント株式會社　(前)一　裏表紙裏
メ、明正社　一〇
ミ、みよし組大阪支店　二一
モ、木材商案内
ス、須賀商會　一五
巣鴨製作所